

令和7年度

あなたの街でミーティング

会議録

苫小牧市総合政策部協働男女平等参画室

令和8年4月

目次

(開催地区)	(掲載ページ)
音羽町・木場町・美園町地区	1
沼ノ端・拓勇地区	14
澄川町・ときわ地区	27
弥生町・錦町・本町・元中野町・旭町地区	40
植苗地区	56
勇払地区	74
錦岡地区	90
山手町・花園町地区	106
しらかば町・豊川町地区	118
大成町・光洋町地区	133

令和7年度あなたの街でミーティング会議録

開催日 令和7年8月19日（火）

地 区 音羽町・木場町・美園町地区

会 場 住吉コミュニティセンター

<市長プレゼン>

◎市長 皆さんこんばんは。改めまして、今日からあなたの街でミーティングということで、始めさせていただきますが、昨年度までは、まちかどミーティングという名前で岩倉市長の時代はやっておりましたけれども、ちょっとネーミングを変えまして、新たな取組の仕方で、各地域で、市民の皆さんの声を聞いていくということをやっていききたいなと思っております。今日から始まります。まさに音羽町、木場町、美園町の地区の皆様を皮切りに、今年度は10地区で開催されます。10月の31日まで2か月間に渡ってですね、このあなたの街でミーティングを続けていきますけれども、忌憚のないご意見を賜ればというふうに思っている次第でございます。

ただいま司会の方からもありましたように、これまでのまちかどミーティングとちょっと趣向を変えている部分がございますけれども、まず私の方から、市の施策に関するトピックスをいくつかお話させていただきまして、それに対しての皆さんのご意見もいただいて、またその他についてもいろいろご意見いただければと思っております。

まず、私も選挙を通じまして、こどもどまんなかのまち作りというものをまず言わせていただいております。今年度、こどもどまんなかアクションという、重点的に取り組むテーマとして展開をしております。

ただやはり各世代に対する、幅広い政策というのはこれからもやっていかなきゃいけないと思っております。それをまず皆さん頭の整理として、ご覧いただきたいのですが、まず子供への予算と、それから高齢者の皆さんへの予算と比較すると、高齢者予算で300億円、子供子育て関連で135億円というようになっておまして、予算全体で、1,250億円という中で、これぐらいの予算額があるというのをまずご認識いただきたいなというふうに思っております。

高齢者福祉に関しては岩倉市政でも、福祉のまちづくりということでやってきておまして、認知症カフェからリハビリ体操、それから予防接種、特に今年度6月から、带状疱疹ワクチンの予防接種というものも新たに始めさせていただきました。これは高齢者の方には結構助かるというふうに言われておまして、とにかく皆さんが健康にお過ごしできるような、介護予防も含めた取組をこれからもやっていきたいなというふうに思っております。

私がこどもどまんなかというお話をさせていただいておりますのは、やっぱり将来に向かってこの街を支えていく人材でもありますから、そういう子供たちが、しっかりと健康的に育って、悩んでもそれを乗り越えていけるような力をつけてもらいたいなというふうに思っています。それはひとえに、今高齢者の方々もそうですし、私も今50歳ですが、これから、定年を迎えて現役を退いていく方々をしっかりと支えていくために、その子供たちを支えていかなければいけないと

いう思いでさせていただいております。そういった意味では、子供のことにしっかりと取り組むことが、高齢者の皆さんの生活をしっかりと支えていくということにもなります。こちらにも四つほど写真を貼らせていただいておりますけれども、皆さんから各個々の町内会地域でも、子供の見守りをしていただいたり、町内会活動を通じて、子供たちへの様々な支援をしていただいていると思いますので、こういったものも、これからもっともっと皆さんにもお力添えをいただきたいなというふうに思っているところでございます。

これは子供と高齢者の皆さんのお話のまとめになりますけれども、子供の声が聞こえる街は未来ある街だということで、特に少子高齢化が進んだ今現在においては、よりこういった子供のことをしっかりとやることが未来あるまちを作っていく、高齢者の皆さん、障害のある方、こういう方々を、支えていくということに繋がるということでもあります。

それからトピックスの2点目でございます。北海道日本ハムファイターズ2軍施設の誘致について、お話をさせていただきたいと思っております。7月7日になります。これ今見たら、令和7年7月7日で777の日だったのですけれども、ファイターズが2軍施設を道内に移転することを発表いたしました。今現在千葉県鎌ヶ谷に2軍の球場があるのですけれども、こちらを北海道に移転するというところで発表しました。

私は、当初2軍の施設の誘致というのが報道ベースで自治体の負担として、100億円ぐらいかかるということも聞いておりましたので、駅前の再開発ですとかその他のいろいろなプロジェクトがある中で、なかなかハードルが高いなというふうには思っておりましたが、この報道を受けて、市民の皆さんの誘致に対する要望というのが、非常に多く私のところに寄せられまして、手書きのお手紙で、数通ぜひやってくださいということも言われました。

やっぱりこのまちづくりを考えますと、市民の皆さんの声をしっかりと拾っていくということは非常に大事だと思っておりますので、これはなかなかハードルが高くてもチャレンジするべきテーマだということで、7月28日の定例記者会見におきまして私の方から、ファイターズの2軍施設の誘致にチャレンジをするということを発表させていただきました。

新聞報道にも出ておりましたけれども、それまで数回にわたって球団側とは接触を持って、球団がどう考えているかというようなことも含めて、いろいろな情報交換をしまいいりました。

大事なのは、やはり場所と、どれぐらい公的な資金が必要なのかということかと思っております。場所をどこにするかというのは非常に大事になってきますので、このあたりは本当に球団側との協議になっていきますが、皆さんにぜひお願いしたいのは、この機運をもっともっと高めていく、そのお手伝いをしていただければというふうに思っております。今、なかなか申し上げられないのですが、これから民間の動きも含めて、いろいろ出てまいりますし、先日白老町の経済界の方44名が私のところに来ていただきまして、ぜひ苫小牧に2軍施設を誘致してほしいとの要望もいただきました。できたら1市4町東胆振、あるいはもうちょっと広げて胆振とか、場合によっては日高とか、広域でこの誘致に対する熱を作っていけたらというふうに思っておりますので、そのあたりは、今後皆さんにもご協力をお願いするということになろうかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

トピックスの3点目でございますけれども、7月30日に発表されました津波警報に関わっての避難のお話でございます。あのときは本当に皆さんにもご不便をおかけしたところあったかと思っておりますけれども、結果的には無事大きな被害もなく終わったということで一安心をしておりますけれども、そのことについて、行政としてもいろいろと課題も見えたところもございましたので、まずは、そのあたりの検証がこれからさらに深まっていくところでございますが、皆さんにまず、あのときの現状も含めて、再度ご認識いただきたい点がありますのでお話したいと思います。

まず7月30日の津波警報の前に、津波注意報が出ておりました。そのときは苫小牧エリアは入っていませんでしたが、9時40分に苫小牧を含めて津波警報が発表されました。その当時の到達予定が10時30分で、最大津波の高さは3mということでございました。それを受けまして、私どもとしては、避難指示を出させていただきまして、10時過ぎに具体的な避難エリアをイメージしていただけるように、国道36号線から南側の津波浸水予想区域という言葉を用いて避難を呼びかけさせていただきました。午後からさらに具体的な地域名を示して、避難情報を発信しております。段階的に避難対象を、縮小していったのですけれども、最後は避難所を9か所指定して、避難させていただきました。

夕方ぐらいの段階では、まだ警報が解除されないのではないか。場合によっては1日かかるかもしれないというようなことも言われておりましたので、各9か所の避難所においては宿泊できるような環境作り、そして晩御飯手配等々、災害協定を結んでいる企業さんと一緒に進めながらその避難所の体制作りに努めてまいりました。

ただ、最終的には8時45分に津波警報が解除されたことから、それに伴って避難指示は解除したということでございまして、それから順々に避難所のほうから、避難されている方もはけていって、避難所のサービスは最終的に撤収したということでございます。

皆さんももしかしたら、おうちのほうでもお持ちになっていたかもしれませんけれども、津波のハザードマップというのがございます。実は津波の警報が出た後、苫小牧市のホームページでアクセスが非常に多くなりまして、ホームページがダウンしてしまいました。その関係で、おそらく避難の参考にしようと思っていた方々が見たかったのが、このハザードマップなんじゃないかなと思いますけれども、これが見られなくなってしまうというのが一つありました。その警報が出た後も、苫小牧市役所もそうですけれども、皆さん高いところに避難をされたということがありまして、報道にも出ましたけれども、緑が丘公園の上の方にも、車がたくさん連なって避難していたということがございました。まず警報が出てすぐに、津波を意識して避難をされたという皆さんの行動は正しいと私は思っておりますし、今後もそうようにしていただきたいです。が、冷静に振り返ってみると、この地盤高に対して津波が今回最大で3mというところで考えますと、あくまでも実際にどうなるかっていうのは別ですけども、地盤高で3mを超えないところであれば2階に上がる必要ももしかしたらなかったのかもしれない、ということが言えると思います。ですから、適切な避難をしていただくという意味において、改めて皆様をお願いしたいのは、今、皆さんのお住まいの地域はどれぐらいの地盤の中で、津波の警報が出た際に、来るのか来ないのかその辺りを、今一度冷静に把握して行動していただけるようになるというふうな

思っているところでございます。

そのような意味において、ホームページからこの画面が出るのですが、皆様にも全戸配布させていただいている紙のものも、ぜひとも今後に向けて見ておいていただきたいということでございます。

もう1点、今非常に熊の出没が、特に北海道で続いていて、直近で2名ほど残念ながら亡くなられた方もいらっしゃるということで、苫小牧市内でも熊の出没があったことから、今後の対策がポイントになってくるかと思っております。報道でもありますけれども、国の方では既に法改正をして、この市街地の中で条件を整えば、いわゆる鉄砲を使って除去できるような制度に変わって、その法の施行というのが9月からになっております。ここに向けて、苫小牧市も国の定めたガイドラインに基づいて、今どういった形で熊に対する駆除も含めて対応していこうかということを検討しているところでございます。おそらく9月に議会がありますけれども、そこでもたくさん議論が出ようかと思えます。とにかく、熊が出るエリアで我々が行動する範囲をどこにしなきゃいけないか、どのようにゾーニングといたしますか、行って良いところ悪いところを分けていくか、あるいは熊が出た際にどのように対応しなきゃいけないか。こういったところを、改めて市民の皆さんに、お示しさせていただいて、再度ご理解をいただいて、対応してもらおうような、そういったことをしていかなければいけないと思っております。

そのことも併せて今日、このあなたの街でミーティングということで、4点私の方からお話をさせていただきましたので、この後何かありましたらご質問なりご意見を賜ればありがたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

<プレゼンに関する意見交換>

○司会 それでは、今市長からプレゼンいただきましたが、今のプレゼンを聞いて、皆様の方からプレゼンについてのご感想ですとか、ご意見などをぜひいただければと思いますけれども、皆さんの方からいかがでしょうか。

◆市民 一つだけ私の方からお願いします。美光町内会ですので、幌内川がありまして、新明町との間の川が大学演習林から流れてきて、フェリーまで続いているんですが、その川が深く土手になって、皆さんからの要望事項にもありますが、木がたくさん生えてきて鹿と熊の通り道になっちゃうんですよ。それをどの程度危機感を持って把握されているのか、いつも危惧しているんですけども、ちょうどトヨタの独身寮が町内会にありまして、そこの2階3階ぐらいから川が見えますので、そのときにやっぱり熊を見たという話もあるんですよ。年に1回か2回は、私のところにも市から電話が入って、注意してくださいということで。広報車で回ったりして町民に注意をして促す、そういうこともしております。以前、亡くなられた岩倉市長に、「なんであそこ獣道になって危険なんだろうね。」って言ったら、市長曰くは、「海水を飲みに行っているんだ。」と、ミネラルを補充しているんだって話はあったんですね。岩倉さんが言ったからそうなんだろうなというそんな感覚を私も今持っていますが、そういうことで日常的に大学演習林から下りてくる熊が多い。こんなことでより対策を強くしていただく必要があるんじゃないか、もし何かあればお話をいただければと思います。

◎市長 はい。ありがとうございます。おっしゃる通り、川っていうのがやっぱり熊の通り道としては気をつけなければいけないところでして、後ほど担当からも補足があればお話をさせていただきますけれども、これから打てる対策っていうのはいくつかある中で、河川の草をしっかりと刈るということで熊の存在を我々も認識しやすくするというようなことを、やっていかなきゃいけないんじゃないかなというふうには思っています。

ですから苫小牧市の河川もあれば、道管理の河川もありますからこれは市と道が一体となって、連携して早急に取り組まなきゃいけないと思っています。あと報道でもありますけど、ゴミを捨てたり、あるいは人によっては熊に餌付けをしてしまうと、観光客なんでしょうけど。そういうふうにすると人間との距離が非常に近くなってしまったり、市街地に来てゴミを拾って食べたりだとかそういうことになりますので、今一度打てる対策一つ一つを整理して市民の皆さんに提示しなきゃいけないと思っております。

今言われた川の対策というのは、早急に手を打たなきゃいけないなというふうには思っております。

◎環境衛生部次長 熊、鹿を担当しております環境衛生部の武田と申します。お世話になっております。

補足で申し上げますと、確かにおっしゃる通り、幌内川はやはり演習林から下流側、海に向かって移動しているコリドーと呼ばれる熊の通路として使われている可能性が高いと認識しています。

先日、確認までできませんでしたが、幌内川で熊を見たという通報を受けて現地に猟友会と確認に行っております。その際にやはり猟友会の担当者も非常に木が生い茂って、熊が身を隠しながら移動できるというそこは危険だという指摘を受けましたので、管理が北海道さんになりますので、早急に熊対策として樹木の伐採管理等していただくように申し入れしていきたいと考えております。以上です。

◆市民 強く要望します。

◎市長 よろしいですか。

○司会 それでは今マイクお持ちします。

◆市民 美光町内会の・・・でございます。先ほど、高齢者に優しい社会を作るということで非常にありがたい話だというふうに思うんですが、今年の4月から、70歳以上の市営バスに対するフリーパスの廃止ですね。これによって非常に行動範囲が狭まったという。要は何かというと、元々要するに回数を乗る方々のほうが、廃止されたわけですね。それで個人負担が非常に増えたということから、2、3名の方ですけれども、確実に行動範囲が狭まったよというお話を聞いています。

このフリーパスは非常にいい制度なんですが、復活させるというようなことは考えていらっしゃるのでしょうか。ぜひ復活させていただきたい。

◎市長 はい、ありがとうございます。このお話は昨年12月の選挙のときもそうですし、就任後も議会議論も含めていろいろご意見いただいております。元々なぜこのようなフリーパスを解消しなきゃいけなくなったかといいますと、道南バスの方で運賃の改定というのがありました。これに伴って、市からいわゆる高齢者の方に対して支援しているフリーパスと、優待乗車証というのが二つあるわけでございますが、両方を、運賃が上がった分を補填するっていうのが非常に財政的

に厳しかったところがあります。

それが1点と、フリーパスの利用者の方が1,000人ほどなのに対して高齢者の優待者証のほう、要するに100円で乗れるほうは、1万9,000人ぐらいいらっしゃいました。かかっている経費は両方とも同じくらい6,000万ずつ使っているということで、いわゆる優待者証、100円で乗れるほうを利用している方が多いにも関わらず、約20分の1の人数の中で同じ費用をかけてやっているところ、公平性だとかいろいろ考えた中で、高齢者の方の足を全くなくすわけではないですけれども、そういう中で適正なその支援のあり方っていうのを検討した結果フリーパスは廃止をさせていただくと判断させていただきました。議会の方でも、いろいろ議論あった中で最終的には議会の承認をいただいたことになっておりますけれども、足確保ということでは、これからもいろいろ検討していかなきゃいけないと思っています。今年度はフリーパスを廃止して初年度ですから、まずその皆さんの様子もとりあえずフリーパスを廃止したままで、様子見させていただいて、どうしても不便だというような方がたくさん出てきたら、それはやっぱり再検討していかなければいけないと思っております。

◆市民 今のお話してフリーパスの人数ですか。人員とですね、それから優待のニーズということで割ったらフリーパスのほうが、1人当たりの負担が増えるよというような話ですが、実は私も優待証を持っています。1回も使ったことありません。そういう人間を母集団にして、本当に頭数で金額を割っていいものでしょうか。私が大体アンケートを基に、概算ですけれどもやってみたら、1人当たりの使用料というのは莫大です。これは遥かにやはりフリーパスも使ってらっしゃる人間が多いんですよ。もう一度これ検討していただきたい。

バスを利用する人、フリーパスの人間に非常に負担がかかるという話であれば、もう少し優待証を使ってらっしゃる方、100円安すぎます。50円でも子供料金でも構わない。全体で、要は上げてですね、何とかバスを多く利用する方、これを補助していただけないでしょうか。

◎市長 いただいたご意見はしっかり受け止めさせていただきますけれどもそういうものも含めて、今後、市民の皆さんの声をしっかり拾いながら、どうするかっていうのは検討していきたいと思いますが、今年度はとりあえず今のまま進めさせていただきたいです。

○司会 それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 美園町・・・です。お願いします。避難所のセキュリティについてちょっとお伺いしたかったんですけども、先日ご案内の通り津波の件で、避難所の開設があったと思います。初期の段階では自由に避難所に入れると思うんですけども、有志のボランティアといいたいでしょうか。そういう方が出入りされたりとか、道だとか市だとかでは要請はしてないとは思いますが、誰でも出入りができてしまうということに対してやっぱり避難所を利用された数名の方からちょっと恐怖を感じたっていう意見もありました。誰でも入れてしまう、有志的な、よかれと思ってそのボランティアをしたいとか、資格があるとか、こういう気持ちの可能性はあると思うんですけども、それは外から見ると計り知れないので、やはり自然とその最初の段階ではどうしてもいろんな人が入っちゃうと思います。関係のないっていうのは失礼なんですけども、避難者じゃない人が入って来られちゃうという状態はちょっといかなものかなと思うので、その辺ちょっと

セキュリティ的な面でちょっとケアしてもらえたらなという。市としても避難所開設するときに、ボランティア募集していませんよっていう、まずは自分のとこに避難してくださいねっていう声かけなり、そういうものがあるといいのかなという意見でございます。よろしくをお願いします。

◎副市長 副市長の木村でございます。・・・さんが言うように、確かに避難所の運営にあたってはセキュリティっていうのが一番大事な部分になると思います。そういった意味ではまず避難者名簿を作成し、そこに避難してきた方でなければそこには入室できないっていうしっかりとした仕切りをつけるのが一番重要だと思っています。ただ、どういった方が勝手に入ってこられたものか、その辺の状況ちょっとわからないのですけども、やはりこれから避難所を開設するに当たっては、・・・さんがおっしゃる課題というものは結構あったと思っておりますので、そこは私たちも検証した上で次に備えたいとは思っております。・・・さんからいただいた意見についても担当の方に伝えて、今後できる部分について対処していきたいというふうに思っています。よろしいでしょうか。

◆市民 そういろいろな問題があるからそれはもう、町内会としては抑える必要はないんだよね。職場の関係もある。

◎副市長 避難所に入ってきた方の名簿をきちんと作らなければ、その後の対応はできませんので、どなたが入ってもいいっていうのはいいんですよ。ただそこに入った人がどういう人なのかっていうところのチェックはしっかりしておかないと、後々これは問題になるということでは言わせていただきます。よろしいでしょうか。

○司会 はい。それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 三光町の・・・と申します。2点です。幌内川関係で、まず熊と鹿の件なんですけれども、5月頃だったと思いますが、幌内川の堤防の柵のところに鹿が1頭、悠々と何か食べていたんですね。それでちょっと珍しいなと思って動画は撮ったんですけど、その後フライパンを叩いて追い返しました。熊を追い返すことはちょっと大変かとは思いますが、鹿ぐらいだったら大きな音でちゃんと追い払った方がいいのかなと感じたのが1点です。

あとやっぱりゴミの投げ捨ては本当にやめて欲しいなっていうふうに思いますね。山の中でも本当にサミット袋に入ったゴミがすごく見られるんですね。北海道あちこち行っても。あれは本当にまずいなと考えています。

あと2点目。津波に関わってです。うちに高齢者対策のための防災放送が聞けるものがあつたんですが、あの日まだ設置していませんでした。ラジオですね。あの四角い白いのですね。設置していなかったの、まずはスマホのメールが鳴り出して、それからラジオつけたら逃げてくださいばかりで、ちょっと慌てているうち、幌内川のそばなので、とりあえず駒澤方向に逃げてみました。いろいろなことが実践的に考えられたんでいい体験だったなとも思うんですけども、1つは、市からの情報だともうちょっと詳しい内容だったので、そんなに慌てる必要はなかったのかなと後で思ったんですね。でもラジオとかテレビつけちゃうと逃げてくださいばかりで、苫小牧もどこまでその情報がテレビに乗ったりするかっていうのはわからないので、皆さんすごく不安だったんじゃないかなと思いました。

それと同時に防災ラジオの普及の問題ですね。うちは高齢者対象でいただいたんですけども、そうじゃない方はどうなっているのかなっていう。必要だなと感じる方には年代問わずご家庭にあった方がいいのかなっていう気がいたしました。

あと、市からの防災メールなんですけれども、状況が変わってないんだけど頻繁に来るんですね。これもちょっとうるさいなと正直思いました。つまり、メールはいつでも見られるので。電話とかと違って、ですから特に変わりなかったら頻繁に出す必要はないんじゃないかと。「状況に変わりはありませんので、慎重に行動してください。」ぐらいでというふうに思った次第です。

駒澤高校に一応避難していた方が結構いらっしゃったんですけど、状況がわからないのでイライラされている方もいらっしゃいました。なので、状況がわからないのはどこも同じだったかとは思いますがどうなんでしょうね。テレビとかなんかとか見られた方がその方は落ち着いたのかなというような気がいたしました。以上です。

◎市長 はい、どうもありがとうございます。まず幌内川の鹿は、危険じゃない範囲内で追い払っていただく。あとさっきも申し上げましたけど、ゴミは熊なんか食べに来たりしますので、ゴミ捨てはやめてもらうように市民の皆さんにももっともっと啓発していかなくちゃいけないと思っております。

2点目の防災の話ですけども、ラジオですね。「逃げてください。」とテレビでも言っていました。それに伴って、皆さんが行動したことは先ほど申し上げた通り、間違っていないと思います。状況に応じていろんな臨機応変に、避難をしていただくということは、大事だと思うのですが、先ほど申し上げた通り、過剰な避難はできればしないほうがよいかと思えます。体力的にも大変だし、今回やっぱり暑かったので、熱中症による二次被害といいますか、そういうものも結構心配なところがありました。避難所でも一緒です。

ですから、それよりは地盤高でちゃんと津波が来ないところであって安全であれば、まずは家で待機というのも一つの避難のあり方だったと思います。先ほども申し上げていますが、ご自身のお住まいの地盤がどれぐらいなのかというのを、今後もしっかりと把握していただいて、報道だとか、防災ラジオからの情報を基にできる限り適正な避難をしていただければというふうに思っております。あと、防災ラジオの普及とか、副市長から何かありますか。

◎副市長 皆さんにいろんな避難なりを災害時にお届けするために屋外スピーカー設置はしておりますけれども、やはりなかなか明瞭に、どこのご自宅にも、窓を閉めてエアコンつけているんですけどいうことになれば、この北海道の住環境を考えると、なかなか全部に行き渡るっていうのは私たちも難しいかなって。ただ聞こえてはいると思うんですけども、それが明瞭に聞こえない。そういったところも踏まえて、文字情報を使った様々なツールを活用して、情報発信をしているわけなんですけれども、あまりにも頻繁すぎて、という話もございました。ただ私たちとしては、なるべく新しい情報をしっかりとお伝えしたいという思いで、発信はさせていただいておりますので、そこはちょっと見ていただいて活用していただければと思っています。

また、スマホを持たない家庭の代替手段としては、個別受信機を配布している部分があります。ただ条件によっては3,000円程度の負担にはなりますけども、その辺は私どもの担当の危機管理室

のほうにお問い合わせいただければ、そういう対応もできると思いますので、それぞれに合った情報の受け方というものを少し皆さんも考えていただきながら行動していただきたいというふうに思っています。何よりも私たちもなるべく多くの方に情報が伝わるように、これからも今回の検証をした上で、さらに知恵を絞ってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

<意見交換>

○司会 はい。それでは一旦ここで市長プレゼンについての意見交換は終了させていただきたいと思ひます。ここから残りの時間は、特にテーマを決めずに、市のまちづくりについて市長との意見交換の時間に移りたいと思ひます。

昨年度まで、事前要望の回答ですとか、地域課題などについてご意見を多くいただひていましたけれども、主に各課の担当者から回答させていただくことが多かったのですが、今年度からできる限り市長と皆様との会話をする機会を充実させたいということから、各課の担当者の出席はなく、市長、副市長、そして私ども事務局の職員で参加させていただひております。そのため実務的なご質問については、ミーティング終了後に事務局の方で内容やご連絡先をお伺ひしますので、後日、各担当者から回答させていただきたいと思ひますので、ご了承ください。

なお、発言する際には、最初にお住まいの町名とお名前を述べてから簡潔なご発言をお願ひいたします。それでは、ご意見などございましたらマイクをお持ちいたしますので、挙手をお願ひしたいと思ひます。皆様の方から何かございますか。

◆市民 住吉泉町内会の・・・と申します。よろしくお願ひいたします。うちの町内の要望11番14番についてちょっとお礼を言ひたいと思ひます。

11番のコミセン前の歩道の状態での改修ということで、全市的に歩道、道路の改修ということで毎年出ていますけれども、予算をつけていただひて、改修していただくということを回答いただきましたので、本当にありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

それと14番についてですけれども、降雪時の歩道の除雪なんですけれども、朝早くから手押し除雪機で、善意の第三者がやっているのか市でやっているのかちょっと区別がつかなかったんですけれど、今回市の方で委託してやっていますということをお知らせいただひて、年々範囲を広くやっただけになるようになったので、町民の方も通学の方の両親の方も大変喜んでいますが、ちょっと贅沢なお願ひでもうちょっと早くならないかっというこで出しました。これについて市民の方も町内の方もありがたいと思ひていますのでお礼申し上げます。本当にありがとうございます。以上です。

◎市長 はい、ありがとうございます。毎年なんですけど、除雪に関わる要望が非常に多いのですが、業者も含めて、できるだけ迅速に進めておりますので、これからもよろしくお願ひしたいと思ひます。

○司会 はい。今マイクお持ちいたします。

◆市民 美光町内会の・・・と申します。今日は市長とそういう話し合いができるという場で今しっかり成果がありました。私は将来に向ける最も大事な問題だなということで、もう担当の方から聞い

ているかもしれませんが、19番で私の方でも要望書として提出しています。当町内会で今50名ほど、私の推測ですが、ニドムのゴルフ場の関連では、ベトナム人が20名ほど、あと土木関係、それからいすゞ自動車が10名ほど。そういうことでのいろんな意味で、他の町内会さんもそうだと思うんですが、外国人が住んでおられます。新聞やテレビのニュースなどでも、外国人の犯罪がものすごく多い。そんなことと、やっぱり一番問題なのは、言葉が通じない。うちの町内会も高齢者については、やっぱりどうやって話しかけたらいいのか。

また、私は差別するわけではないんですが、やっぱり肌の色が違う人が夜突然目の前を通ると、ちょっと驚くっていうか、恐怖を感じる部分もある。こんなことで近所の人から話を聞いています。一番の問題は、やっぱりこれは警察も含めて、把握をきちっとされているのかどうか。市はもちろん把握されているんだろうけども、担当者に聞くと、企業でしかわからないという話もあります。将来において事故が起きてからでは遅いので、その辺は、私の本音としては、やっぱりこれからはもう外国人抜きでは日本の国の経済は成長しない。こういう確信をしていますのでぜひ仲良くしながらですね、やっていけないものかと、そういう取組をぜひ考えてほしいと思うんですが市長いかがでしょう。

◎市長 はい、ありがとうございます。皆さんも報道でお聞きしているかもしれませんが、外国人の苫小牧における住んでいる方の数というのが急増しておりまして、今年の7月末現在で1,697人ということで書いておりますが、全国で5本の指に入るぐらいその増加率は高い街になっております。これはやっぱり苫小牧が、結構雇用を必要とするというのが原因だと思います。企業さんがたくさんあるというのも原因だと思っております。それから、これからの少子高齢化の状況を、人口推計と見ていってもやっぱり外国人材の数というのはもっと増えていく、もしくは増えていかないと仕事が回っていかないということが考えられます。そのような中で、・・・からいただきましたような、心配の声というのは他でも聞こえているところでもあります。住民基本台帳によって把握をしているところは市としてはありますけれども、先ほどありましたように、個人情報観点からまだまだ把握できないところがあったりします。

一方で、多文化共生の指針というものを市としては持っていて、苫小牧でも日本人と外国人の方が一緒に共存していけるように取り組んでいこうというふうに思っております。それでやっぱり理解を促していくことが大事なのだと思いますけれども、時間がかかるとは思いますがそういった取組は市としても、これからもっともっとやっていきたいと思っています。

2、3年前だったのですが、避難訓練を外国人の方向けにやったというのもございまして、今回のような津波の警報に係る避難ですね。外国人の方もここに住んでいる住民ですので、働いている場所にいるのか、あるいは自宅にいらっしゃるのかそれは別ですが、しっかりと避難していただけるようなこともやらなきゃいけませんし、やっぱり一番は言葉の壁ですので、日本語教育を含めて多文化共生を支援するというのは、これからもやっていかなければと思っています。ありがとうございました。

○司会 それでは、前のかたをお願いします。

◆市民 美光町内会・・・と言います。町内会の問題じゃないんですけれども、皆さんご存知の駅前egao

ビルの今後の状況、現在の状況どうなっているのか。これはもう基本的な問題だから、ぜひ市長のプレゼンの中の一つに入れて、説明していただきたいなと思いますけど、今どうなっていますか。今年どうなりますか。

◎市長 ありがとうございます。新聞報道にもありましたけれども、市の方は、計画を作る優先権事業者を選定いたしました。この先はその事業者と契約をいたしまして約1年かけて、駅前の再整備の基本計画を作っていくことになっております。早ければ令和8年度に解体が始まるんじゃないかというふうに以前からも言っておりますので、私としては、今回契約する事業者との間での最終的な中身がどうなるかというのはこれからの協議になりますが、スケジュール的には遅れることないように迅速に進めていきたいなというふうには思っております。

そしてあなたの街でミーティングでもですね、今ご要望ありましたので、市民の皆さんの関心の一つでもありますから今日ちょっとお話できませんでしたが、今後ですね、入れていくようにしたいなと思っております。

○司会 はい。それでは、窓側で前から2番目の方お願いします。

◆市民 明野町内会の・・・です。よろしくお願いします。要望番号8番ですね。01の市立病院へのバスの通院についてなんですけれども、明野の方から01の永福三条線と、それから06の東環状線が通っています。

町内会の会員でバスを利用される方から町内会に、要望が来ました。個人で言ってもなかなか会ってもらえないってことで、停留所の関係ですね。市立病院に入るのは街から入ってきた時にだけ、こちらから街の方へ行く場合は、アールベルアンジェの駐車場付近の停留所を利用しているってことで、その停留所が、道路を越えて真向いに市立病院がありますけれども、ちょうど真ん中ぐらいにあるんですね。ですから利用したいんですけども、遠くて利用できないと。やはりそういう人がいるし、自分も何とか利用したいってことで、それで要望書が来ています。なぜかって言ったら停留所は、往復バスが市立病院へ乗り入れできるようにして欲しいってことなんですよね。

それで、遅延とかっていうのも当然あるかと思うんですけども、病院へ乗り入れるようにすると、Uターンになります。大きな支笏湖道路の交差点を回ったら1分から1分半2分ぐらいになるかもしれませんが、やはり1人でも多く利用してもらうためにも、車なんかも廃止して、自分で手放した人なんかも利用してもらうためにもね、やっぱり何とか考えていただきたいということで要望します。検討していただきたいと思います。

◎市長 はい。市立病院の利用者の方っていうのは本当に市内でも多いので、特にもう車運転されない方の気持ちを考えますと、乗り入れができれば一番いいと思っております。雨のときなんかは特にそうでしょうけれども。運行上安全に支障がないことを前提として、どこまでできるのかちょっと検討させていただきたいと思います。

○司会 はい。それではお時間近づいてきたので今手挙げている方で最後にしたいと思います。よろしくをお願いします。

◆市民 新開明野元町町内会の・・・と申します。よろしくお願いします。ちょっと質問というか、意見

というか要望なんですけども、6番に記載している、町内会情報共有にぜひご尽力いただきたいということです。町内会だよりというものを毎月各々町内会さん、月1なのか月2ぐらいかはちょっとわからないんですけども、この町内会だよりというものを、町連もしくは市役所経由で、ホームページ等とかに一度集約して、各々がやってる活動を市全体に広報できるような仕組みっていうのをより強固にさせていただきたいなど。町連のホームページを見てもなかなか更新されている頻度が、スピード感はあるまいかなというふうに感じています。皆さん一生懸命活動はしているんですけども、やっぱり認知されていないっていうところが、町内会の加入率の低下に繋がっているっていうのはもうひしひしと感じています。そこはやっぱりなかなか個別の町内会でできるのはすごく限界がありますので、そういう集約する町連の事務局とかは市にあるかと思えますので、何かスキームを作ってください、そんなにコストがかかるわけじゃないと思いますので、ただ情報を市に送って、情報発信していただくと。その町連からも苦小牧の広報誌とか、いろいろな形でアナウンスしていただければ、もっともっと認知度が広がって各々の活動がより活発になるんじゃないかなっていう。ちょっとそれぐらいしか案が浮かばないものですから、皆さんのやっている努力を、もっともっと知っていただきたいなというのが1つです。

あと、先ほど市長が、高校生がスマホ教室で高齢者にレクチャーとか、ハザードマップがちょっとダウンしてしまったとか、市のホームページでいろいろな情報を公開しているとか、いろいろこういう流れで、全部通信系といいますか、インターネットっていうのがもう必須になっています。うちの町内会館でも月に一度、子供とか大人に開放する開放日っていうのを作っているんですけども、独自でインターネットをつけてから、やはり会館に来ていただく子供が圧倒的に増えて、また滞在時間もすごく長いんですよね。一度来るともう半日とか、別にスマホをずっといじっているわけじゃないんですけども、やはりインターネットがあるっていうのはすごい武器でして、欲を言えば、市の方でも多少助成していただけないかと。やはり費用も年間10万単位ぐらいでかかってしまいますので、こういうことを整備できればもっともっと人を呼ぶツールっていうのは、会館に呼べる子供、高齢者問わずですね。先ほどの防災の観点からも、いろいろな意味で波及するものが多いんじゃないかなと感じていますので、そこはご検討いただけたらなと思っていますので、よろしく願いいたします。

あと、15番の住吉町内会の記事も確か民報とかでも出ていたかと思うんですけども、ゲーム機を使ったりだとか何とかっていうのがあったような気がしたんですけども、こういうのをもっともっと可能性的には、インターネットとかを使うような遊びだとか、催し物があればもっともっと地域が活性化できるチャンスがすごくあるんじゃないかなというふうに記事を読んで感じましたので、そこもご検討いただければなと思います。

◎市長 はい、ありがとうございます。情報発信大変大事だと思いますし、会館にネットワークを作ったらそんなにやっぱり子供さん来たんですね。

◆市民 月10人、15人ぐらい。10時から18時ぐらいまでカラオケ機器とかもあるので、それも全部結局通信で全部やるので、最新の歌がアップデートされていくっていうような。結局、中学生小学生が要は無償でずっとできるとか。フリーWi-Fiなので、ゲーム機を自分で持ってきて、会館の中で

やるとか。もう本当に小学校低学年から中学生まで来ています。

◎市長 はい、ありがとうございます。町内会だよりにつきましては、町連の方のホームページがあるんですがそっちをもっとやって欲しいなって私は思いましたが、情報発信のあり方についてはいろいろとまた検討させてもらいたいと思います。市のホームページもこの間ダウンしてしまっただので、もうちょっと強くしなきゃいけないとか、というものも含めて、今ご提案があったことも検討していきたいと思います。ありがとうございます。

○司会 それでは、以上で意見交換を終了させていただきます。この後、ミーティングは閉会となりますが、先ほどご案内させていただいた通り、担当課へのご意見ご要望等がございましたら、お帰りの前にこちらの事務局席にお立ち寄りください。内容とご連絡先を確認させていただき、後日担当から連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、あなたの街でミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

令和7年度あなたの街でミーティング会議録

開催日 令和7年8月22日（金）

地 区 沼ノ端・拓勇地区

会 場 東開文化交流サロン

<市長プレゼン>

◎市長 改めまして皆さんこんばんは。今日は、金曜日の何かとご予定が入りそうなこの時間にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。お会いするのが初めての方、いらっしゃるかもしれないんですが、改めて苫小牧市長の金澤でございます。よろしくお願いいたします。

あなたの街でミーティングということで、昨年まではまちかどミーティングという名前で行っておりました、この市民の皆さんの意見を聞く機会を、私も就任してから名前をちょっと変えて、また手法もこれまでよりも若干スリムにした形で、やらせていただこうと思ひまして、今回2回目ということなものですから、よろしくお願いいたします。また、今日もご出席いただいておりますが、市議会議員の町内会長さん、それから・・・町内会長さん、そして・・・さんもご出席いただいておりますけれども、日頃からお世話になっております。ありがとうございます。今回、プレゼンテーマとして5点、まず私からお話をさせていただきたいと思ひます。高齢者福祉、それから日本ハムファイターズ2軍施設の誘致、それから津波警報における避難の考え方、ヒグマ対策を伝え、最後に苫小牧駅前再整備の状況と今後についてお話をさせていただきたいと思っております。

まず、高齢者と子供子育ての予算配分についてございますけれども、私も子供の学び政策を打ち出して選挙を戦わせていただいて、就任後、今年度からの施策にも反映させていただいておりますけれども、まず一般会計、特別会計全体で合わせて1,250億円ぐらいあるところのうち、高齢者関連は300億、子供子育て関連は135億というような予算規模ということ、まず皆さん覚えていただきたいなというふうに思っております。それで子供のことを私がなぜ真ん中に据えてやるかといいますと、ひとえに将来を支えていく人材になりうる人たちだということで、その子たちをしっかりと心も体も育てていくその支援を、もっと厚くしていきたいと思っております。その先には、やはり現役を引退された高齢者の方々を、しっかりと支えていく、働いて税金を納めて、経済的にも、そして地域の様々な力となっていくような人材としても、育てていく。そういったことで、高齢者の皆さんあるいは障害を持っている方々、そういった社会的弱者といいますか、そういった方々をしっかりと支える人材として、育てていきたいという思いで、こどもまんなかと言っております。ここはやはり高齢者の皆さんと、この子供というところは密接にリンクしていくものですから、次のページをお願いしたいんですが、町としても認知症カフェですとかリハビリ体操、予防接種、そして今年度からですね、带状疱疹ワクチンの方も予算化をさせていただきまして、皆さんの健康、予防医療を含めて、取り組みをさせていただいておりますけれども、健康を維持していただきながら、次のページをお願いしたいんですが、子供たちとの交流ですね。

いわゆる子供たちを地域で様々な形で面倒見ていただいたり、あるいは子供たちが様々な取組の中で高校生の灯油配送ボランティアに、左下のところがございますが、これ社会福祉協議会さんの事業としてやっておりますが、このような形で子供たちも高齢者の皆さんに何とか力を尽くして支えていくという、この相互の支えというようなことを、やはりこの町でももっともっと進めていきたいというふうに思っております。これまでも高齢者福祉に関わる事業というのは先ほど、予算ベースで見ていただいても300億円ということでやってきておりますが、これからも、私としても、福祉のまちづくりということは引き続き続けていきたいと思っております。

次のページをお願いしたいんですが、子供の声が聞こえる街ということなんですけれども、これやはり子供と高齢者っていうのは、決して分断しているわけではなくて、やはり先ほど申し上げた通り、密接に関わって支え合ったりしているものだと思っております。私もこのようなことを言っている中でやっぱり、地域によっては、子供が公園で遊んでいる声がうるさいってということで、地域の方からお声をいただいたりもしておりますので、それもしっかりと地域のものとして、子供のそういうものも受けとめてあげつつ、悪いことがあれば指導していただくというようなことも、地域や学校と一体となって取り組んでいくことで、この少子高齢化が進む中で、苫小牧をしっかりと支えていける人材を作っていくというような、こういったことを私もイメージしているものですから、高齢者の皆さんと私のこどもまんなかという政策の関連性みたいなものをまずはお話をさせていただきました。

2点目ですけれども、北海道日本ハムファイターズ2軍施設の誘致についてということでございます。実はこのお話につきましては、私も当初報道ベースで、非常にその自治体負担のいわゆる公費投資の部分が大きいというイメージがあったものですから、あまり積極的には考えていなかったんですが、市民の皆さんの声が非常に高まりが強くて、これは民意だということで、7月の28日に定例記者会見の中でチャレンジするということを発表させていただきました。それに今までに、日本ハムファイターズのほうと何回か、私も出席した場面もありますし、事務方レベルでの打ち合わせ協議も含めて、数回にわたって接触はしておりますけれども、これから本格的に取り組んでいこうと思っております。新聞報道にも先日ありました通り、期成会の結成というのは商工会議所さんが中心となっていて、まずは東胆振の1市4町苫小牧市だけではなくて、まず広域でもやっという動きが出てきております。できれば胆振全体、あるいは日高とかそういうところまで広げていながら、誘致活動できればというふうに私も考えておまして、その辺は経済界と連動しながらやっていきたいと思っております。ただ、そこにいろいろ下段の真ん中に書いております、こちらの2軍道内移転のポイントと書いてありますけれども、こういったいくつかの条件がありますし、最大のポイントはやはり公費でどこまで負担するかということと、それから場所ですね。どこでもいいというわけではなくて、やはり選手の往来、あるいは2軍の試合を見に来るお客さんの利便性等を考えて、駅前も含めてどこがいいのかということは今検討しております。これ市民の皆さんにも、いろんなご意見あると思いますけれども、忌憚のないご意見をまた寄せていただきたいと思います。非常に市民の皆さんの期待の大きいテーマでございますので、私も頑張ってチャレンジをしていきたいと思っております。

3点目でございますが、先般7月30日に発表されました、津波警報に伴う津波避難指示、こういったものがあつたわけでございます。まず上から順に、当日の状況を羅列しておりますけれども、最初注意報で苫小牧エリアは入ってなかったのですが、8時37分の時点で注意報がまず出て、その後9時40分に津波警報に変わったところで苫小牧エリア、範囲に入ったということで、最大の津波の想定は3mというものでございました。その後、オレンジ色のところになりますけれども、10時6分に、津波警報の発表とともに36号線から南のエリアを、浸水の指定区域に指定をいたしまして、避難指示を発表いたしました。それぞれ皆さん避難をいただいたということで経過としては、第一波の到達を受けてその後また避難する指示の場所も、若干変わっていきながらでございますけれども、最終的には36号線と、それからこの沼ノ端まで来る通りのより南側ということで、町名で指示をさせていただいております。最終的に夕方には市内9か所に避難所を集約いたしまして、夕方の時点では、宿泊を伴う可能性もあつたということで、お弁当の手配等々もさせていただきまして、こちら沼ノ端小学校、避難場所としてさせていただいて、私も現場に顔出させていただきました。予想以上に早く津波の警報解除になったものですから、順次、避難されている方もお引き取りいただいていたということでございます。

それで今回、新聞、テレビの報道でもあつたんですが、緑が丘公園に車がたくさん避難されていた、その映像がでておりましたけれども、いろいろと今、市のほうでも今回の避難について検証しております。やはり適正な避難、必要以上の避難をすることはないということもあろうかと思っております。いろいろなほうに向かう道が大渋滞を起こしていたり、あるいは西側の方でも、有珠の沢だとかの高いところに向かう車で渋滞していたということも伺っております。高いところに逃げるといことは非常に大事だったし、正しい判断だったとは思いますが、地盤高がそもそも3mの波が来ない、それよりも高い地盤高のところにはいらっしゃる方は、さらに高いところに避難する必要性っていうのはなかったところもあつたと思うんです。ですからそのあたりでやはり動力だとか、移動するのに、当時特に暑かつたものですから、熱中症のリスクだとか、そういうものを考えたときに、今後に向けては、やはりまずは皆さんのお住まいの地盤高がどれぐらいなのか、働かされている場所がどれぐらいの地盤高なのか、そういったところを、まず把握していただくということが大事かと思っております。

こちら、皆さん全戸配布させていただいているハザードマップがあるんですが、これをすぐぱつと出せた方は確認できたと思います。ただ、市のホームページにアクセスをしまして、ハザードマップを見ようとした方がたくさんいらっしゃって、ダウンしてしまいました。それでなかなか地盤高を把握できなかったという方もいらっしゃるかと思うんです。このあたりは苫小牧市でも、どう対応するかというのは今検討をしているところでございますけれども、とにかく、そのように地盤高と到達する予想の波がどれぐらいだつたというのを、しっかり把握された上で避難をしていただくということを、今後、ご留意いただきたいというふうに思っているところであります。

4つ目ですけれども、ヒグマ対策です。本当に最近報道で多いのがこのヒグマ関連のお話でございます。道内でも最近2名の方が亡くなられたということで報道されております。皆さんご

承知かと思うんですけれども、国の方では法改正を行って、この9月からこの市街地でもクマを撃てる、そのように法が施行されることになっております。苫小牧市としては、今その国のガイドラインに基づいて、苫小牧市独自のガイドラインの作成を検討しております、上段の下の方、真ん中辺に書いておりますけれども、年内の素案策定を今目指して取り組んでいるところであります。ただこれも、クマが出たときに猟師さんがすぐそばにいて、条件が整って駆除できればいいんですけれども、なかなかそういう条件が整わない可能性も多々ございますので、今我々が検討しておりますのは、やっぱりこのクマが活動するっていうのは、川付近なんですね。川付近で移動していくという傾向がありますので、その川付近の草をしっかりと刈って、クマが見えづらいうような状況を作らない。これを市内の河川、あるいは道のほうと連携とりながら、道路河川においても同じようなことをやりながら、クマと人が会わないような、そのような状況を作るということはまずできるのかと思っております、今ちょっと検討しております。

それから、報道でもありますけれども、知床のほうでは観光客なんでしょうか。クマに餌をあげていますが、ゴミを捨てるというのもクマが市街地に来てしまう、そういった原因になります。今年もちょっと暑いですが、暑い中で、どんぐりの実のなり方とかそういうものによっては、やはりクマが食べるものがなくて、市街地に行く可能性が高まるというふうに伺っておりますので、そういった、食べ物をその辺に捨てない。ゴミをしっかりと決まったところに捨てていただくということをしていただくのも、クマ対策の一つでございます。いずれにしても、ここに書いてありますように、市街地の中での作成中のマップで書いてありますが、どの辺にクマが出る、皆さんのお住まいのところはそこでどう気をつけなきゃいけないかというのを、できる限りわかるようにガイドラインを作成して示したいなと思っておりますので、そういう状況だということを皆さんにはご理解いただきたいなと思っております。

そして最後でございます。苫小牧駅前再整備でございます。岩倉前市長も本当に体調が優れない中最後の力を振り絞って、道筋をつけていただきました。私も公約の最重点課題の一つとして位置づけておりますけれども、先般報道ありましたように、事業者がこの度決まりまして、9月に協定の締結をするということになっております。その後、約1年かけて、来年の今ぐらいまでの間に、基本計画を策定することになっております。それが今ここに書いてあるスケジュールになりますけれども、そういう形で早ければ、当初から言っておりますけれども、来年の8月ぐらいから解体にかかれればというようなことでございます。昨今の物価高騰による建設の状況もありますので、なるべく遅れないように進めたいというふうに私も思っておりますけれども、今このようなスケジュール感でいるということを皆さんにはご理解をいただきたいなというふうに思っております。

以上、私から5点お話をさせていただきましたので、何かご意見、ご質問等あれば、忌憚のないご意見をいただければと思っております。よろしく願いいたします。

<プレゼンに関する意見交換>

○司会 はい。それではここから、今のプレゼンを聞いて、ご感想ですとか、ご意見などをいただければと思いますが、皆様の方から何か市長の方にご意見ご感想などがあれば、挙手のほうお願いい

たします。はい。今マイクお持ちいたします。

◆**市民** 東開町内会の・・・です。市長、忙しい中ありがとうございます。説明いただいた中で何点か個人的に聞きたいことがあるんですけど、1つにまず絞らせてもらいます。災害発生時の避難についてですけども、今回多分、直接的に地震が起きた、逃げろ、ではなく、よその国の地震で津波警報が出て避難しましょうということになったと思います。それで、おそらく地震が起きたっていう情報を知らずに、いきなり警報が出たんで上がったのかなって個人的には思ってるんですけども、その際ですね、報道で見たんですけど、某自動車工場の2階に避難しましたとかあったと思うんですけど、苫小牧の地形上どうしても港側に工場がいっぱいあって、あの辺の人が全部取り残されるなって思ったんですよね。その後にライブカメラで見ると、4車線から36号線に合流するところ。ここずっと行ったら合流するところあるじゃないですか。あそこ右折の車でものすごい渋滞になってたと。あとは別な情報だと、36号線に渡ってエネオスのほうに向かっていく道、4車線入って、割とすぐのところを右折するといけると思うんですけど、あそこも、ものすごい渋滞になってました。もう1か所、アンダーパスをくぐっていくところも、渋滞になってました。

ということで避難するときの道が少ないと思うんですよ。その海側で働いてる人っていう、車両に対して道が少ないんじゃないかなと思うんですけども、その辺私がですね、苫小牧に来て約19年経つんですけど、何かあったときに逃げる道少ないなって思ってたんですよ。まさに今回の津波警報発令したときに、本当にでかいのが来た場合に、あの辺の工場で働いてる人、でかいのが来たら大変なことになるって思いながら見てたんですよ。その辺、道とか国とかに言って、道路、多分、高压電線が通ってるんで、オーバーステップ無理だと思うんですけど、アンダーで道を作るとか、何かそういうのを検討されてはどうでしょうかっていう個人的な意見になります。はい、以上です。

◎**市長** まず、ありがとうございます。今後のこととしては、逃げ道をもうちょっと作るっていうのは必要なことだと思いますけれども、今の状況でどこに作れるのかっていう検討が必要かなというところがございます。今回のケースでいきますと、そもそも、今言われていたこの36号線に繋がる道でも、地盤高が3mというような高いところもありますので、そのあたりは冷静に考えて線路の向こうまで行かなくても、避難する必要がなかったところもあったかもしれないので、その辺は先ほど申し上げたように、冷静に判断いただければなというふうには思っておりますけれども、おっしゃられる通り、もっと高い津波が来るようなときに、同じように避難行動としては出てくるのが予想されますので、その辺は状況をいろいろ考えながら各検討していかなくちゃいけないなと思います。これは東側だけじゃなくて、西側も同じような状況になる可能性はありますので、それを検討したいなと思っております。

今日、災害担当が、プロフェッショナルが来てるので何か補足ありますか。

◎**危機管理室主幹** すいません。市役所の危機管理室の川崎と申します。よろしく申し上げます。先ほどスライドの方にもちょっと出てたんですけど、皆さんのほうに資料をお配りされてないということだったので、このハザードマップの見方っていうのも、もう一度説明したいと思います。お

そらく皆さんがご覧になっているのは、こちら側の地図なんじゃないかなと思うんですよね。それで例えば自分の家がどこにあるだろう、自分の家が大体ここだから1mから3mの津波が来るだろう、というようなことは多分皆さん把握されてるんじゃないかなというふうに思うんですけど、こちらのスライドに出てるんですけど、先ほどのハザードマップの裏面に、津波避難エリアマップというものを表記させてもらっています。こちらが、津波避難エリア1、2というふうにわかれています、赤いところ、樽前ですとか錦岡、小糸井、有明、町名が書かれていますんですけど、ここの避難エリア、この赤い部分ですね、海岸沿いの赤い部分が津波警報で避難をしてくださいという地域になるんです。なので、こちら沼ノ端とか東開とかってというのは、津波警報で避難しなくてもいいエリアになってるんですよね。実は、それでこの黄色いほうのエリア2っていうところがかかなり広がってるんですけども、これが大津波警報、要は3m以上の波が来る可能性がありますってところがこの黄色いエリアになります。なので、大津波になるとこちらもちよっと可能性がありますので避難ということになるんですけど、今回の警報に関しては、実は苫小牧市内ほとんど避難エリアじゃないんですよね。大体海岸沿って、5mぐらいの海拔があります。なので、ほとんど波が被らないというような。3mではですね。一応そういうことになっておりますので、まずはこの地図の説明をさせていただきたかったんで、我々も悪かったのはやはり最大の津波がこういうふうになりますってというのは、結構各地で説明させていただいたんですけど、やはりこちらの説明ってあまりしてなかったんですよね。なので、ちよっとそれに関してはこちらの落ち度かなというふうに反省しているところでございます。以上です。

◎市長 そうは言いながらも、実際に津波が来たらどうかっていうのは来てみなきゃわかんないんですよ。3mだと気象庁が発表しても、もしかすると5m6mの津波が来る可能性があるんで、やはりその状況に応じて臨機応変に避難していただくということが大事だと思っております。

◆市民 はい。東開町内会の・・・です。お疲れ様です。今の説明ですけれどもね、ここに来られた方はそういった説明を今聞いているわけです。ですけれども、他の市民の方にそれが行き届いていないことによって、今回こういった混乱を招いたと思います。今後どのように市民の方にそういったことをしていくのか、近々いつ起こるかわかんない内容ですので、その辺は早くやっていただきたいし、今9月に向けてどこも防災訓練なり避難訓練っていうのを計画されてると思います。熱が冷めないうちに、そういったことを市民の方に知らせるというようなことを計画していただきたいというふうには思うんですけども、その辺どうでしょうか。

◎副市長 意見ありがとうございます。おっしゃる通りで、今熱が上がっている状態なので、やっぱり市民の皆様伝えるっていうのは非常に大事だと思います。そこは何か工夫して、どのように伝えるのがいいのかっていうところは、内部で検討した上で、対応したいと思っています。ただ、言えるのはこれ1回やって何か月か経つとまた忘れてしまうっていうのがあるので、やっぱり定期的に市の方から発信するっていうのが必要だと思っていますので、そこはぜひ工夫して、対応してまいりたいと考えていますので、ご理解いただければと思います。

○司会 それでは、はい。お願いします。

◆市民 はい。・・・です。何点かあるんですけど、津波のほうからちよっとお聞きしたいと思います。

津波警報が出たってということで、避難区域ってということでこういう区域出しましたって言った中に、なぜか東開町が入ってたのは、これはどういった狙いがあったのか、そこについてまずお聞きをしたいと思います。

◎**危機管理室主幹** まず一番最初に警報が出たときに、36号線以南っていうふうな指示をさせていただきました。それはなぜかという、まずあの時点で市民の皆様が一番わかるというか、一番すつと入ってくるのは、やはり36号線なのかなというところで、実際に先ほどの地図でいけばもちろん入ってないんですけど、36号線以南ということで、まず発信させていただいたと。そこから徐々にこのエリアにしていったんですけど。まずは36号線っていうところを軸にしたのが一番最初になります。

◆**市民** はい。ありがとうございました。さっきのハザードマップがこれですよ。結局警報を出す出所はやっぱり気象庁が発令するっていうことで、それに準じての対応ということになると、このマップが基準になるかなと思いますので、今後はやっぱりこの市民の対応をこのマップでしなきゃいけないと思うんですよ。最大波高の浸水マップはとりあえず置いて、今後は発令に対してどう対応するかっていうと、このエリアマップが一番共通の言語として使うべきかなっていうふうに思いますので、対応よろしくお願ひしたいと思います。これ答弁いいです。屋上に避難した会社から結構言われてますので、その辺のところ。あとは勇払って広すぎるっていうことで、非常にその解釈に困ったっていうことがありますんで、これをぜひマップを基準に判断していただきたいっていうところが、一つよろしくお願ひしたいと思います。

あとですね、先ほどいろいろ子供と高齢者のふれあいの場ということで、灯油ボランティアのご紹介あったんですけど、東開町も市営住宅が8棟ありまして、灯油ボランティアやってます。

高校がないものですから、ここはですね、企業ボランティアでやっていただいて、ぜひそういったところで金澤市長に知っておいていただきたいなと思って、石油共同備蓄さんとトヨタ北海道さんでやって、一番運んでる量が多いそうです。ぜひどっかで紹介してくれたらありがたいなと思います。

ファイターズの件なんですけども、これ期待していいのかなっていうのがまず一つと、あとファイターズ側として、どこっていうのが多分あると思うんですけど、どういったところを要望されてるのかっていうところをちょっとお聞きしたいなと思います。

◎**市長** はい、ありがとうございます。まず灯油ボランティアなんですけど、昨年度終わりぐらいに灯油ボランティアをしていただいた方々が表敬訪問してくれました。こちらからお礼みたいなものもさせていただいたので、そのときにこの東開地区と東開町の方に、やっていただいた企業さんも教えていただいておりますので、本当にトヨタさんはじめ、心から感謝申し上げたいというふうに思います。

それとファイターズなんですけど、なかなかここでまだ言えないところもあるんですけども、ファイターズ側はこんな感じだよ。絵も上の方に3つございますけれども、球場の設置だけではなくて、住居ですとか、商業施設ですとかそういうものを含めた1つの街のようなものをイメージとして持っておられるということは伺っております。であるがゆえに、やはり先ほど申し上

げたアクセスですとかそういったところも含めて、日ハムさんが考えるっていう場所を、我々の方で提案できるかどうかっていうところはまずあるかと思っております。あとやはりそれに伴って公的なお金の投資が、どれぐらいになるのかっていうところはまだはっきりわかってないところもあります。この辺はやはり球団との協議を重ねていきながら詰まっていくところかなというふうに思っております。いずれにしても恵庭、江別、他千歳さんとかいろいろありますし動きもでてきているところありますので、そういったところも競合になろうかと思いますが、私は本当に誘致したいと思ってですね。ただハードルがかなり高いところもあります。これは苫小牧だけじゃなくて他の町も同じだと思っておりますが、そういう意味でチャレンジということで、表明させていただいておりますので、ぜひ地域も挙げて応援いただけたらなというふうに思っております。

◆市民 なんだろ、町並みもいいんですけど、どこでもいいってわけじゃないと思うんですよ。いや、どこでもいいんだったら「沼ノ端に土地あるよ。」って言ってもいいのかなと思ったんですよ。何ヘクタールぐらいなのかなって。いろんなところを四角で囲ってみると大体多分8ヘクタールはいくかなと思うと、かなり難しいなっていうのがあって、今日報道の人いるんですかね。ここは書くかどうかは別としてですけども、駅の北側に何かいろんな土地あるんで、人の土地ですけど。あんまり活用されてないところがあるので、そこがいいなって。

塀の向こう側の話ですけど。と思ってました。ぜひ町田副市長に交渉力を発揮していただいて、前に進むことを期待しています。よろしくをお願いします。

◎副市長 日ハムの2軍の誘致につきましては、本当に先ほど市長からもありましたけど、苫小牧市としてはぜひチャレンジしたいというふうに考えてございます。土地につきましては様々、いろんな候補地が苫小牧市の中にもありまして、私有地もありますし、民間の土地も当然含めて考えなければいけないと。これは相手のあることなのでなかなか簡単にはいかないですけども、様々な可能性を検討した上で、日ハムさんに提案をしたいというふうに考えてございます。それで日ハムさんとの協議の中で、言われてはいないですけどもやっぱり感じることは、行政がチャレンジするということと、地元の地域の人たちが歓迎してくれる。ここがないとなかなか来てくれないと思いますので、今会議所さんの方で期成会を立ち上げてくれるというお話がありますので、ぜひ市民の皆様の後押しをしていただければ、より一層可能性が高まるかなと思っています。土地はおそらく、基本的に2軍の施設っていうのは他の球団を見ますと、当然メインの球場があってサブ球場があって、内野だけの練習球場があって、そこに室内練習場、選手寮ということ考えると最低でも10ヘクタールが必要なかなということ、かなり広い土地が必要になります。その辺を考えて、市の内部で協議して、仮にもし民間の土地となれば、そこと交渉するっていうことも今後発生する可能性もございますけども、何とか誘致に向けてチャレンジしてまいりたいと考えておりますので、ぜひ皆さんには応援をしていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

<意見交換>

○司会 それでは一旦ここでプレゼンについての意見交換は終了させていただきます。ここからは特に

テーマを決めず、市のまちづくりについて市長との意見交換の時間となります。昨年度まで、事前要望の回答や地域課題などについてご意見を多くいただいており、各課の担当者から回答させていただくことが多かったんですが、今年度からできる限り市長と皆様との対話をする機会を充実させたいとのことから、今回出席しているのが市長、副市長、そしてこちらに並んで事務局職員で参加させていただいておりますので、実務的なご質問については、ミーティング終了後に事務局のほうで内容やご連絡先をお伺いし、後日、各担当からご回答させていただきたいと思いますので、ご了承ください。なお、発言する際には、最初にお住まいの町名とお名前を述べてから、簡潔なご発言をお願いいたします。それでは、ご意見などございましたら、マイクをお持ちしますので、挙手をお願いします。はい、今マイクお持ちいたします。

◆市民 また私ですいません。東開町内会の・・・です。私ですね、先ほども話しましたが苦小牧に来て19年。引っ越してすごよかったなど。苦小牧とても気に入ってます。それ以前の街が嫌いってわけではないです。あえて言わないですけど、嫌いってわけではなくて苦小牧はすごくいい場所だなんて思ってますね。

苦小牧に来て、ゴミ収集が戸別じゃないことにまず最初驚いたんですよ。以前いた市は戸別収集なんですよ、燃えるゴミだけ戸別。資源ゴミは集団のところで作られててそこに出すというスタイルだったんですけど。苦小牧に来たときに、戸別じゃないのかっていうのでまず最初は戸惑いました。今だいがもう慣れたんですけど、今度生活して、1人だったのが、2人に増え、子供も増え、ベビーカー押して散歩するようになったりしたときに気づいたんですけど、ゴミステーションが邪魔で歩道をまともに歩けないっていうのが多発してるんですよ。そのためにベビーカーをよっこいしょって車道に下ろして、また数m歩いたらよっこいしょって歩道に上げるというのをすると。あと最近見かけるのが、自転車の小学生とか中学生が、ゴミステーションがあるから、ずっと車道の脇、住宅街の道路を走っている。そこに対して町内会のほうに私から発言してるんですけど、生活道路、来年の9月ぐらいまで道路交通法変わらないんで、結構飛ばしてる車がいっぱいいるんですよ。抜け道に使える道がいっぱいあるんですよ、この辺。言ってみれば、動画撮って距離を測って、はじきの法則で何キロ出したって計算したら、60キロで住宅街を走ってるやつがいるんですよ。非常に危ないなど。そういう人たちが走ってるところに子供がぱっと出てきたら多分止まれないんで100%轢かれるでしょうね、という危険性が多いと思うんですよ。ゴミ、戸別収集トライアルやって駄目でしたっていうのが多分何年か前にあったと思うんですけど、このゴミステーションの場所ですね。歩道占領するんじゃなくて横長にして歩道半分程度にしか埋まりませんよというスタイルに変えないかなと。木製のがドーンと置いてあるんで簡単に動かさないですし、その辺を考えていただきたいと思うのがまず1つ。私こういうことめっちゃくちゃ発言するタイプなんで、同じ町内会の人には知ってると思うんですけど、すいません。

もう1個が、苦小牧で結構いろんなイベントをやってきましたよね。この先で言うと未来フェストとかですけど、その辺のアピール力が足りないなど、住んでて思うんですよ。キッチンカー、キラキラ公園の中でやったのとかもそれなりに人が来てるんですけど、あまりイベントやってま

すというような発信力がないので、苫小牧市って通過する街だよって地元の友達に言われたり。結構いろんなことやってるよって言ったりもしてるんですけど、その辺の発信力をもうちょっと強くしたらもっと魅力的になるんじゃないのかなと思います。

もう1点なんですけど、スポーツ関係なので、日ハムの話とは関連してないんですけど、苫小牧市ってスポーツの全国大会とか行く人に助成金を出してると思うんですよ。全国に行く場合に小学生が3万円とか、金額が非常に少ないんじゃないかなと思います。言ってしまうと、小学生だけの場合は保護者も同伴するので、飛行機代、例えばですけど、どこに行くのを想定して3万にしたんですかというところがちょっと気になる部分ではあるんですよ。全国大会って、持ち回りなんで、例えばですけど最近だとバスケットの大会が熊本でありました。北海道から熊本まで行きましょってなったら乗り継ぎになります。必ず前乗りなんで1泊します。ただ大会で勝ち上がったら2泊3泊続きますってなった時に、少ないと感じると思うんですよ。言ってしまうと甲子園行っちゃうような学校とかの場合は、3万円じゃ全然足りないと思うんですよ。

それを大会の規模とか移動距離、場所によって補助する金額が変わるような対応ってできないのかなって思ったので、まずはこの3点ですね、ちょっとお話をさせていただきました。

◎市長 はい、・・・さんありがとうございます。まずゴミ収集についてですが、数年前に僕も議員の頃だったんですけど、あれ三光町ですかね。自転車乗っている子が引っかけ、ちょっと怪我したっていうのがあって。あれは鉄製のゴミステーションだったんですけども。歩道に置くゴミステーションのあり方とかっていうのはいろいろ検討していかなくちゃいけないので、今内部でいろいろと検討はしております。先ほどの60キロで走っている車とかっていうのは、本当に道交法守ってもらうようにそこはお願いするしかないと思いますし、あと子供たちが自転車で歩道車道を走る際も、そこは本当に子供たちにも交通安全を促していくという方法も、1つ事故に遭わない方法なんじゃないかなと思いますので。確かにゴミ収集、ステーションのあり方とともに関わってくる問題ではあると思うので、今受けたご指摘は受け止めて、内部でもどうするか検討したいと思います。

それからイベントについてのアピールが足りないということなんですけど、今年私も、市長就任して初めていろんなイベントも改めて出ておりますけども、来るお客さんの数が少ないって感じるときに、結構イベントがかぶってたりすることもあるものですから、そういうのは原因があるのかなと思いますけれども、確かにアピールの仕方っていうのはもっともっと工夫の仕方があると思いますし、先日ですかね。ミライフエスの告知というかアピールを、エスコンフィールドでやってきました。これは観光協会のほうでやったんですけども、3万人ぐらいお客さん来ていましたけど、そこで未来フェスト9月13、14日ですね。アピールさせていただいたり、こないだ白鳥アリーナ、ネピアアリーナの駐車場で水夏フェスっていうのがあったんですけど、そこを利用していただいてミライフエスのアピールをさせていただいたり様々な媒体、機会をとらまえてですね、アピールをやってきているんですけども、私はもっともっとやりようがあると思いますので、そこはちょっとまた工夫させていただきたいなと思います。

スポーツの助成ですけども、基本的には市として助成金を出してあげたいという気持ちは本

当にあるんですけど、一つは財政的なところもあって、広く基準に基づいて助成をしないとけないし、駒大苫小牧が甲子園行ったときなんかは、OBが必死になってお金を集めて、一戦一戦勝つたびにまた集めてっていうことをやっていたので、そういう協力のもとで、何とかまずやっていただくのが基本かなというふうに思っています。ただスポーツ都市宣言でもありますし、スポーツでいろんなことを盛り上げていきたいし、今千葉ロッテにいる菊地史玖っていう選手がこの拓勇の出身ですね、私の後輩の息子でもあるんですけど、彼みたいな選手が出て、今後頑張ってもらえると本当に嬉しいし、苫小牧の知名度も上がりますから、そういうのを応援するってことはこれからも続けていきたいと思えます。場所によって金額を変えるかどうか、ちょっと財政のところにかかってくるので、これも宿題にさせていただきたいと思えます。ありがとうございます。

○司会 それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。はい。今マイクお持ちいたします。

◆市民 東開町の・・・です。先ほどちょっと出てましたけれど、子ども食堂、高齢者が収穫した農作物を子ども食堂へ、なかなか例としてはいいんですけども、こういったものってというのは夏場の一過性の供給のものかと思えます。実際に今苫小牧で子ども食堂なるものが地域食堂も含めてですね、どのくらいあるのか、また活動されている方たちに苫小牧市としてはどのような関わりを持っているのか、ちょっとその辺聞かせていただきたいと思えます。

◎市長 今ちょっと件数を調べたいと思っておりますが、かなり子ども食堂が増えておまして。ただですね、苫小牧市としてやっている食堂はないんです。民間なんですけども、それを支援するのに、昨年でしたら一件50万、年間の回数をこれ以上、例えば10回以上食堂を開催してくださいって条件を付けて選定して、そういうところの助成を出しています。今年度はもっと厚くして、予算組んでやっておりますので、そういう助成金は既にやっております。何件か今すぐ出てこないですけど。

◆市民 はい、わかりました。今お米騒動もありました。物価も上がってます。それを運営されている方々がちょっと大変な思いをしてやられているというような話も聞いてます。これ以上やりにくくなると、いわゆるクラファンを使ってでも、皆さんから寄付をいただいてでも運営していきたいというような、そういった有志がいる中でですね、このまま先細りになってやっていけなくなるようなことが出てくると、ちょっとその辺は市としても力を入れてやるべきだなんていうふうには思ってますので、その辺のところ、今後の予算取りの中でも検討していただきたいと思います。

◎市長 はい、・・・さんありがとうございます。おっしゃる通りですね、子ども食堂、数年前始まったばかりのときは、本当に食べることに課題のあるような子が来て、ごちそうになってというようなところだったんですが、もう今や居場所作りにもなっております。ちょっと環境的に厳しい、それは食というだけじゃなくて、いろんな意味で。来てそこで時間を過ごして、ある意味では児童相談所に行っても心を開かない子が、子ども食堂で食事を食べながら、職員さんと交流を持ちながらいろんな悩みを打ち明けたりとか、そういう居場所作りの場にもなっておりますので、やっぱり全て公共でやるっていうのは限界があるものですから、子ども食堂の位置づけというのはそ

ういう広がりが出てきておりますし、民間事業者が参入してきておりますので、我々もできる限り支援をして、子供たちの環境作りをさらに進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

○司会 それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。はい。今マイクお持ちいたします。

◆市民 拓勇西町の・・・といいます。お世話になっております。带状疱疹による自己負担が今回からですけど少なくなって、すごく感謝しております。ただ、6月にですね、・・・が带状疱疹になりまして、85歳以上なんですけどワクチン打つ前になってしまったんですが、その带状疱疹も出る場所によってかなり症状が違って口の中から出始めて、最初带状疱疹だって口の中だったのでわからなくて、ちょっと市立病院に金曜日に行って、高齢だったので、大きい病院のほうがいいなと思って市立病院に行ったら、やっぱり予約がないとできないって言われて、月曜日の予約を取って帰ってきて、この金土日の間でどんどんひどくなり、物も食べれなくて、月曜日に行ったときにはもう即入院って言われて入院させてもらったんですけど、やっぱり80を超えてからの带状疱疹ですごくつらくて大変だったので、今回の带状疱疹の個人の負担は65歳から5年後のその年にしか打てないじゃないですか。ですけど、やっぱり80過ぎたら85、90まで打てないというふうになるので、これ何とか80過ぎたら何歳でもってというふうにならないのかなというふうにはすごく思っていたところ、つい最近3人ぐらい立て続けに带状疱疹になったという話を聞いたんですよね。どんどん带状疱疹になる人もすごい増えていってるなというふうに感じたのと、その中には20代の子もなったって聞いたので、その20代の子もこんなに带状疱疹ってつらいんだって。なので、やっぱりつらいんだなというふうに思ったので、やっとなんか自己負担少なくなったばかりなんですけど、もう1回ちょっと負担金を少なくしてくれるとか、80になったら何歳でも打てるというふうにしていきたいなという意見です。

◎市長 はい、ご意見ありがとうございます。本当に带状疱疹は今言われたように、高齢者の方は特に体への負担が、発症した場合に大きいというのは聞いておまして、そういうのもあって、今回予算化をさせていただいたところでございます。その対象の方の広がりをどうするかというのは本当に財源の話になってしまうものですから、そこは今年度最初に実施をさせていただいており、初年度なものですから、そこから少しまたそういった患者の皆さんの状況を聞きながら、今後に向けては検討していきたいというふうに思っております。先ほど応急的な病院にかかれるかどうかというところは、いろいろテクニク的なところあるんですけども、本当にもう苦しいのであれば救急車を呼んでいただいて、予約なしでも見ていただけるような方法をとるというのも必要なことだと思いますので、参考にさせていただけたらというふうに思います。ありがとうございました。

○司会 それではお時間となりましたので、これで意見交換については終了させていただきたいと思っております。この後ミーティングは閉会となりますが、先ほどご案内させていただいた通り、担当課へのご意見ご要望等がございましたら、お帰りの際にこちらの事務局席にお立ち寄りください。内容と絡先を確認させていただき、後日、担当課の方から連絡させていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして、あなたの街でミーティングを終

了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

令和7年度あなたの街でミーティング会議録

開催日 令和7年8月25日（月）

地 区 澄川町・柏木町地区

会 場 川沿町総合福祉会館

<市長プレゼン>

◎市長 改めまして皆さんこんばんは。苫小牧市長の金澤でございます。今日は大変お忙しい中、皆様にはお集まりをいただきましてありがとうございます。今司会からもありましたように私も市長就任、昨年12月でしたけれども、岩倉前市長が行ってございましたまちかどミーティングを、名前と手法を若干変えながら、皆さんのご意見を聞く機会をいただきたいということで、この澄川柏木町地区については、全体の第3番目ということで、あなたの街でミーティングということでいろいろお話をさせていただきたいと思っております。私の方からまずプレゼンテーマといたしまして大きく5点、お話をさせていただいて、それに対する皆さんのご意見等々いただいて、あとはその他ということで忌憚のないご意見いただけたらというふうに思っております。議会も近づいておりまして、今日・・・町内会長、あと・・・会長も来ていただいておりますが、議会でもおそらくこのテーマがいろいろと議論になるんじゃないかというふうに思っておりまして、何かあったら今日で全部これで終わらせていただけるように思っております。

今回、プレゼンテーマとして5点、まず私からお話をさせていただきたいと思っております。高齢者福祉、それから日本ハムファイターズ2軍施設の誘致、それから津波警報における避難の考え方、ヒグマ対策を伝え、最後に苫小牧駅前再整備の状況と今後についてお話をさせていただきたいと思っております。

まず、高齢者と子供子育ての予算配分についてでございますけれども、私も子供の学び政策を打ち出して選挙を戦わせていただいて、就任後、今年度からの施策にも反映させていただいておりますけれども、まず一般会計、特別会計全体で合わせて1,250億円ぐらいあるところのうち、高齢者関連は300億、子供子育て関連は135億というような予算規模ということ、まず皆さん覚えていただきたいなというふうに思っております。それで子供のことを私がなぜ真ん中に据えてやるかといいますと、ひとえに将来を支えていく人材になりうる人たちだということで、その子たちをしっかりと心も体も育てていくその支援を、もっと厚くしていきたいと思っております。その先には、やはり現役を引退された高齢者の方を、しっかりと支えていく、働いて税金を納めて、経済的にも、そして地域の様々な力となっていくような人材としても、育てていく。そういったことで、高齢者の皆さんあるいは障害を持っている方々、そういった社会的弱者といいますか、そういった方々をしっかりと支える人材として、育てていきたいという思いで、こどもまんなかと言っております。ここはやはり高齢者の皆さんと、この子供というところは密接にリンクしていくものですから、次のページをお願いしたいんですが、町としても認知症カフェですとかシルバーリハビリ体操、予防接種、そして今年度からですね、带状疱疹ワクチンの方も予算化をさせて

いただきまして、皆さんの健康、予防医療を含めて、取組をさせていただいておりますけれども、健康を維持していただきながら、次のページをお願いしたいんですが、子供たちとの交流ですね。いわゆる子供たちを地域で様々な形で面倒見ていただいたり、あるいは子供たちが様々な取組の中で高校生の灯油配送ボランティアに、左下のところでございますが、これ社会福祉協議会さんの事業としてやっておりますが、このような形で子供たちも高齢者の皆さんに何とか力を尽くして支えていくという、この相互の支えというようなことを、やはりこの町でももっともっと進めていきたいというふうに思っております。これまでも高齢者福祉に関わる事業というのは先ほど、予算ベースで見ていただいても300億円ということでやってきておりますが、これからも、私としても、福祉のまちづくりということは引き続き続けていきたいと思っております。

次のページをお願いしたいんですが、子供の声が聞こえる街ということなんですけれども、これやはり子供と高齢者っていうのは、決して分断しているわけではなくて、やはり先ほど申し上げた通り、密接に関わって支え合ったりしているものだと思います。私もこのようなことを言っている中でやっぱり、地域によっては、子供が公園で遊んでいる声がうるさいってということで、地域の方からお声をいただいたりもしておりますので、それもしっかりと地域のものとして、子供のそういうものも受けとめてあげつつ、悪いことがあれば指導していただくというようなことも、地域や学校と一体となって取り組んでいくことで、この少子高齢化が進む中で、苫小牧をしっかりと支えていける人材を作っていくというような、こういったことを私もイメージしているものですから、高齢者の皆さんと私のこどもまんなかという政策の関連性みたいなものをまずはお話をさせていただきました。

2点目ですけれども、北海道日本ハムファイターズ2軍施設の誘致についてということでございます。実はこのお話につきましては、私も当初報道ベースで、非常にその自治体負担のいわゆる公費投資の部分が大きいというイメージがあったものですから、あまり積極的には考えていなかったんですが、市民の皆さんの声が非常に高まりが強く、これは民意だということで、7月の28日に定例記者会見の中でチャレンジするということを発表させていただきました。それに今までに、日本ハムファイターズのほうと何回か、私も出席した場面もありますし、事務方レベルでの打ち合わせ協議も含めて、数回にわたって接触はしておりますけれども、これから本格的に取り組んでいこうと思っております。新聞報道にも先日ありました通り、期成会の結成というのは商工会議所さんが中心となっていて、まずは東胆振の1市4町苫小牧市だけではなくて、まず広域でもやっていこうという動きが出てきております。できれば胆振全体、あるいは日高とかそういうところまで広げていきながら、誘致活動できればというふうに私も考えておまして、その辺は経済界と連動しながらやっていきたいと思っております。ただ、そこにいろいろ下段の真ん中に書いております、こちらの2軍道内移転のポイントと書いてありますけれども、こういったいくつかの条件がありますし、最大のポイントはやはり公費でどこまで負担するかということと、それから場所ですね。どこでもいいというわけではなくて、やはり選手の往来、あるいは2軍の試合を見に来るお客さんの利便性等を考えて、駅前も含めてどこがいいのかということ今検討しておまして、これ市民の皆さんにも、いろんなご意見あると思っておりますけれども、忌憚の

ないご意見をまた寄せていただきたいなと思っています。非常に市民の皆さんの期待の大きいテーマでございますので、私も頑張ってチャレンジをしていきたいと思っております。

3点目でございますが、先般7月30日に発表されました、津波警報に伴う津波避難指示、こういったものがあつたわけでございます。まず上から順に、当日の状況を羅列しておりますけれども、最初注意報で苫小牧エリアは入ってなかったのですが、8時37分の時点で注意報がまず出て、その後9時40分に津波警報に変わったところで苫小牧エリア、範囲に入ったということで、最大の津波の想定は3mというものでございました。その後、オレンジ色のところになりますけれども、10時6分に、津波警報の発表とともに36号線から南のエリアを、浸水の指定区域に指定をいたしまして、避難指示を発表いたしました。それぞれ皆さん避難をいただいたということで経過としては、第一波の到達を受けてその後また避難する指示の場所も、若干変わっていきながらでございますけれども、最終的には36号線と、それからこの沼ノ端まで来る通りのより南側ということで、町名で指示をさせていただいております。最終的に夕方には市内9か所に避難所を集約いたしまして、夕方の時点では、宿泊を伴う可能性もあつたということで、お弁当の手配等々もさせていただきまして、こちら沼ノ端小学校、避難場所としてさせていただいて、私も現場に顔出させていただきました。予想以上に早く津波の警報解除になったものですから、順次、避難されている方もお引き取りいただいていたということでございます。

それで今回、新聞、テレビの報道でもあつたんですが、緑が丘公園に車がたくさん避難されていた、その映像がでておりましたけれども、いろいろと今、市のほうでも今回の避難について検証しております。やはり適正な避難、必要以上の避難をすることはないということもあろうかと思っております。いろいろなほうに向かう道が大渋滞を起こしていたり、あるいは西側の方でも、有珠の沢だとかの高いところに向かう車で渋滞していたということも伺っております。高いところに逃げるということは非常に大事だったし、正しい判断だったとは思いますが、地盤高がそもそも3mの波が来ない、それよりも高い地盤高のところにはらっしゃる方は、さらに高いところに避難する必要性っていうのはなかったところもあつたと思うんです。ですからそのあたりでやはり動力だとか、移動するのに当時、特に暑かつたものですから、熱中症のリスクだとか、そういうものを考えたときに、今後に向けては、やはりまずは皆さんのお住まいの地盤高がどれぐらいなのか、働かされている場所がどれぐらいの地盤高なのか、そういったところを、まず把握していただくということが大事かと思っております。

こちら、皆さん全戸配布させていただいているハザードマップがあるんですが、これをすぐばつと出せた方は確認できたと思います。ただ、市のホームページにアクセスをしまして、ハザードマップを見ようとした方がたくさんいらちゃって、ダウンしてしまいました。それでなかなか地盤高を把握できなかったという方もいらちゃつたかと思うんです。このあたりは苫小牧市でも、どう対応するかというのは今検討をしているところでございますけれども、とにかく、そのように地盤高と到達する予想の波がどれぐらいだつたっていうのを、しっかり把握された上で避難をしていただくということを、今後、ご留意いただきたいなというふうに思っているところであります。

4つ目ですけれども、ヒグマ対策です。本当に最近報道で多いのがこのヒグマ関連のお話でございまして、道内でも最近2名の方が亡くなられたということで報道されております。皆さんご承知かと思うんですけれども、国の方では法改正を行って、この9月からこの市街地でもクマを撃てる、そのように法が施行されることになっております。苫小牧市としては、今その国のガイドラインに基づいて、苫小牧市独自のガイドラインの作成を検討しております、上段の下の方、真ん中辺に書いておりますけれども、年内の素案策定を今目指して取り組んでいるところであります。ただこれも、クマが出たときに猟師さんがすぐそばにいて、条件が整って駆除できればいいんですけれども、なかなかそういう条件が整わない可能性も多々ございますので、今我々が検討しておりますのは、やっぱりこのクマが活動するっていうのは、川付近なんですね。川付近で移動していくという傾向がありますので、その川付近の草をしっかりと刈って、クマが見えづらいうような状況を作らない。これを市内の河川、あるいは道のほうと連携とりながら、道路河川においても同じようなことをやりながら、クマと人が会わないような、そのような状況を作るということはまずできるのかと思っております、今ちょっと検討しております。

それから、報道でもありますけれども、知床のほうでは観光客なんでしょうか。クマに餌をあげていますが、ゴミを捨てるというのもクマが市街地に来てしまう、そういった原因になります。今年もちょっと暑いですが、暑い中で、どんぐりの実のなり方とかそういうものによっては、やはりクマが食べるものがなくて、市街地に行く可能性が高まるというふうになっておりますので、そういった、食べ物をその辺に捨てない。ゴミをしっかりと決まったところに捨てていただくということをしていただくのも、クマ対策の一つでございまして。いずれにしても、ここに書いてありますように、市街地の中での作成中のマップで書いてありますが、どの辺にクマが出る、皆さんのお住まいのところはそこでどう気をつけなきゃいけないかというのを、できる限りわかるようにガイドラインを作成して示したいなと思っておりますので、そういう状況だということを皆さんにはご理解いただきたいなと思っております。

そして最後でございまして。苫小牧駅前再整備でございまして。岩倉前市長も本当に体調が優れない中最後の力を振り絞って、道筋をつけていただきました。私も公約の最重点課題の一つとして位置づけておりますけれども、先般報道ありましたように、事業者がこの度決まりまして、9月に協定の締結をするということになっております。その後、約1年かけて、来年の今ぐらいまでの間に、基本計画を策定することになっております。それが今ここに書いてあるスケジュールになりますけれども、そういう形で早ければ、当初から言っておりますけれども、来年の8月ぐらいから解体にかかればというようなこととございまして。昨今の物価高騰による建設の状況もありますので、なるべく遅れないように進めたいというふうに私も思っておりますけれども、今このようなスケジュール感でいるということを皆さんにはご理解をいただきたいなというふうに思っております。

以上、私から5点お話をさせていただきましたので、何かご意見、ご質問等あれば、忌憚のないご意見をいただければと思っております。よろしくお願いたします。

<プレゼンに関する意見交換>

○司会 それではここから市長プレゼンに対する意見交換の時間に移ります。今の市長プレゼンを聞いて、皆様の方からご感想やご意見などをいただきたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。何かございましたら挙手をいただきたいと思います。

はい。今マイクお持ちいたします。

◆市民 澄川西町内会の・・・といいます。3番目の津波のほうの関係の話で要望ございます。7月30日津波警報が発出され避難指示が出ました。澄川地区でも避難対象地区外ではありましたが、避難される方がかなりおりました。苫小牧高専、苫小牧南高校、緑陵中学校、啓明中学校、澄川小学校がこの地域の避難場所になっております。避難対策地域外ではありますけれども、避難場所が当然開設されることとなります。そのときに、その運営に、町内会としても協力していきたいと考えております。そのためにですね、検討をしようとするためにですね、今回の避難所の開設とその受け入れの人数、それからあと運営の状況について教えていただきたいということでお願いします。

あと、また後日避難行動要支援者の方にですね、民生委員の方が避難の状況をお聞きしました。そうするとその中で、南高に避難された方からですね、暑くて、熱中症対策をとった施設にしてほしいと。それから4階の避難所に移動するのは難しかった。その対策をとってほしいという要望がありましたのでお伝えします。よろしく願いいたします。

◎市長 はい、ありがとうございます。澄川地区で、特に澄川小学校にあのときに避難した方の中に、あの日に高校のアイスホッケーの全国大会が来ていたんですよ。沼ノ端のリンクとnepiaアリーナと、それから新ときわアリーナと3会場でやっていたんですが、いずれの会場も、一旦試合を中断して避難をさせたっていう対応がありまして、新ときわに高校生が確か600人ぐらいいいたんじゃないですかね。そういう状況がまずあったということですね。そういう中で、やっぱり学校側もすごい大変だったんじゃないかと。多分600人というと、澄川の子供たちより多いです。ですから先ほどの要支援者の南高校ですか。避難された方でやっぱり対応を考えなきゃいけないところはあろうかと思いますが、今ちょうど担当室長が来ていますので、質問に、もし補足で答えられたら。

◎危機管理室長 どうもおぼんでございます。防災を担当しております、危機管理室長をしております前田と申します。今お話がございました避難所の受け入れ状況なんですけども、今回夏休み中ということで全部の学校に先生がいらっしやいましたので、警報と同時に、避難者を受け入れる体制は一定できておりました。その上で今回は警報でしたので全避難所に職員を送り込む作業をしながら、対応したんですけども、避難者としましては、今回の学校ですね、指定避難所、緊急避難場所になっている学校、全部で小中高大学48か所ございます。これのピークのときの人数で申し上げますと、12時の段階で1万86名の方が避難行動をとっていただきました。これはかなり危機意識を持っていただいて多くの皆様方が避難行動をとっていただいたものということで、そこは率直に感謝を申し上げたいというふうに思います。

その上で、先ほどあった中の暑さ対策についても今回夏場ということもありましたので、各学

校にある扇風機ですとかサーキュレーター、あるいはスポットクーラーというものを駆使しながらやったんですけども、なかなか大変だったということについては学校からは聞いております。この辺の対策についてはこれからいろいろと町内会の皆様方にアンケートをとったりですとか、施設の方からもアンケートをとって、これからその辺の実態を改めて確認をし、検証し、今後の改善に繋げていきたいというふうに思っておりますので、今後町内会の皆様方にもアンケートのほうお送りしますので、その辺の実態ですとか率直なご意見をいただければなというふうに思っております。その中では4階に移動の問題とかもあったと思いますのでそういったことも、ご意見をいただきながらどのような対応ができるのか、あるいは福祉関係者との協力も必要かもしれませんし、そういったことにつきましても、これからちょっといろいろと検討させていただければというふうに思っております。以上です。

◎市長 すいません。先ほど地盤高をよく把握いただいて、その波の高さと照らし合わせて避難していただきたいと私申し上げたんですが、今お手元に皆さんのハザードマップがあるかわからないんですが、南高校は2階だと4.4メートルなんですね。ですから4階までは必ずしも上がる必要もなかったのかもしれませんが、ただ、津波が最終的に来たときに、想定よりも高く来る可能性もありますからそういうものを想定しながらも、必要な範囲内で避難いただくということが大事だと思っております。

○司会 よろしいでしょうか。それでは後ろの方お願いします。

◆市民 すいません、川沿町の・・・といいます。今の避難のことで、去年、市の出前講座を受けたときに、どこに避難したらいいかという話を聞いたときに、うちのすぐ横にしらかばの道営住宅とか、日新の市営住宅等がありますので、そこに逃げていいのかどうかってことをちょっと聞いたんですよね。そしたら、それはちょっとはつきり逃げていいのか悪いのかって話はなかったんですけど、緊急のときはああいうところにも逃げていいんでしょうか。

◎危機管理室長 はい、今のお話ですね。学校ではなくてそういう公住のような、いわゆる津波避難施設になるような場所に避難していいかというお話かと思うんですけども、基本的な市の市営住宅もそうですし、今しらかばあたりも道営住宅2棟新しくできましたけども、そこも北海道のほうと協議をしまして、緊急時には避難できる施設ということで今指定はしております。ただ、公住の上層階のほうに避難しますと備蓄品がないんですね。一応安全を確保するっていうことでは高いところに避難できるんですけども、備蓄品については学校に備えているってこともありますので、もし可能でしたら、時間的余裕があれば学校に避難していただければと思いますし、その余裕がないときには近くの高い建物という形で、その辺もこれから頭の中でシミュレーションとかしていただけるとありがたいかなというふうに思っております。

◆市民 そこに逃げてもいいってことですね。

◎危機管理室長 はい。大丈夫です。

○司会 はい、どうぞ。

◆市民 澄川町内会の・・・と申します。先ほど西町内会の・・・が学校に600人入ったと。そのときに私の町内会も、「役員も行ってお手伝いします。」と言ったところ、それは先ほど室長さんおっしゃ

ったように、「夏休み中で先生方がいるから大丈夫、何とかかなります。」っていうことで。そこで、その後の学校の先生に聞いたところ、小学校の高学年の人がお年寄りだとか、そういった人たちのお手伝いをしてですね、結構助かったというお話を後から伺いました。そういった意味では小学校でたまたまよかったのかなというのはあるんですけど、それはまた別の良かった話なんですけど、実は市長さんの方から各個人がある意味で地盤の高さをある程度承知しといて、それで「来たら逃げなさいよ。」という言い方をされたんですけども、多分そういう言い方だと思うんですけど、実際僕たちにしてみても、ここの地盤がどのぐらいの地盤かっていうのはほとんどわかってないと思うんですよね。そういったことがあればですね、各公園に一時避難所といえますか、そういうところあるはずなので、例えばそこら辺のところの地盤面の高さはいくらですよとかいうのが、予算の関係もあるかと思えますけれども、そういったものを含めてですね、市のほうでもある程度必要なところですね、設置していただけるような方策っていうのは取れないんでしょうかね。もしあれだったらお願いをしたいなという。以上です。

◎市長 ありがとうございます。・・言われる通り、ほとんど皆さん多分地盤高把握はされていないんだと思うんですね。そのホームページへのアクセスが多かったというのは、多分さっきの地図をご覧になりたくて、皆さんいろんな情報を取りたくてアクセスされたと思うんですね。ですから、今こういう改めて皆さんとお話する機会をいただいているので、私はできるだけ外に発信していけたらと思っているんですが、公園だとか避難所になっているところで、地盤高はいくらですっていうのは書いています。避難所になっているところに大体書いているんですね。ですから我々も、情報が伝わらないと意味がないものですから、その辺りもう少し伝わるような方法はないのかっていうのは、検証の中で、検討していきたいと思っています。

◆市民 ありがとうございます。

○司会 すいません、先に、先ほど手挙げられてた窓側の女性の方。

◆市民 せんえつなんですけど、澄川町内会におります・・と申します。よろしくお願ひします。苫小牧市太い道路にあちこち、海拔何mですよってありますよね。でも最近見えなくなってきてるんです。ちょっと枝を払っていただくとか、そうであればもう一番低いところでも5mから6mあるんですね。私もたまたまその日仕事してたものですから、学生が何人かおまして、子供さんを1人勇払に置いてきてしまってどうしようっていう方がいらっしゃったんです。勇払はもう完全に海のそばでしたので、「危ないからすぐ帰りなさい。」とは言えなかったんですっていうのは、帰ってしまったらその方も下手すれば一緒に死んでしまう。ということで、ご家族いらっしゃらないということで、ご近所さんに無理やり電話させて、避難していただいたっていうことがあるんですが、海拔に関してはその道路とかに標識がありますので、もっと整備していただいて、わかりやすくなったらいいのかなっていうように、ごめんなさい、勝手に思っております。

それと、あっちこっちあるかわかりませんが、避難所になっている公園に備蓄品置いてあります。でも備蓄品あんな低いとこにあつていいのかなって、ちょっとそれも疑問に思っておりますので、避難所の本当の近くとか、間のところに備蓄できるんじゃないかなって勝手に思っております。すいません。

それと全然違う話なんですけど、クマに関して。川、本当に毎年鹿とかのために、結構除草していただいていたんですね。今年全くできなくてすごく伸びてます。そうすると、クマもそうなんですけど他の動物たちも入ってくるのが見えなくて交通事故に遭ったりとか、本当に事故してしまった車がかわいそうだと思うんですがそんなことも起きてます。もっと早くから、ごめんなさい。除草していただく、草切っていただけるといいのかなっていうふうに感じてます。

逃げる道路に関して、十数年ぐらい前に樽前の噴火のために逃げる道路っていうところで、苦小牧に太い道路2本しかありませんよね。なので、脇道、山のほうの道路をちょっと統合しましょうかっていうお話があったことがあるんですね。それ気になってますので、結局逃げるとしたら、みんな渋滞してしまうか、山へ行ってしまうと全部渋滞すると思います。ですから、もうちょっと林道とか脇道を使える方向でいったらどうなんでしょうかっていう勝手な願いでした。すいません失礼いたします。

◎市長 はい、ありがとうございます。まず海拔何mかという標識が草木で隠れてしまっているというお話なので、その辺は公園課になるんですかね、公園とかだと。道路にもあるのは道路課なのか。ちょっとその辺を確認して、できるだけ見やすくはしたいというふうに思っております。それから備蓄については低いところって言うておりますが、その辺はどういう基準でやっているのか担当の方から。

◎危機管理室長 はい、今のお話の中で備蓄品なんですけども、基本的には苦小牧市の災害備蓄品は避難所である学校なんです。学校で、しかも津波の危険性がありますので、できるだけ高いフロア、2階ですとか3階に備蓄品を置くようにしています。一部の公園には、町内会さんとの話の中でちょっとした備蓄品を置いている場所もあったかと思うんですけども、基本的に市のほうで用意している備蓄品は学校のほうに保管をしております。それと、先ほど標高の看板のお話がありましたけれども、苦小牧市では避難所である学校と300か所ほどある公園にも標高をつけた看板をつけておりますので、その辺も一度周りのところを確認していただければというふうに思います。道路の関係は道道ですかね。

◆市民 環状バイパスとか結構ありますよね。7.5mとか6mとかっていうのがあって、前はすごく見やすかったんです。最近見づらくなってるので逆に。来てたの大人の学生さんだったんですが、聞いたらみんな誰も覚えてなかったんです。そんな馬鹿なと思ひまして、本当に苦小牧市さんとか道とかで標高、全部海拔何mですよって載ってますのでそれをもっとアピールしてもいいんじゃないかっていうふうに思っております。すいません。

◎危機管理室長 はい。今おっしゃる通り避難する際にその場所の高さがどのぐらいかってすごく大事ですので、今回の津波の関係のいろんな検証の中で、北海道ともいろいろと今話し合いをしておりますので、今のお話ですね。道道についている看板の見やすさについても、機会があれば私から伝えておきたいというふうに思いますのでよろしく申し上げます。

◎市長 クマは副市長から。

◎副市長 クマの関係、ご意見ありがとうございました。おっしゃる通り、川沿いを這ってきますので、その草刈りっていうのは我々も重要だと思っています。ただ、業者に委託してやるので、なか

なか順番的に遅くなっている部分もありますから、そこはちょっとご理解いただきたいんですけども。あくまでもやっぱり川沿いの草を刈るっていうのが、人にも見えやすいので大事だと思っていますので、そこはしっかり今後もやっていきますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

それと、クマが最近住宅地に現れている町も非常に多くなっていますので、やはり防衛という意味で生ゴミをとにかく出さない。ステーションにしっかりと入れてもらうっていうことをまずお願ひしたいっていうところ。この間、どこか忘れたんですけど家に蜂の巣があつて、そのハチミツを目的で家の壁を壊してクマが侵入したっていう例もありますので、蜂の巣つて意外と家にあると思ひますので、その辺の点検も皆さんに今一度していただきたいなと思ひます。とにかく食べ物を外に出さないっていうところを、お願ひしたいと思ひます。万が一住宅地でクマを見かけた場合には、必ず家に入って警察に電話をしていただきたいと思ひます。なかなか市のほうで対応するのは難しいので、警察に電話すると来てくれますので、まずは家に入って安全を確保するということをお願ひしたいと思ひます。私から以上でよろしいでしょうか。

<意見交換>

○司会 それでは一旦ここでプレゼンテーションについての意見交換は終了させていただきたいと思ひます。ここからは特にテーマを決めずに、市のまち作りについて、市長との意見交換の時間となります。昨年度まで、事前要望の回答ですとか、地域課題などについてのご意見を多くいただきしており、主に各課の担当者から回答させていただいておりましたが、今年度からできる限り市長と皆様との対話をする機会を充実させたいとのことから、各課の担当者はほとんど出席しておりません。市長、副市長、そして私たち事務局職員が主に参加させていただいております。そのため実務的なご質問については、ミーティング終了後事務局のほうで内容やご連絡先をお伺ひし、後日各担当からご回答させていただきたいと思ひますので、ご了承ください。なお、発言する際には、最初にお住まいの町名とお名前を述べてから、お1人1件ずつ簡潔なご発言をお願ひいたします。それでは、ご意見などがございましたら、マイクをお持ちしますので挙手をお願ひします。

◆市民 すいません何回も、・・・と申します。ゴミ箱とかゴミの処理のためのものがもう撤去されてだいぶ経つんですが、結構車からボンボン投げていっちゃう人とか、公園もそのまま忘れ物のように自然に置いてつてるんですがゴミなんですね、というところがすごく多くなつてんですが、苫小牧市としては今後もずっとゴミ箱を設置するってことは考えていらっしやらないんでしょうか。

場所によってはね、外国人しか住んでないのか、みたいな道路もものすごいですし、周りもひどい。特に澄川からずっと樽前のほうに向かう道路がひどいんですね。ボランティアで皆さん、毎年春とか夏ちょっと前ぐらいにゴミ拾ひしていただくんですが、ものすごい量なんですね。あれもかえつてクマも来るしつていう話でもあるんですが、すいません、私樽前に勤めてたものから、クマ実際に会つてます、昔。ただ電話するにはちょっと時間がなかつたので、申し訳ないですけどしませんでした、近隣の人には気をつけてねつていう連絡は入れました。今も樽前います。ただ、草とかがいっぱいあるのでわからない。動物も食べられないからわからない。で

も実は猫とかいろんなものを食べられてるはずなんです。鹿もものすごい増えてはいるんですけども、やっぱりゴミを散らかして置いていっちゃうってことは、そういうものが集まってきやすくなると思うんですね。

私はあちらへ行く職員がやっているのかなと思って、細い道路も行ってみてるんですが細い道路、意外とないんですね。鉄道沿いの太い道路のほうにガンガン投げていく人たちがいっぱいいて、あれは、見えないからいいかなって感じでやってるのかなとは思いますが、もっと最初から道徳的にゴミは捨てないっていう、昔の日本人気質が戻ってほしいなって勝手に思ってます。片付けも大変だとは思いますが、公園とかに作ってしまうと。でもそういうものがないと、どんどん日本人っていうか日本の国じゃなくなってしまうのかなって勝手に解釈しておりますが、今後どういうことができるのか考えていただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

◎副市長 ご質問ありがとうございます。おっしゃる通り、ゴミ箱の設置っていうのは非常に重要だと思います。ただ、なかなか設置して回収するっていうところが非常に難しく、設置してゴミを投げていただいて、回収するまでに時間どのぐらい置いておくんだっていうこともありますので、現時点で市のほうでゴミ箱を設置するっていうのは考えてはいないところなんです。ただおっしゃる通り、ポイ捨てが結構多いです。私もたまにゴミ拾いするんですけども、1時間したら大体30Lもいっぱいになるぐらい拾えるんですね。やっぱりそこはなんていうのか、市民のマナーの問題というのか、ポイ捨てをしないようにしていただくのが一番いいんですけども、いろいろ対策は練ってるんですけど正直なかなか減らないっていう現状もあります。

ただ、あまりにも多いところは教えていただければ、ポイ捨て禁止の看板を立てたりっていう抑止力は可能だと思いますので、今後、多いところは教えていただきたいなと思います。そこは看板立てて対策するとか、あと市民以外の方が結構ポイ捨てしてるってお話もよく聞きますよね。やっぱり苦小牧工業都市なので、大型車両が多くて投げて行かれるっていうのもよく聞きます。すぐ効く特効薬っていうのがなかなか見つからないっていうのが正直なところなので、今言われた意見を踏まえまして今後も市として、どういうふうにするのが一番ゴミを減らしていけるのかっていうのは考えながらやっていきたいなと思います。都度何かあれば言っていただければ、すぐに改善できないかもしれませんが、少しずつ前に進めるように市としても努力したいなと思いますので、よろしくお願ひします。

○司会 それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。はい。今マイクお持ちいたします。

◆市民 ときわ町内会の・・・と申します。私の方からですね、町内会からの要望の4番、災害時の避難経路の確保についてということで、過去にときわ町には高い建物がないので、ぜひときわ町内会の中に、避難できるようなタワーの設置をお願いしたいということを含めて前市長にですね、要望書を出した経緯があります。それで、市のほうではですね、旧ときわスケートセンター、この周辺を整備して、そういったものを検討しますという話が確か出たと思ったんですけども。それで、基本的には旧スケートセンターを取りやめるために、新しいスケートセンターを作られたと思うんですけども、この旧スケートセンターの閉鎖といいますかね、これは具体的にはいつ頃考えられるんでしょうか。もしそれが具体的にならないのであれば、ここに避難施設というのは確

保できるのかどうか、これもあわせてお聞きしたいんですけど、お願いします。

◎市長 はい。ありがとうございます。まずときわスケートセンターのことについては、今ここで申し上げられないんですが、最終的に近々私のほうで判断する予定でいます。もともと、市の計画の中では今年度をもって廃止っていうことになってはいますが、スケート、アイスホッケーの関係の方からはまだ残してほしいという声もある中で、私自身もその声を受けて、もう少し判断に時間をかけさせてもらいたいということで、ここまできております。ただ市の計画はそういうことでありますし、これ以上判断を先送りにはできないと思うので、もう少ししたら、そういった表明はどこかでしたいなというふうに思っております。

その後の、おそらく避難タワーの設置ということで、地域としても要望されたんだと思いますけれども、市としては、何らかのそういう環境とか避難するところは作ると。タワーがいいのか盛り土でやるのか高台にするのがいいのか、いくつかの考えはあると思いますが、そのあたりはやはり財源と、あとそれから普段使いですね。この間も根本教授って災害の総合訓練、防災訓練のときに講師の方来られたんですが、その方も、やっぱりその普段使いできるそういった施設を作らないと、いつ来るかわからないんですけども、できるだけ税金投入してやる上では、そういった視点っていうのもすごく大事だということをおっしゃられています。そういった財源の問題等いろんなことを考慮した上で、市としても最終的にどうするかっていうのを決めなきゃいけないと。ただ、このときわ地区にはそういうものを作るということは議会でも我々も話しておりますので、そのあたり経過を見守っていただきたいなというふうに思っております。

◎司会 それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。はい。今マイクお持ちいたします。

◆市民 こんばんは。市長さんお疲れ様です。私は柏木町の社会奉仕のことをちょっとやらせてもらってる・・・と申します。先ほどの防災のことについてちょっと聞きたいんですけども、この前ちょっと会議があったときに、柏木町の人たちはどこに逃げればいいのかっていう話があったんですけどもね。広報とかね、いろんなことでそこに貼ってあるような感じであるんですけども、結構わかんない人もいます。それでね、誰かが、「逃げるのは泉野小学校か啓明中学校に決まってるよ。」って言ったんですけどもね。そうですかもうそれで終わっちゃいなんですけどね。よく考えたら、柏木町と澄川の間に小糸魚川ですか。それと、柏木町と日新町の間に、泉なんとかっていう川もありますよね。小さな川で幅が2m3mですけどね。2025年だから、13年前ですか。東北大震災で、宮城県の名取川が逆流したのは私テレビで見てるんですよ。ものすごかったですよね。私が今言った柏木町を流れる二つの川は全然幅が違うし、全然小さいんですけどね。もしかしたら、泉野小学校、啓明中学校に逃げるときに逆流して、津波でやられちゃうんじゃないかなと私は思ってるんですけど、そこら辺はどうでしょうかね。すいません。

◎市長 では、担当のほうから。

◎危機管理室長 はい、ご質問ありがとうございます。確かに3.11のときにも川を遡ってっていう話がありましたよね。石巻も大川小学校もそういった被害がありました。津波が川を遡上するってことは十分注意をしなければなりません。それで皆様のお手元に、令和5年の5月にこういった地区別のハザードマップをお配りしたかと思うんですけども、ここでいうと、例えば日新町と柏木

町の間的小泉の沢、ここなんかは実は川に沿って色ついています。遡上することも想定したマップをお配りしておりますので、改めてそこも確認をしていただければということが一点と、もう一つは川を遡上する可能性がありますので、もし川を渡って啓明中に行くときには、早めに避難行動をとるとということも大事になると思うんですね。

もう一点は、そういう建物に行かないまでも、夏場とか冬場って大変だと思うんですけども、津波が来ないところまで行くとすると、この地域の白いエリアがございましてそういったところまで避難をする。状況が許せば宮の森のほうに行くですとか、あるいは早めに避難ができれば学校のほうに行くですとか、そういったいろんなパターンを、何かお散歩するときにも実際試してみるですとか、万が一の備えをしていただければなというふうに思っております。

◆市民 わかりました。あともう一点だけ質問させてもらっていいですかね。野球の2軍施設、きつと取り合いだと思うんですけどね、千歳とか恵庭のほうが有利だと思うんですけどもね。今苦小牧、千載一遇のチャンスで、私ちょっと考えたんですけどね。浅い考えですけどもね。大谷くんを苦小牧に招いて、いろいろなんていうのかな、大谷くんを気分良くさせて、大谷くんからプレゼンテーションをさせて呼び込むっていうのはどうでしょうかね。苦小牧も野球をやってる方が昔からたくさんいて、結構いろいろ考えればできると思うんですけどね。だから他の土地に渡さないで、北広島があそこのエスコンフィールドを建てて、あんなふうになったように、皆さんご存知のように、北広島はすごいことになってますよね。だから今絶対にね、2軍施設を呼べば苦小牧もぐっと上がるんですよ、お金も入るしね。いいと思うんですけどね。すいません、勝手な話、言って申し訳ないです。

◎市長 ありがとうございます。私もチャレンジをして、いろんな課題があるんですけど、内部でもいろいろ協議しながらやっておりますけども、今市民の皆さんからの反応を聞いていいなと思うのは、今の・・・さんのように夢を、こうなったらいいなっていうことを、皆さんいろいろ語ってくれるんですよ。それが何か町の勢いだとかにも繋がっていけばいいなと思いますし、これが実現できれば、もっといろんな広がりも出てくるものですからぜひチャレンジしていきたい。目標達成に向けて取り組んでいきたいと思っています。で、大谷さんが来てくれるかどうかは副市長から教えていただいて。

◎副市長 はい、日ハムの2軍施設、市としてもしっかりと頑張りたいと思っています。皆さんに今お知らせしますが、かなり高いハードルです。最近、ジャイアンツとタイガースがそれぞれ2軍施設を新設しているんですね。そこが大体10ヘクタールぐらいの土地に、球場を二つ作って、室内練習場を作って寮を作っています。全部で大体ジャイアンツもタイガースも100億ぐらいって言われています。なかなか市で100億出すっていうのは無理な話なので、日ハムさんと交渉して、どこまで日ハムさんと市の考え方が折り合うかっていうところです、正直。それで今業界の方のお話だと、恵庭江別が有力だっていうお話はありますけども、ただ苦小牧も今ダークホースの一つだと言われています。そこはね、我々頑張ります。今週、民間の商工会議所さんが誘致の期成会を立ち上げるという発表をしましたので、今後署名活動が始まると思いますので、ぜひ署名の機会があれば、2軍誘致の賛成の方はぜひ一筆書いていただけると、我々もそれが後押しになり

ますので、その辺をぜひお願いしたいなと思います。大谷さんに伝わるかどうか分かりませんが、伝わるようには頑張りますけども、絶対伝わるとこの場では言えませんので、いずれにしても、2軍誘致につきましては市民の多くの賛成の声がございますので、市としてはしっかり頑張ってやっていきたいなと思いますので、どうぞ応援のほう、皆さんよろしくをお願いします。

○司会 それではお時間近づいてきたんですが、もし最後どなたか1人いらっしゃれば、最後の質問をお受けしたいと思います。

◆市民 はい。ときわ町・・・です。要望事項です。この地区、川浴と柏木、そして澄川と、ときわということで真ん中に道道が走ってまして、バイパスですけども。以前もそうなんですけども、中央分離帯がすごく草が伸びるということで、以前問題があったのは、除草剤を夏に撒いたということで、枯れ草だらけになって美観上よくないということで、今年はですね、縁石から50cmから1mぐらいちょっとやっただけで、真ん中がボーボーなんですよね。そしたら人が渡っても見えない、車が来ても見えないという状況で、美観上良くないと。逆に言えば、啓北、見山、松風から向こうへ行くと、十分に綺麗になっているという状況なんでね。この地区にこれだけ草ボーボーにしているのかということで、やはりぜひ北海道に申し入れて、きちっと草刈りをするならする、そして草を取って、例えばアスファルト敷くならアスファルト敷くで、きちっとやっていただきたいなということを要望したいと思います。

◎市長 ありがとうございます。私も日新町に住んでいるので、この辺走ったりするときもそういうのをすごく感じました。北海道に対しまして、申し入れをしていきたいと思っております。ありがとうございます。

○司会 それでは、以上で意見交換については終了させていただきたいと思います。この後ミーティングは閉会となりますが、先ほどご案内させていただいた通り、担当課へのご意見ご要望などがございましたら、お帰りの前にこちらの事務局席の方にお立ち寄りください。内容ご連絡先を確認させていただき、後日、担当課から連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、あなたの街でミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

令和7年度あなたの街でミーティング会議録

開催日 令和7年9月24日（水）

地 区 弥生町・錦町・本町・元中野町・旭町地区

会 場 文化交流センター（アイビー・プラザ）

<市長プレゼン>

◎市長 改めまして皆さんこんばんは。苫小牧市長の金澤でございます。今日は秋も深まってきて涼しくなった、そして仕事終わった後、この貴重なお時間に皆さんこの文化交流センター（アイビー・プラザ）に足を運んでいただきましてありがとうございます。

また、敬老会も今日も私、施設で1件あったんですけども、先週までに各地区回らせていただきましたので、そこでお会いした方もいらっしゃると思いますけれども、今日改めて、この地区のあなたの街でミーティングということで、街のいろんな課題とかテーマについてお話させていただきますので、皆さんの忌憚のないご意見をいただければなというふうに思っております。そして、今回、ここに書いておりますがとりあえず私のプレゼンといいますか、最近の苫小牧のいろいろな話題について改めてお話をさせていただきたいと思っております、大きく5つ掲げさせていただきました。高齢者福祉、日ハムの2軍施設誘致、それからちょっと時間経ってしまいましたが津波の警報と避難等のあり方。そしてヒグマ対策。そして最後に、苫小牧駅前再整備の状況と今後ということをお話をさせていただきたいと思っております。お願いします。

まず、高齢者と子供子育ての予算配分についてでございますけれども、私も子供の学び政策を打ち出して選挙を戦わせていただいて、就任後、今年度からの施策にも反映させていただいておりますけれども、まず一般会計、特別会計全体で合わせて1,250億円ぐらいあるところのうち、高齢者関連は300億、子供子育て関連は135億というような予算規模ということ、まず皆さん覚えていただきたいなというふうに思っております。それで子供のことを私がなぜ真ん中に据えてやるかといいますと、ひとえに将来を支えていく人材になりうる人たちだということで、その子たちをしっかりと心も体も育てていくその支援を、もっと厚くしていきたいと思っております。その先には、やはり現役を引退された高齢者の方々を、しっかりと支えていく、働いて税金を納めて、経済的にも、そして地域の様々な力となっていくような人材としても、育てていく。そういったことで、高齢者の皆さんあるいは障害を持っている方々、そういった社会的弱者といいますか、そういった方々をしっかりと支える人材として、育てていきたいという思いで、こどもまんなかと言っております。ここはやはり高齢者の皆さんと、この子供というところは密接にリンクしていくものですから、次のページをお願いしたいんですが、町としても認知症カフェですとかシルバーリハビリ体操、予防接種、そして今年度からですね、带状疱疹ワクチンの方も予算化をさせていただきます

て、皆さんの健康、予防医療を含めて、取組をさせていただいておりますけれども、健康を維持していただきながら、次のページをお願いしたいんですが、子供たちとの交流ですね。いわゆる子供たちを地域で様々な形で面倒見ていただいたり、あるいは子供たちが様々な取組の中で高校生の灯油配送ボランティアに、左下のところがございますが、これ社会福祉協議会さんの事業としてやっておりますが、このような形で子供たちも高齢者の皆さんに何とか力を尽くして支えていくという、この相互の支えというようなことを、やはりこの町でももっともっと進めていきたいというふうに思っております。これまでも高齢者福祉に関わる事業というのは先ほど、予算ベースで見ても300億円ということでやってきておりますが、これからも、私としても、福祉のまちづくりということは引き続き進めていきたいと思っております。

次のページをお願いしたいんですが、子供の声が聞こえる街ということなんですけれども、これやはり子供と高齢者っていうのは、決して分断しているわけではなくて、やはり先ほど申し上げた通り、密接に関わって支え合ったりしているものだと思います。私もこのようなことを言っている中でやっぱり、地域によっては、子供が公園で遊んでいる声がうるさいってということで、地域の方からお声をいただいたりもしておりますので、それもしっかりと地域のものとして、子供のそういうものも受けとめてあげつつ、悪いことがあれば指導していただくというようなことも、地域や学校と一体となって取り組んでいくことで、この少子高齢化が進む中で、苫小牧をしっかりと支えていける人材を作っていくというような、こういったことを私もイメージしているものですから、高齢者の皆さんと私のこどもまんなかという政策の関連性みたいなものをまずはお話をさせていただきました。

2点目ですけれども、北海道日本ハムファイターズ2軍施設の誘致についてということでございます。実はこのお話につきましては、私も当初報道ベースで、非常にその自治体負担のいわゆる公費投資の部分が大きいというイメージがあったものですが、あまり積極的には考えていなかったんですが、市民の皆さんの声が非常に高まりが強くて、これは民意だということで、7月の28日に定例記者会見の中でチャレンジするということを発表させていただきました。それに今までに、日本ハムファイターズのほうと何回か、私も出席した場面もありますし、事務方レベルでの打ち合わせ協議も含めて、数回にわたって接触はしておりますけれども、これから本格的に取り組んでいこうと思っております。新聞報道にも先日ありました通り、期成会の結成というのは商工会議所さんが中心となっていて、まずは東胆振の1市4町苫小牧市だけではなくて、まず広域でもやっぺいこうという動きが出てきております。できれば胆振全体、あるいは日高とかそういったところまで広げていきながら、誘致活動できればというふうに私も考えておまして、その辺は経済界と連動しながらやっていきたいと思っております。ただ、そこにいろいろ下段の真ん中に書いております、こちらの2軍道内移転のポイントと書いてありますけれども、こういったいくつかの条件があり

ますし、最大のポイントはやはり公費でどこまで負担するかということと、それから場所ですね。どこでもいいというわけではなくて、やはり選手の往来、あるいは2軍の試合を見に来るお客さんの利便性等を考えて、駅前も含めてどこがいいのかということは今検討しております、これ市民の皆さんにも、いろんなご意見あると思えますけれども、忌憚のないご意見をまた寄せていただきたいなと思っております。非常に市民の皆さんの期待の大きいテーマでございますので、私も頑張ってチャレンジをしていきたいと思っております。

3点目でございますが、先般7月30日に発表されました、津波警報に伴う津波避難指示、こういったものがあつたわけでございます。まず上から順に、当日の状況を羅列しておりますけれども、最初注意報で苫小牧エリアは入ってなかったのですが、8時37分の時点で注意報がまず出て、その後9時40分に津波警報に変わったところで苫小牧エリア、範囲に入ったということで、最大の津波の想定は3mというものでございました。その後、オレンジ色のところになりますけれども、10時6分に、津波警報の発表とともに36号線から南のエリアを、浸水の指定区域に指定をいたしまして、避難指示を発表いたしました。それぞれ皆さん避難をいただいたということで経過としては、第一波の到達を受けてその後また避難する指示の場所も、若干変わっていきながらでございますけれども、最終的には36号線と、それからこの沼ノ端まで来る通りのより南側ということで、町名で指示をさせていただいております。最終的に夕方には市内9か所に避難所を集約いたしまして、夕方の時点では、宿泊を伴う可能性もあつたということで、お弁当の手配等々もさせていただきまして、こちら沼ノ端小学校、避難場所とさせていただいて、私も現場に顔出させていただきました。予想以上に早く津波の警報解除になったものですから、順次、避難されている方もお引き取りいただいていたということでございます。

それで今回、新聞、テレビの報道でもあつたんですが、緑が丘公園に車がたくさん避難されていた、その映像がでておりましたけれども、いろいろと今、市のほうでも今回の避難について検証しております。やはり適正な避難、必要以上の避難をすることはないということもあろうかと思っております、いろいろなほうに向かう道が大渋滞を起こしていたり、あるいは西側の方でも、有珠の沢だとか高いところに向かう車で渋滞していたということも伺っております。高いところに逃げるとことは非常に大事だったし、正しい判断だったとは思いますが、地盤高がそもそも3mの波が来ない、それよりも高い地盤高のところにはいらっしゃる方は、さらに高いところに避難する必要性っていうのはなかったところもあつたと思うんです。ですからそのあたりで移動するのに当時、特に暑かつたものですから、熱中症のリスクだとか、そういうものを考えたときに、今後に向けては、やはりまずは皆さんのお住まいの地盤高がどれぐらいなのか、働かされている場所がどれぐらいの地盤高なのか、そういったところを、まず把握していただくということが大事かと思っております。

こちら、皆さん全戸配布させていただいているハザードマップがあるんですが、これをすぐぱっと出せた方は確認できたと思います。ただ、市のホームページにアクセスをしまして、ハザードマップを見ようとした方がたくさんいらっちゃって、ダウンロードしてしまいました。それでなかなか地盤高を把握できなかったという方もいらっちゃったかと思うんです。このあたりは苫小牧市でも、どう対応するかというのは今検討をしているところでございますけれども、とにかく、そのように地盤高と到達する予想の波がどれぐらいだっているのを、しっかり把握された上で避難をしていただくということを、今後、ご留意いただきたいなというふうに思っているところであります。

4つ目ですけれども、ヒグマ対策です。本当に最近報道で多いのがこのヒグマ関連のお話でございます、道内でも最近2名の方が亡くなられたということで報道されております。皆さんご承知かと思うんですけれども、国の方では法改正を行って、この9月からこの市街地でもクマを撃てる、そのように法が施行されることになっております。苫小牧市としては、今その国のガイドラインに基づいて、苫小牧市独自のガイドラインの作成を検討しております、上段の下の方、真ん中辺に書いておりますけれども、年内の素案策定を今目指して取り組んでいるところであります。ただこれも、クマが出たときに猟師さんがすぐそばにいて、条件が整って駆除できればいいんですけれども、なかなかそういう条件が整わない可能性も多々ございますので、今我々で検討しておりますのは、やっぱりこのクマが活動するっていうのは、川付近なんです。川付近で移動していくという傾向がありますので、その川付近の草をしっかり刈って、クマが見えづらいような状況を作らない。これを市内の河川、あるいは道のほうと連携とりながら、道路河川においても同じようなことをやりながら、クマと人が会わないような、そのような状況を作るということはまずできると思っております、今ちょっと検討しております。

それから、報道でもありますけれども、知床のほうでは観光客なんでしょうか、クマに餌をあげていますが、ゴミを捨てるというのもクマが市街地に来てしまう、そういった原因になります。今年もちょっと暑いですがけれども暑い中で、どんぐりの実のなり方とかそういうものによっては、やはりクマが食べるものがなくて、市街地に行く可能性が高まるというふうに伺っておりますので、そういった、食べ物をその辺に捨てない。ゴミをしっかり決まったところに捨てていただくということをしていただくのも、クマ対策の一つでございます。いずれにしても、ここに書いてありますように、市街地の中での作成中のマップで書いておりますが、どの辺にクマが出る、皆さんのお住まいのところはそこでどう気をつけなきゃいけないかというのを、できる限りわかるようにガイドラインを作成して示したいなと思っておりますので、そういう状況だということを皆さんにはご理解いただきたいなと思っております。

そして最後でございます。苫小牧駅前再整備でございます。岩倉前市長も本当に体調が優れない中最後の力を振り絞って、道筋をつけていただきました。私も公約の

最重点課題の一つとして位置づけておりますけれども、先般報道ありましたように、事業者がこの度決まりまして、9月に協定の締結をするということになっております。その後、約1年かけて、来年の今ぐらいまでの間に、基本計画を策定することになっております。それが今ここに書いてあるスケジュールになりますけれども、そういう形で早ければ、当初から言っておりますけれども、来年の8月ぐらいから解体にかかれればというようなことでございます。昨今の物価高騰による建設の状況もありますので、なるべく遅れないように進めたいというふうに私も思っておりますけれども、今このようなスケジュール感でいるということをご理解をいただきたいというふうに思っております。

以上、私から5点お話をさせていただきましたので、何かご意見、ご質問等あれば、忌憚のないご意見をいただければと思っております。よろしく願いいたします。

<プレゼンに関する意見交換>

○司会 それでは、ただいまの市長プレゼンを聞いて皆様からご意見やご感想などをいただければと思いますが、皆様のほうから何かございますか。

◆市民 弥生町から参りました・・・と申します。この日本ハムファイターズの2軍誘致の件なんですが、10ヘクタールという広い土地を確保の目途で立っているのでしょうか。それともう一つ提案なんですが、むしろ沼ノ端駅の周辺のほうが土地を確保しやすいんじゃないでしょうか。その辺はどうなのでしょうか。

◎市長 はい。10ヘクタールと申しましたのは1つの目安でして、先ほど申し上げた通り他の球団の2軍施設ができて例がありまして、そのあたりを、例えば先ほど申し上げたように、スタジアムを2つ、それから室内練習場1つと、プラス先ほど書いてある通りマンション、商業施設を作った場合にはそれぐらい必要なのかなという、あくまでもこちらの見立てで申し上げた次第ですが、これは10ヘクタールあればいいというわけではなくて、ファイターズさんの言うアクセスの良さ、そういったところを考えるとそんなにたくさん用意できるわけではないと思います。ただ今私どもも苫小牧について広げて、駅周辺もそうですし、あるいは今言われた東側のほうも、どこかないのかというのも検討しておりますし、あるいは西側のお住まいの方から、錦岡駅周辺に何かそういうふうにしてくれないのかという要望もいただいております。ですからそこは変に我々の方で最初からここだと決めつけず、いろんな可能性を探りながらやっておりますけれども、ファイターズさんの意向をくみながらやっぱりやらなければいけないと思いますが、そうすると、今申し上げたような駅周辺、あるいは例えばインターチェンジからのアクセスということを考えていけば、東側だとか、西側の周辺っていうのはあるかもしれません。今詳しくは申し上げられないんですが、そういったいろんな可能性を、模索しながら検討しているところです。

◆市民 わかりました。ありがとうございます。

○司会 それでは先ほど手挙げられた方。

◆市民 幸町の・・・です。先ほど高齢者福祉の中で、带状疱疹ワクチン、この件、ちらっと触れられたんですが、現実には昨年12月に厚労省が指示を出して、市長の記者会見が5月2日、プレスリリースをされている。なぜ中旬過ぎまでホームページに掲載されないのか。問い合わせをしたんですが、検討外れの回答しかありません。まともな回答は何もない。2日にプレスリリース、記者会見したんだったら、「なぜ即刻ホームページに掲載されないんですか。」という問い合わせに対して何の回答もない。それで市長がおっしゃっている福祉のまちづくり、東胆振の中核都市、大丈夫ですか。

◎市長 はい、ありがとうございます。実はこの带状疱疹ワクチンにつきましては、苫小牧市では国の定期接種化の決定を受けましてから、苫小牧市の医師会さん、先生たちの会と協議を重ねまして、今年6月1日から医療機関での接種体制を構築しております。市民の皆さんへの周知に関しましては、5月2日の開催の定例市長記者会見で、報道機関向けにリリースをしまして、あとは広報とまこまいにも、6月号に掲載をさせていただきまして、接種対象者の方に対して、5月下旬には個別郵送による案内をさせていただいております。市のホームページには5月15日に掲載をしておりますけれども、いろいろな媒体、今SNSもありますので、苫小牧市の公式のものもありますので、そういったものも使ってできるだけ周知には取り組んでおりますけれども、個人に向けた行政の役割はできるだけ果たしていきたいと思っております。中旬過ぎても具体的掲載がなかったかということなんですけれども、ホームページにはそのような形で5月15日には掲載をさせていただいておりますし、その後、带状疱疹ワクチンの接種を受けられない方がいらっしゃるかっていう内部確認したんですが、今のところないというような報告を、今日もここに来る前に確認をさせていただいておりますので、今後できるだけ迅速に、そういったものを受けられない方が出ないように、迅速な情報発信をしていきたいと思っておりますので、何かありましたらまたご連絡をいただきたいと思っております。ありがとうございます。

○司会 それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。はい。今マイクお持ちいたします。

◆市民 弥生町の・・・と申します。津波のことですけれども、友人に聞いたら、高丘霊園のほうで、もうパニックになるほど渋滞が起こっていたという話を聞きまして、これあの海岸線ずっとありますよね。だからどっかでエリア分けしてですね、例えば40年以上前ですかね、水道の取水管が破裂して山手町一帯がですね、水浸しになったことがあるんですね。床下浸水もして。ですからエリア分けして例えば鉄道のね、線路から、向こう側へいけば、ある程度防げるっていうのはおかしいですけども、ある程度効果あるんじゃないかとか、だからどっかでね海岸線をどっかで区切って鉄道の向こう側へ、鉄北へ行くと、それだけでもね、だいぶ渋滞を防げたんじゃないかなと思うんですけども、その辺を今後どう考えているかちょっとお聞きしたいんですけど。

◎市長 はい。それでは、今のお話について、危機管理のプロが来ていますので、前田室長からお願いします。

◎危機管理室長 どうもおばんでございます。危機管理室の前田でございます。今の津波の話ですけども、実は苫小牧市でも津波警報と大津波警報って气象台から出てくる情報って2つあります。今回津波警報というものが气象台から出ました。これが最大で3mまでの波の高さという情報だったんですね。私どものほうでも、令和5年に皆様のほうに地区別のハザードマップというものをお配りした、裏面に出ている地図なんですけども、その中でも津波警報の場合には先ほど市長からもお話差し上げたように、海岸沿いのほうに少し濃いオレンジになっているんですけども、津波警報の場合はこのエリアの方に避難していただきたいということで、実はそういうこともあって36号線から南側という情報発信させていただきました。ただやっぱり津波ってというのは、東日本大震災のこともありますので、どのくらい大きいものが来るかってなかなかわからないということで、結果的に今回はこの黄色い部分ですね、黄色い部分だったり白い部分の方も今回は避難行動をとっていただきました。こういう行動をとっていただいたことは非常にありがたい反面、先ほど市長からもお話した通り逆に渋滞の発生ですとか、あるいは熱中症の問題ということもありましたので、改めてこの津波警報のときにはこのエリアなんですよっていうことを、今度の広報とまこまいの10月号でも改めてこの地図を掲載して周知させていただこうと思っております。

ただ大津波警報になったときにはもう全市的になってしまいますので、どうしても車で避難しなきゃいけない方がいらっしゃるということになると、一定の渋滞は出るかもしれませんけども、そこは今度はもう1個お願いしたいのは可能性がある方については徒歩での避難をお願いしたい。例えば学校が一定の高さありますので、学校まで徒歩で避難できる方については、大変難しい場面あるかと思っておりますけども徒歩で避難をする。そのことによって渋滞の緩和もあろうかと思っておりますので、そういったことについてはこれからも、地域の方々、いろんな防災訓練ですとか、防災講座ありますので、そういった中でもこういったことを周知していく。まずエリアの関係をご理解いただく。それと徒歩避難をしていただくということ。

◆市民 縦にエリアを切ってね、鉄北のほうに行くだけでもだいぶ違うと思います。

◎危機管理室長 そうですね、そういったようなお話も聞きながら、これはやっぱりルール作りになっていくかと思っておりますので、そこは皆さんのお話も聞いていきながら苫小牧のルールを作っていくというふうなふうに思っております。

◆市民 ありがとうございます。

○司会 それでは他にどなたかいらっしゃいますか。はい。少々お待ちください。

◆市民 一区町内会の・・・と申します。今のことにしてですねちょっとお伺いしたいことがありまして、私の知り合いで教諭をしているものがありまして、避難所になった学

校があるんです。食料物資が圧倒的に足りなかった、水も全員に提供できなかったというお話がありまして、それはその後改善はされたのかっていうのを伺いたいです。

◎危機管理室長 はい。今のお話も前田のほうからご説明させてもらいますけども、この物資の問題も大変難しいところがあります。1点ご理解いただきたいのは、今回の津波の避難というときには、学校に避難されますけども、避難所っていうのは長期的な生活をする場所になります。今回はその避難所という前に、緊急避難をしていただいたんですね。安全確保する、高いところに逃げるといったところがあったので、当初そういう場面では物資を支給するという考えは実はなかったんです。まずは安全を確保するっていうタイミングでしたので。ただし、一方ではやっぱり熱中症の問題ありましたので、暑かったですよね。そこは、最終的には各学校の状況に合わせて物資の支給をしてほしいという、一応本部としてはそういうメッセージを出したんです。学校には保存水ありましたけれども、基本的には今津波レベルの数がなく、各学校に200本なんです。元々苫小牧で直下型地震を中心にして物資を、最近学校のご協力をいただいているんですけども、200本しかなかったということと、あとはあのときにはライフラインは生きていました。水道が使えなかったこともありましたので。そうは言っても例えばその学校に100人とか200人を下回るところであれば、物を配れるんですけども、多いところは500人600人って避難されていまして、そこはまた公平性が難しいところがあったものですから、今回は各学校のその場の状況に応じていうことで指導させてもらいましたけども、ただ今回も、この辺のルール作りも学校側からもいろいろご意見いただいていますので、そういったルール作りを改めて今回の課題検証としてやっていきたいというふうに思っています。以上です。

○司会 それでは他にどなたかいらっしゃいますか。はい。少々お待ちください。

◆市民 大町寿町内会の・・・と申します。大町のほうは避難しなくてもいいんですか。寿町のほうは避難ということだったんですが。避難場所は私たち東小学校です。東小学校は旭町でしたよね。うちのすぐ近くだったんですが、それが今度遠い東中と一緒になりましたよね。非常に遠い。しかも私たちは町内会というお年寄りが多いわけで。そこで、例えば旧市立病院とか、例えばここ文化交流センター（アイビー・プラザ）だとか、こういったところが避難所にならないかと。そしてあともう1つですね。そもそもその3mですよ。第1波が根室の花咲が30cmですよ。第2波はすぐ来ないんで、あの1波の30cmはそのままこっちに来るんですよ。どうしてこれが3mなんですかってことですよ。普通ならないですよ。どう考えても。第2波についても、1時間以上経っても来ない。私が解説者の人が、来ないですねってなって、逆にこちらのほうからこんな状態で、気象庁に呼び掛けて、解除か何かできないでしょうか。逆はできないんですか。

◎危機管理室長 はい。ご質問ありがとうございます。今2点お話ありましたけども、まず

避難場所ですね。苫小牧市ではその避難所については各学校にしていますけども、避難場所、緊急的に安全を守る場所っていうのは、津波避難ビルという指定もさせていただいております。その津波のときの避難場所としましては、先ほど・・・がお話になったような教育福祉センターもそうですし、このアイビー・プラザも津波避難ビルの機能を持っておりますので、長期的な生活をする場所ではありますけども、緊急的に津波から安全を守る場所としては、この場所に避難することも結構であります。

もう1点津波の高さのお話がありましたけども、気象庁から出てきた津波警報が一応3mまでというところで、これが結果論なんですけども、来た津波は苫小牧では50cm まででしたが、カムチャツカから遠く津波が来るってこともあったので、これはこのレベルの津波が来ますよっていうことではなくて、最悪この段階っていう言い方をしたんですよね。それが気象庁のルール付けでは津波注意報というものは1mまでなんです。その次のランクというのが津波警報で、これが1mから3mです。気象庁としては、そのカムチャツカから日本にやってくる津波が1mを超える可能性があるんじゃないかということで、津波警報という3mまでの情報を出しました。結果的には40cm、50cm でありましたけども、確か岩手県の久慈というところでは1mを越えたんですね。

◆市民 それは満潮とか関係していませんか。

◎危機管理室長 それが満潮とかあるんですけども、通常の海面から1.何mっていう検潮しますので、実際は1mの波は来たと。結果的に苫小牧には1mの波は来ませんでしたけども、気象庁としてはこの太平洋沿岸には1mを超える可能性があるってことで3mまでの津波警報を出した。ここは何とも結果論ではありますから、40cm で済んだね、50cm で済んだねってことではありますけども、気象庁としては最悪を想定してそういう情報を出していきます。一方で私どものほうでは、実際にどのぐらいの津波が来るんだっていうものをずっと観測をしまして、その結果、一番初めは36号線から南側っていうことで避難指示出しましたけども、だんだんその津波が40cm ぐらいで落ち着いているってことがあったので、避難指示のエリアを縮小していったという対応をさせていただいたというのが今回の対応であります。

◆市民 ずっとテレビ見ていたんですよ。まず衛星でみると、1時間後に来ますっていうんですよ。来ないんですよ。あれはもう来ないってみてもいいと思う。どう考えても。しかも真っ昼間ですから上から見えるんです。飛行機で。その情報って一体どこに聞いたらいいのかって思ったんですね。ここで言ってもしょうがないけど。

◎危機管理室長 私どもも観測機器を持っている立場ではありませんので、気象庁さんから出てきている情報に基づいて、最悪を想定しながら対応しておりましたので、その辺はまた気象庁ともいろいろ課題検証はしていきたいというふうに思っております。

<意見交換>

○司会 すいません。一旦ここで市長プレゼンについての意見交換を終了させていただいて、ここから特にテーマを決めずに市のまちづくりについて市長との意見交換を始めたいと思います。昨年度まで事前要望の回答ですとか、地域課題についてご意見を多くいただいております、主に各課の担当者から回答させていただいていたんですけども、今年度からできる限り市長と皆様との対話をする機会を充実させたいとのことから、各課の担当者はほとんど出席しておりません。市長、副市長、そして私たち事務局職員で参加させていただいております。そのため実務的なご質問については、ミーティング終了後に事務局のほうで内容やご連絡先をお伺いして後日、各担当者からご回答させていただきますのでご了承ください。なお発言する際には最初にお住まいの町名とお名前を述べてから、お1人1件ずつ簡潔なご発言をお願いいたします。それではご意見ございましたら、挙手のほうお願いいたします。

○司会 先ほどのプレゼンの話でも大丈夫です。

◆市民 船見町内会・・・です。うちのあなたの街でミーティングの中で出した中でちょっとね、認識が違うところがちょっとあったもんですからね。それだけちょっとお伝えしておきたいなと思って。

まずですね、私のところは、今頃から来年小学校1年生に上がる子供たちが、うちの町内会から出て行くんです。というのは、町内会の学校が若草小学校なもんですから、ちょっと遠すぎるんです。それでお金のある人ったらおかしいですけども、いわゆるお金がある人っていうのは、うちから出て行っちゃうんですよね。そして、学校に近いところに住もうという。だから、うちにいるのは、小さい子供から幼稚園までですね、幼稚園は迎えに来てくれますので、大体いるんですけども。お金のある人たちは、大体1年生になると出て行っちゃうんですよね。それでどうしてかというとなんかやっぱり学校が遠すぎるので、うちの校区を緑小学校につて30年も確か打診していたはずなんですけども、結局これは変わりませんでした。だからいる子は、ここに持ち家があるとか、家庭的に貧しいとか、そういうふうな人しかいないっていうのがあって、そういう子供さんが少ないっていうかな、正直、教育できるような人が少ないところなんです。

あともうひとつの話です。だけどね、船見町っていうのはもう交通の大きな道路、まず大きな陸橋の道路と、あそこ4車線ですよ。それからあと36号線。で、もう1つはJR通りにすごくたくさん車が走っております。そこでもう浮いてしまった状態なんです。もう車がないとどこにも行けないような状態です。だからそういうふうな状態の中で、やっぱりなんていうんですかね。自動運転みたいなやつを出して欲しいって出したんですけども、お金もかかるし、もう出ないとは思ったんですが、今まで全部その学校の校区も駄目、そして道路にトンネルを掘るのも駄目、信号をつけるのも駄目。そういうふうなことを言っているところで結局この辺まで出さないと

言うことを聞いてくれないんじゃないかと思って出したところもあるんですけども、うちの交通事情っていうのがそういうふうな状態で、もういわゆる小さな島の中にいるみたいな感じなんです。どこにも出られません。そして、一番あれなのは苦小牧市長さんが言っていました。私の目の前にバス停がある。反対側道路のところにもバス停がある。だけどあれは無理ですねっていうね。私たちは渡れない、この道路は。結局、両脇に歩道があるんですけども、バスが使えるような状態ではないんです。だから回答の中にバスを使ってくださいっていう回答もあったんですけども、ちょっと不可能に近い状態なんで、この辺の認識がちょっと違うなと思ってます。私がもう来た頃よりも、その道路の自動車の量がすごく増えています。だからそこがやっぱり一番何か問題かなっていうところはあると思いますので、すいませんけども。文句じゃないんですけど、お願いいたします。

◎市長 はい、ありがとうございます。子供の数自体が全体的に減少して、10年前に比べてもう半分近くまで生まれる子供の数が減っています。一方で東側には、人口が偏っているといいますか、移動していつていますので、特に真ん中から西側にかけては、ちょっとそういった子供たちが減る地域っていうのが増えていると。やっぱりそれに伴って高齢化が進んでいる地域もあると思います。そのような中で今おっしゃられたような話っていうのは現状としてあると。高齢者の皆さんもそうですし、子供たちの通学という意味においては、やっぱり校区のことも併せて考えていかないとこれは駄目なのかなと。30年ぐらい校区を緑小にっていう要望を出されていたのは私もちょっと知らなかったんですが、若草小学校もだんだん子供も減っていつていますし、今全体的に校区変更、規模の適正化というのは再度検討しているんですけども、その中で、船見町の子供たちの通う学校というのは改めて検討していきたいなというふうに思います。

足の問題についても、バスの回答が確かに書いておりますけれども、何とか、適正な高齢者の方の足確保というのは、助成制度も今残しておりますけれども、ちょっと課題として検討させていただきたいなと思っております。どうもありがとうございます。

○司会 はい。それでは他にどなたかいらっしゃいますか。

◆市民 一区町内会の・・・です。市長とは初めてなんですけども、僕も毎年のようにお伝えしていることがありまして、鹿対策ですね。市長もご存知の通り市内にすごい鹿があふれている状態で、北光町の未来の森公園で農園事業をやっているのを市長ご存知でしょうか。そこで毎年借りてやっているんですけども、今年の鹿の被害がものすごいですね。多分半数近くの方が被害に遭っていると思うんですね。僕の畑でも実際のところジャガイモ80キロぐらい食べられました。なので、あの区画で多分数t単位の食料を鹿に提供している状況になっています。去年の回答ですと、もうそこは個人の責任だからというお話だったんですけども、もう既にそんな何トンも食料を提供

しているような状況で、もう個人の責任というのは限界があるというふうに思っているんですね。もうそれだったら初めからそういう農園事業をやらないか、もう完璧に鹿に入られないような対策を市に何とかしてもらうか、本当どっちかじゃないと、多分もうみんな成り立たないと思うんですよ。その辺、市長どのようにお考えか、ちょっと意見をお願いします。

◎市長 ふるさと農園ですよ。あそこの未来の森公園の。あそこは私もちょこちょこ通るんで、見ていますが、鹿対策はもう既にやってらっしゃってあの状況だということですよ。食べられないように。

◆市民 やっているけれども、結局、個々の畑は個々に全部守るよという話なんです。でも、それがもう今年の鹿は網を倒して中に入り込んでそれで食べていくっていう状況になってもう、今までの僕たちの対策ではもう追いつかない。

◎市長 なるほど。このあたりは、市もネットの貸し出しとかいうものを一般家庭のほうにもやったりはしております、基本的には私も自分の持ち物に関しては自分でいろいろ管理していただくというのが基本なので、それに対して今のようなお声があっても、基本はまずそういう路線だということです。ただ鹿もたくさん出ているっていうのも数年前からのお話で、それに対して、捕獲を強めたり、捕獲の予算を増やしたり、あるいはそういったネットの貸し出しもしておりますので、さらにどういうふうに、今言われたようなことに行政として支援していくかっていうのは、ちょっとやっぱり検討の余地があるかと思しますので、現場の状況も見ながら、それをちょっと考えたいと思います。武田さん何か補足ありますか。

◎環境衛生部次長 はい。いわゆる分区園、未来の森公園の農地の関係ではないんですが、市の鹿対策全般を担当しております、環境衛生部の武田と申します。今市長から少しお話ございましたが、市の鹿対策としては、今市単独で約200頭ですね、毎年、あの周辺で実は捕獲しています。ただ鹿の場合、捕っても捕っても、外から入ってくるという動物であるという課題もありまして、そこは広域行政である北海道さんに、苫東を含めて、より広域でたくさん捕ってくださいという要望をお伝えしつつ、実は年間2,000から2,500頭ですね。苫小牧市内で捕獲と狩猟しています。ただ、鹿の繁殖力というのはそれでもなお増え続けるという恐ろしい数でございますので、そこは北海道や市もそうですけども、まずは基本的に捕って数を減らすということをしつかりやっていきます。その上で、それぞれの土地の対策については、それぞれ担当所管の部署がありますので、情報共有しながら何ができるかしつかり考えていきたいと思いますし、今市長から紹介ございましたけれども、一般家庭のお庭に関しては、私たちの環境生活課というところで、ネットの貸し出し事業ですとか、あとはフラッシュライトって言って、夜間に点滅することで鹿を追い払う、そうした機材の貸し出しも行っておりますのでぜひご相談いただければと思います。

◆市民 あそこは市が管理して貸している土地であって、僕たちが借りている立場です。そ

これは個人の所有のものではないので、市が対策するのが筋なんじゃないかなと僕は思うんですが。

◎**環境衛生部次長** そうですね。そこもちょっと私の担当と違う部署になりますので、持ち帰って担当部署と相談してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◎**市長** 今おっしゃられたようによくわかりますので。ちょっと管理者がいるのでその辺とですね、いろいろ情報、状況確認しながら、ちょっと検討してみたいと思います。ありがとうございます。

○**司会** それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。それでは、前から3番目の眼鏡かけた方。お願いします。

◆**市民** はい。大町の・・・と申します。空き家について質問したんですけどね。解体は難しいということのお返事なんですけども、定期的に巡回を行って安全確認をしてもらいたいという回答でございました。でもあそこはもう今の状況ではコーンを置いてあるだけで、風が強い時とかこれからあると思うんで、極めて危険な状態なんで、せめてブルーシートをかぶせて、少し安全確保するとか、何か対策をとっていただきたいと思います。

◎**副市長** 副市長の木村でございます。なかなか、基本的に民地ということになると、市としてどこまでのことができるのかっていうことはありますけども、ただやはり危険な状況をそのままにしておくということもできないわけですので、市として所有者の方に対しては、これからも逐次連絡を取っていきたいと思いますけれども、状況を見ながら、市としてできる範囲のことはさせていただいて、危険なことがないように少し見ていきたいですし、何かそういう状況の中で市としてできることがあるのであれば、その対応というのを検討してまいりたいというふうに考えております。

◆**市民** よろしく願いいたします。

◆**市民** 大町寿町の・・・です。その土地の所有者が近くの・・・なんですよね。そしてその不動産管理をしているのは、・・・です。あそこに建てている所有者が今、札幌に行っているんです。言いたいことは、どっちにしても、おそらくネオンが落ちたり、誰かが怪我をした場合、所有者の責任ですよね。ということをやはり・・・を通じて言ってもらいたいんですよ。あれ危ないですよ。大きいのが本当に歩道に来ているんですよ。

◎**副市長** そこまでの状況っていうのは市のほうでもわかっていると、・・・っていう名前も出ましたけども、そういうところはっきりしているのであれば、私たちもいろいろ打つ手はあるのかなと、・・・に対してですね。その辺は今一度、所管の部署に確認させていただきたいと思います。

○**司会** それでは時間近づいてきているんですけど、先ほど手挙げられた方、最後にご質問を受けたいと思いますのでよろしいですか。それでは、前にお座りの方。

◆**市民** 一区町内会の・・・といいます。お聞きしたいのは、駅前再開発なんですよ。あそこ

は僕が表町に来たときに、まだダイエーがあったりして、非常に賑わっていたんです。あそこは結構不動産のマンションが何棟も建ってしまっていて、そしてそういうこともあってよかったんですよ。ところが、あそこが閉鎖になってから買い物行く場所がなくなったとか、みんなね、高齢者になってきたら、駅を跨いでメガドンキーは大変だし、タクシーで行くのは大変だということ、そういう苦情が結構出て、早く駅前の開発を進めて、はやくあれを壊してという話言われていたんですよ。もうかれこれ 20 年近くなのかねこれ。僕が今のマンション来てから 20 年ですから、その後閉鎖になりましたからね。だからすごく高齢者になったけども、どれだけ駅前再開発がちゃんとできていくのか、本当に活性化のまちづくりになるのか、期待と半分は裏表になって、不安になっているんですよ。というのは駅がああいう状況ですから、一時、沼ノ端に苦小牧駅が行くんじゃないかとかそういういろんな不安があったんですよ。だから今回駅前再開発が岩倉市長の時代に物件の担保が解消されて、非常に進むということ、それから解体に 10 億だとか、噂では 10 何億かかるとか、大変な金がかかるけども、先ほどの日本ハムの 2 軍がどういう形になるか、駅前に来るのか別にしても、そういうことを含めて期待を持っていることは事実なんですよ。ぜひ一つ、積極的に駅前の開発を進めて、駅前が活性化をして、そしてあの駅もあのままでは活性化されてもあまり駅の間口になりませんから、その辺も含めて開発を一段と進めていって、みんながそこに集えるような、あるいは明るく、そういう苦小牧の魅力が発信できるようなまちづくりをお願いしたいという、町内会でもそういう話が出ていますので、よろしくお願いをしたいと思います。

◎市長 はい、ありがとうございます。先日も敬老会に伺って、皆さんのそういう意見をいただきました。生鮮スーパーがないっていうのも、私は議員のとき、ちょうど egao が閉鎖するちょっと前、アークスさんが撤退するっていうお話のときにそういう話もいただいておりましたので、もちろんそういった意味では、今ちょっと不慣れた環境がずっと続いているかなと思います。そういったものも含めて駅前の再開発しっかりと進めてまいりたいので、今のご意見もしっかり受け止めて検討していきたいと思っています。ありがとうございます。

○司会 それでは最後にさせていただきたいと思います。はい、お願いいたします。

◆市民 すいません貴重なお時間、幸町の・・・です。まず、物価高騰の折、水道基本料金の減額、市長の英断に感謝申し上げます、ありがとうございます。

それでは早速でございますが最後でございます。先ほどもちらっとお話させていただきました。市議会議員の・・・を通して、いろいろ苦情、クレーム、市の担当部課にぶつけております。回答は計 5 件、担当部課だけの適当な答え、としか私は言えません。まして、回答者の役職名、氏名も何もない。そういう回答文書が多々ございます。そうした中、できれば、人もいない、予算の厳しい中、大変かと思いますが、市民からの苦情、クレーム等があった場合は、いわゆる協働・男女平等参画室を、第三

者的な立場、中立の立場において、苦情申し立て本人と担当部課のその三者による話し合いの場、例えば苦情解決センター等そういう市役所改革をぜひお願いしたいと思います。

その理由というのは、2つ3つ苦情を申し上げますけども、市長自身が1人1人の職員をより大事にする市役所づくり、これを公約に挙げてございます。

具体的に言いますと、毎年8月1日が介護保険の負担割合の変更点があります。7月31日になると、保険証が来ないもんですから市役所の担当のほうに確認しました。市のほうでは郵便局に出しています。確認しません。必要であるあなたが郵便局に確認して聞いてください。とんでもない職員ですね。

それと生活支援給付金室、定額減税不足額給付のお知らせというのがまいました。申請文書100%の間違いがございます。それを指摘させてもらいましたら、回答は書類に不備がございました。丁寧に説明書きもそのままです。何万枚のミスプリントした申請書、市民に平然と配っている担当部課。さらにこれも同じく私が直接出るよりも、・・・さん通したほうがいいなと思って相談した。市議会議員さんが以前、弁当を買っていることを目くじら立てたようでしたけども、私は職員の弁当を買うということを目くじら立てません。

今何が問題かという、勤務時間中に道路を渡って、間山商店さんの、人の土地の、ご厚意で作っていただいた喫煙所に、勤務時間中にタバコを吸いに行っている。そういう職員が散見されます。現実問題として、弁当を買う以上の大きな問題だと思います。それについての回答は、服務規律については周知徹底を図っています。徹底を図っているんだったら、勤務時間中にタバコを吸いに行く職員いますか。もう少し管理職教育、市役所の内部改革、これをぜひお願いしたいと思います。市民から信用されない応援を受けない、そんな市の職員がいれば、多くの一生懸命本当に働いている真面目な職員まで変な目で見られますよ。ましてや、市長が言っている苦小牧市市民総活躍のまち苦小牧づくり。その公約だって危ないと私は思います。公約7番目、市長が実行されるのであれば、市の職員の特に管理職教育、これを徹底してやっていただきたいと思います。以上です。

◎市長 はい、ありがとうございます。大変貴重なご意見だと思います。私も議員になる前、市の職員3年やっていましたので、やっぱり市民の皆さんから見られる目ってというのは大変厳しいものもあると。それは今言われていましたように、やっぱり市民から信頼されるという意味においては、ちゃんとやっぱり仕事をする、あるいは勤務するということかと思えます。やっぱり市民の皆さんのためにある市役所ですので、そういった特定の職員が何かをして、市役所全体が悪く見られるようなことは、これは避けなきゃいけないだろうと思います。今ご指摘があった点については、・・・さんも、いろいろお問い合わせいただいていますから、状況はどうかっていうのは説明してお聞きになっていると思います。職務専念義務違反と言われるような、今の喫煙の話

もそうですが、仮にそういう事実があったらそれは本当に直すように、しっかりと徹底していきます。明後日ちょうど部長会議内部でありますからそこで改めて、こういう御指摘があったということを紹介した上でタバコの問題、それから職員が昼休み以外の時間にお弁当を買いに行っているっていうのは、順繰り休み時間を変えてやっている可能性もありますから、まあタバコもそうですけどね。そのあたりはちょっと事実確認しないとわからないところもありますけれども。基本的には職務専念義務に反しない形で、職務の遂行というのを徹底していきたいと思っています。はい。ご意見ありがとうございます。

○司会 それでは、これで意見交換については終了させていただきます。この後ミーティングは閉会となりますが、先ほどご案内させていただいた通り、担当課へのご意見ご要望等がございましたら、お帰りの前にこちらの事務局席にお立ち寄りください。内容とご連絡先を確認させていただき、後日担当課から連絡させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。それでは以上をもちまして、あなたの街でミーティングを終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

令和7年度あなたの街でミーティング会議録

開催日 令和7年9月25日（木）

地 区 植苗地区

会 場 植苗ファミリーセンター

<市長プレゼン>

◎市長 改めまして、皆さんこんばんは。苫小牧市長の金澤俊でございます。私市議会議員を17年させていただいております、これまでに植苗地区の皆様にも度々お会いする機会があったかと思っておりますけれども、昨年12月に改めて苫小牧市長に就任させていただきまして、これからより一層、市民の皆さんの生活向上のために一生懸命頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

そして、今日皆さんお仕事でお疲れのところ、たくさんの方々お集まりいただきまして本当にありがとうございます。加えて小さなお子さんもお出席いただいております、私もこどもどもんなか政策というものを第1に掲げて、将来ある子供さんたちをしっかりと支え、そして育てていけるようなそういった施策を、どんどん進めていきたいと考えているところでございます。ぜひとも、皆さんも一緒にそういった視点で、このまちづくりに共に歩んでいただくような、そのようなことでご協力いただきましたら幸いです。今、司会からもありました通り、私も市長就任いたしまして、前岩倉市長がしていたのと同じく、地域に赴いて市民の皆さんとの様々なお話を聞くような機会を、作らせていただきたいということで、今回あなたの街でミーティングという名前を変えて、また手法も若干変えて、これまでたくさん職員を同席させて、皆さんのご意見を聞いたりしておりましたけれども、それを少しコンパクトにして、できる限り私が直接お話をさせていただくような形をとらせていただいております。

まずプレゼンということで大きく5点、皆さんにお話させていただいて、それに対するご質問、ご意見をいただくような形をとり、それ以外の質問についてはその後時間の限り、皆さんからいろいろとご意見賜りたいなと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

まず、高齢者福祉でございます。私もこどもどもんなか政策を第1に掲げておりますけれども、子供だけではなくて、ど真ん中にいるのは市民の皆さん全員そうでございます。特に強調したいのは、やはり子供たちのことをしっかりやるのが、将来的にこのまちを支えていく人材を育てるということになりますので、それがひいては、高齢者の皆様を支えていく、そのような環境づくりにも繋がるということで、皆さんにはご理解をいただきたいなという思いがあります。苫小牧市も、全体の予算、右上に書いてありますが、約1,250億円あるうち、高齢者の皆さんに関わる予算としては

約 300 億、そして子供たちに関わるものが 135 億円ということで、このような予算になっているということをまずご理解いただきたいなと思っております。

次、お願いいたします。

高齢者福祉ということで、様々なことをこれまでも苫小牧市やってきております。岩倉市政においても福祉のまちづくりということで、大作戦事業もやっておりました。いろいろとありますけれども、認知症カフェですね、認知症の方、あるいはその家族の支援ということで認知症カフェもさせていただいたり、あるいは最近シルリハ体操と言ってますけれども、シルバーリハビリ体操をやって、介護予防の促進をしましょうということで、その指導に関わる方もどんどん育成をしていっているところでもあります。

そして予防接種ですね。これまでインフルエンザ肺炎球菌等々をやってきておりますけれども、今年から、带状疱疹ワクチンの予防接種も、これは高齢者の方向けにさせていただくという事業を進めているところでございます。こういったものも、ぜひ皆さんご利用いただいて、健康維持していただけたらというふうに思っております。

次、お願いいたします。

それで、先ほど申し上げましたけれども、やはり子供のことをしっかりやることが、最終的には高齢者の皆さんを支えていくことに繋がると私は思っております。子供と高齢者の皆さんとの相関関係といいますか、これはもう間違いなくこの後でも、もっともっと、繋がりができていくものと思っております。今既に、例えば左上になりますけれども、高齢者の皆さんが収穫した農作物を子供食堂でご提供いただいて、活用させていただいたり、あるいはボランティアの高齢者の方による子供の見守りというものを、この右の上ですけれども、させていただいています。またあるいは逆に、これは社会福祉協議会の事業でやっておりますけれども、高校生の灯油配送ボランティアをやっておりまして、市営住宅のエレベーターのないような高層階に住んでいらっしゃる高齢者の方のご自宅に灯油を持って、高校生がそれを運ぶというようなことをやっていたり、スマホ教室を高校生が高齢者の方にやってるということで、相互に支え合っているというものがあろうかと思っております。

次、お願いしたいんですが、こういった中で、やはり皆さんにぜひお願いしたいのは、我々、私もこのこどもまんなかについてを訴えながらも、まだまだ地域ではそういった意識が行き届いていないのではないかというご指摘を受けたりします。例えば、公園で子供たちが遊ぶ声がうるさいというようなことを、地域から訴えられたりすることもあるように聞いておりますけれども、子供さんはやっぱりいろいろと遊ぶと、大きい声出したりするものだと思います。だからまずはそういったものも、地域で受け止める、そういう寛容さを持っていただけたらなというふうに思っております。もちろん子供さんたちが危ない遊びをしていたり、何か公園の遊具を壊すよ

うなことをしていたり、水をば一っと出してもったいないようなことをしていたり、そういったときは、ぜひ皆さんで注意をしていただくようなことで、子供たちに対して正しい道を教えてあげてほしいなど。そういった形で、お互いに認め合い、そして譲り合ったり、同じ時間だとか場所を共有しあう、そういったものを、子供たち、若い人たち、それから高齢者の皆さんも、市民全体で、そういう意識を持っていただけるようなことに繋がっていけばなという思いで、こどもどまんなか政策も、高齢者の皆さんの事業も私としては進めていきたいと、このように考えておりまして、子供の声が聞こえるまちというようなことを、これからも進めていきたいと思っております。

次、お願いします。

それから2つ目のテーマでございます。日本ハムファイターズの2軍の施設の誘致についてでございます。今日実は、苫小牧の商工会議所さんを中心に、期成会が立ち上がりまして、その足で苫小牧市役所に日本ハムファイターズ2軍施設の誘致の要望書を持って来られました。報道にも既に出ているということで、皆さんも目にされた方多いと思いますけれども、私としましては、何とか2軍施設の誘致は実現したいというふうに思っております。この話は私が市長就任するちょっと前ぐらいから報道等に出ておりまして、実際どうなんだろうっていうところはあったわけですが、正式には7月7日、令和7年の7月7日で777の日だったんですけども、日本ハムファイターズさんが、正式に2軍施設を千葉の鎌ヶ谷から道内に移転しますということを発表されました。それを受けていろいろ私も内部での検討もございましたし、何よりも市民の皆さんの声が非常に大きかった。

さらには私が表明した後ですけれども、お隣の白老町さんからも、経済団体含め44名の方が来られて、ぜひ苫小牧に誘致してほしいということを要望いただきました。昨日ですけれども、鶴川町のほうからも、町長さん他、鶴川町役場と他9団体の皆さんが苫小牧に誘致をしてくれということで、要望書を持ってこられました。

私としては7月の28日に正式に定例記者会見において、2軍施設の誘致にチャレンジをするということを表明させていただきまして、それから日本ハムファイターズとは、何度かにわたって事務レベル、あるいは私も直接会う機会もありましたが、協議を続けてきているところであります。なかなか場所等についてもこういうところを検討してるんだっていうのを、市民の皆さんにもお知らせしたいところなんですけれども、これは交渉事ですので、相手もあることですから、なかなかそういう情報を開示できないわけですが、やはり人の往来があるほうが選手も、あるいは観客も、お客さんも来やすいというのがありますので、やはり交通の利便性が良いところで駅周辺はどうかと。あるいはインターチェンジの近くはどうかということで、いくつかの市内の候補地を今検討しているところでございます。このあたりは、日本ハムファイターズさんも2027年に2軍の施設をどこに作るかというのは

決定をして、2030年ぐらいにはもう供用開始したいと言っています。その辺のスケジュール感と、あと土地をどこに確保できるか、あるいは我々の苫小牧市として公的な資金を入れてやれるところがどこまでなのかとか、そういったものをいろいろ協議しながら最終的には決まると思っておりますので、皆さんにはその行く末を見ていただければと思います。

何よりもお願いしたいのは、今苫小牧で、あるいは1市4町で期成会が立ち上がりましたがけれども、民間主導で皆さんのもとにも、おそらく署名活動のお願いがあらうかと思っております。候補地の1つである恵庭では、5万弱、4万9,000いくつの署名が集まったということを知っておりますので、人口規模は我々のほうが全然多いので、倍以上ある町ですから、何とかそこに負けない署名活動の数を集められたらなというふうに思っておりますので、何といても、皆さんの応援する声が一番ファイターズに響くと思っておりますから、ぜひともご協力をお願いしたいというふうに思っております。

はい、次お願いします。

それから3点目ですけれども、津波警報に関わる避難の考え方について改めてお話させていただきたいと思っております。7月の30日でしたけれども、カムチャツカ半島での地震によって津波警報の発出をいたしました。これに伴って、苫小牧市としましては、国道36号線から南側を、避難対象として避難指示を出させていただきました。このあたりはだいぶ海から遠いですので、そんなに急いで避難するような地域ではなかったかと思っておりますけれども、割と市の中心部から西側では、皆さん避難していただきました。特に津波が来るといって、高いところに避難をされた、行動に出られた、この市民の皆さんの行動は非常に良かったと思っております。

ただ、今後に向けて、ぜひとも考えていただきたいと思っております。私がお話をさせてもらっていますのは、まず地盤高を、今お住まいのところはどれぐらいなのか、地面の高さですね、海面からどのぐらいのところに住んでいらっしゃるのか、あるいは普段お勤めになる会社が、どれぐらいの高さにあるのかというのを、改めて確認をいただきたいというのが1点です。

それから、仮に津波が発生したというときに、どれぐらいの津波が来る予想なのか、最高で高さはこれぐらいだということのを、しっかり把握するようなことをお願いしたいと思っております。と申しますのは、今回の地震で皆さん高いところに避難をされたわけですけれども、実は今いらっしゃる場所でも十分、津波が3m今回3mという予想でしたけれども、3m以上のところにいらっしゃる方々ですね、そういう方はあえて、当時暑かったので、熱中症のリスクですとか、あるいは車で避難して、交通渋滞に巻き込まれてしまうようなリスクとか、そういうものをリスクを負ってまで避難をする必要はなかったかもしれない。そういう方もやっぱりいらっしゃると思うんですね。ですから、今後に向けては先ほど申し上げたような、今住んでいると

ころがどれぐらいの地盤高なのかということ、まずは把握していただいて、こちらに津波のハザードマップっていうのが各ご家庭に、地域ごとに配られておりますので、これを、ぜひとも普段から把握をしていただきたいなと思っております。

ちなみに、今回我々の苫小牧市のホームページにたくさんの方が、おそらく津波のハザードマップを見るのにアクセスをされた、あるいは情報を取るためにアクセスされたと思うんですが、それでホームページがダウンしてしまいました。そこで皆さん情報がなかなか取れなくなったという方が多かったのかなと思いますけれども、そういったことも日頃から、こういったハザードマップ、自分たちのお住まいのところがどれぐらいかというのを把握していただければ、そういった心配はまずないかなと思います。ちなみにダウンしてしまった市のホームページですけれども、しっかり補強して、修繕しました、直りましたので、そちらご心配ないということになっております。

はい。これ皆さん見たことあるかもしれませんが、今回の津波の来る対象になっていたのは、赤くなっている、オレンジ色になっているところです。36号線より南側でも、さらに高い津波が来ると思われていた黄色のエリアがあるんですけども、我々も、どこかで線を引かないと、市民の皆さんになかなかそれが伝えにくい部分があったので、今回36号線から南側というやり方をさせていただいております。

はい、次お願いします。

そして今この会議が始まる前に・・さんともお話してたんですが、クマの問題であります。これは本当に最近また北海道だけではなくて、全国的に、東京でもクマが出ているということで、その対策が非常に急務であり、重要になってきているところがあります。国のほうは法改正を行って、この9月1日からガイドラインを出してる場所では、市街地でも銃が撃てるようなことを認めるようになりました。

ただ、そのまちまちで、さらにどういうふうにやっていくかという具体的な計画は策定しなければいけなくて、苫小牧市では今、年内の素案策定を目指して、ゾーニング計画を作成しているところであります。こちらに作成中のマップなんですけれども、苫小牧市内でクマが出ると思われる、生息していると思われるものを書いておりますけれども、特に多いのが、このピンク色のところが、クマさんがよく出る緊急捕獲地域というふうに書いておりますけれども、エリアでして、この多くは、皆さんの住むエリアが含まれているところです。それでここを、どのように住み分けていくかと、我々が住むところとクマさんがいるから行っちゃ駄目なところと、非常に難しいんですけども、その辺はできるだけ皆さんにはわかりやすくゾーニング計画というものをお示しできるようにとは考えておりますけれども、今できることをやっていこうと、まず皆さんにお願いしたいのは、ゴミを出さないことですね。ゴミを道路とかに捨てない、あるいは夜にステーションにゴミを出すようなことも、できるだけ控えていただきたいなと思います。それはクマが食べに来たりしますので、まずそう

いうことは我々皆さんとともにできることかなと思っております。

あとは、クマさんは川に沿って移動するというようなことを聞いておりますので、そういった川の草をしっかり刈るということも、私どももやらなきゃいけないことかなと思っております。市の管理している河川もあれば道が管理している河川もありますので、その辺は道とも連携を取りながら、できる限り、生い茂っている中でクマの判明がしづらくならないように、環境づくりをしていきたいというふうに思っております。

はい、次お願いします。

最後ですけれども、苫小牧駅前の再整備というものも、着々と進んでおりまして、まだ建物を壊したりしておりませんが、岩倉前市長も、大変体調優れない中で土地の権利者の方々との話の方向性をつけていただいて、一つの駅前の再整備の方向性というのが見えてまいりました。先日ですけれども、事業者さんがプロポーザルで決まりまして、これから協定の締結を経て、約1年かけて、この駅前どう再整備していくかという計画を作ることになっております。

私としましては、公約でも示させていただいたんですが、雨でもお子さんたちを連れて楽しめるような、そういった空間を、施設を作りたいと思っておりますのと、科学センター、だいぶ古くなりましたので、駅前に移行したらどうかというようなことも、構想には入れております。ただ、非常に財政的な負担も生じる可能性がある事業ですので、そのあたりは内容と財政的なシミュレーション、これをしっかり行いながらどういった形でやるのか、いつどういうものを作っていくかというのは、今一度内部、それから事業者との間で協議をしていかなければいけないと思っております。いずれにしても、egao がもう操業を止められて、あの形になってもう10年、これ以上あの姿を残すということだけは私は避けたいなと思っておりますので、建物の解体も含めまして、遅れることないように駅前の再生を進めていきたいと考えているところであります。

ざっと足早ですけれどもお話をさせていただきましたが、今の5点について、何かご質問ご意見などあれば、忌憚のないご意見いただければと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

<プレゼンに関する意見交換>

○司会 それでは、ただいまの市長プレゼンを聞いて、会場の皆様からご感想やご意見などいただければと思いますが、皆様のほうで何かご質問ご意見等ございましたら、挙手をお願いしたいと思います。

◆市民 ・・と申します。どこからこれ関連するかちょっとわかんないんですけども、ヒグマ対策でさっき喋られたんですけども、この植苗、この5年間ぐらいで36号線沿い、全部含めて、雑品屋さんとか色んなのが出てますね。あつという間に増えました。

クマは植苗の 100 年史なんか読んでもらえば、ここ行ったり来たりしてるのは当たり前なんですよ。今の聞いた限りでは当たり前のことなんですよ。車の交通量が多くなるし、それから雑品屋さんも多くなってきてるし、そういうことで見かけるのが多くなって、クマにとっても大変なんですよ。ですからそれはもうしょうがないかな、でも人間にできることは何かということのをちょっと考えてみた場合に、法律上では、なんぼでもここにいろいろな解体業者からも自由に出入りできてますよね。法律上はなんぼでもできるんでしょうけども、彼らはそういうところをつついてやってきてます。それと人も多くなってきてます。やっぱりそこら辺の規制をちゃんとしておかないと、釧路市みたく、または鶴居村みたく、起きてからじゃ遅いんですよ。物事が起きてから。

クマの問題についてちょっと言っちゃいましたけども、例えば札幌のサファリパークみたいな、何回も何回も指導して、結局はこんなふうになってるんですよ。だから条例をちゃんと早く作って、それも実行力のあるものを作らないと、同じことが苦小牧でも起きると思います。これ全てです。住宅もそうだし、それから違法建築も含めて、もう少し早くしないと大変なことになると思いますんで、企業誘致も結構ですけども、そこら辺とバランスをうまくとってやってほしいと思うんですけども、そういうことを要望します。

◎市長 ご意見、まずありがとうございます。今のお話、クマだけではなくて、違法建築からいろんなものを含んでお話されたと思いますけれども、違法建築物もそうですけれども、法律はまずしっかり守らなきゃいけないと思いますし、我々もそれに対して、守られるべくいろいろな通達指導を含めてやっていかなければいけないと思っております。

クマのことについても、このあたり非常に出てるのは、昔からこの国道もクマの通り道があったりとかっていうのも聞いておりますので、まずは市民の皆さんの安全をしっかりと守るという視点からいきますと、先ほどのゴミの問題もしっかり守っていただくのもそうですし、あるいはクマが出たときに、子供さんたちの学校に関しては、通学を控えていただくようなことを学校側と連携してやっていったり、そういったところが、取りうる方法なのかなというふうに思いますけれども、今回のクマがいろいろ出ていることについても、地域地域で違うとは思いますが、市民の皆さんの安全を守っていくべく、いろんなご意見いただいた中で知見を積み重ねながら、対策を練っていきたいというふうに思っております。ちょっとお答えになってるかわかりませんが、そのように考えております。

○司会 それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。はい。今マイクを持ちますので、少々お待ちください。

◆市民 ……です。草が伸びているので、クマを見つけられないので、通学路の草刈の回数を増やして欲しいです。

◆市民 ……です。すいませんちょっと補足させてください。これ実際に……が7月の初めぐらいに登校中に言っていたんですけど、5月終わりから6月、「ヒグマ出るよ。」って言われて、その保護者の送迎期間っていうものが1週間程度あったんですが、それが終わった後も別にクマが出ないっていう保証はなくて、その中で子供だけで登下校させるのがちょっと怖かったので、しばらく一緒に近くまで行って、「ここからだったら大丈夫かい。」って聞いて、送っていた期間があったんですけど、7月に入ったぐらいから、ここら辺の山道のところが通学路になってるんですけど、山沿いの道が、その草がすごい伸びていて、これじゃあちょっと小学生では見つけられないなっていうのがあったので、その回数を増やしていただければ、こまめにちゃんと草刈りされてれば、遊んでるときでも、登下校のときでも発見しやすいのかなと思ったので、本人も言っていたので、今発言させていただきました。

◎市長 はい、ありがとうございます。意見言っていただいてありがとうございます。先ほど申し上げた通り、川沿いの草対策もそうですけど、今具体的にここっていうのがもしありましたらね、市のほうなり、あるいは学校のほうでも何か対応してくれるかもしれませんが、どんどんご意見お寄せいただきたいと思います。ありがとうございます。

○司会 はい。それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。市長プレゼンに関して、ご意見ご感想などどうでしょうか。

◆市民 植苗中央の……といます。先ほど、クマに関してゴミの、生ゴミとか、ちょっと話が出たんですけども、提案なんですけども、ゴミのポイ捨てっていうのは、だいぶ前ですけどもまちかどミーティングで提案させていただいていただいたんです。中身はですね、道端にですね、ゴミのポイ捨てとか、弁当の空とか、よく皆さん見られると思うんですけども。これですね、市は一生懸命頑張って啓発して、それでもなかなか減らないなとは思ってます。最も効果的なのは、警察で講習会ありますよね。その最後の30秒とか1分でもいいのでこれはやめてくださいね、軽犯罪にあたりますよっていうことを言ってもらおうと、運転者の人もそうかということで、いくらかは減るんじゃないかと思うんです。ですからこれを市のほうから警察、どういう組織かはわかりませんが、講習会の最後をお願いしますというのをお願いいただけたらという提案でございます。

◎市長 はい、ご意見ありがとうございます。警察署長さんとは私も頻繁に会う機会あります。ちなみに今、全国秋の交通安全運動期間になっておりまして、この地域でも交通安全のいろんな運動していただいていると思いますけれども、この間お会いしたときも、所長とクマの話からいろいろとお話をしておりました。その中でやっぱりポイ捨てについても、例えば缶を車がタイヤではじいて危ないとか、いろいろありますので、そのあたりもしつかりと警察署長にも、まず私のほうからも次の機会でお話をしてみたいなというふうに思っております。はい、ありがとうございます。

○司会 はい。それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。はい。少々お待ちください。

◆市民 中央町内会の・・・と申します。よろしくお願ひします。ちょっといくつか聞きたいこととか意見があったんですけど、ちょっと今回の話でヒグマっていうのと、ゴミっていうキーワードが出たので、ちょっと今回そういうつもりはなかったんですけど、僕、この美々川周辺でカヌー事業をやって、実は毎年川の上にいるんですね。お客さんもやっぱりクマのニュース多いんで、参加のお客さんからもクマってどうなんでしょうか、去年とかすごい質問あって、どちらかという、誰よりもクマに会いやすい環境に日頃からいるんですけど、まずゴミっていうのもやっぱりそういう関係してるのかなと思ひまして。さっきもゴミ捨てる時間を守りましょうっていうのもあったんですけど、やっぱり36号線沿いのゴミってすごい目立つと思うんですね。国道沿いもゴミだらけじゃないですか。特にログハウス美々さんから空港に行くまでの、あそこの36号線の交差点からモダ石油のほうまでっていうのは、途中で千歳方面へ行くまでにトラックの人が休憩できるスペースっていうのもあるんで、あそこ特にめっちゃめっちゃゴミ多い、多分走ってる方は、皆さん気づいてると思うんですね。でも、あれだけゴミ捨てられてる。クマ対策とかね、そこのゴミ解決を先にしたほうがいいんじゃないのかなって思うところもあって、やっぱりあそこは、前回のこのまちかどミーティングのときにも、あそこは暗いっていう話も出たんで、暗い中ゴミ捨てやすい、トラック止まってたら見えないので、ゴミ捨てやすい場所ではあるのかなと思うんですけど、やっぱりこのトラックの人が休憩する場所っていうのももちろん必要ですし、やっぱり長距離運転の人とか、僕たちもそうですけど、車の中で出たゴミって捨てづらいついていうのはやっぱりあると思うんですよ。これは家に持って帰ってゴミ捨てましょうって一番ベストですけど、それってなかなか難しいのかなと思ひます。今も苫小牧のほうだとポイ捨て禁止の看板が所々立ってるじゃないですか。ユニークな看板がたくさんあると思うんですけど。あの看板ってもう一般常識からすると当たり前だと思うんですね。ゴミ捨てないでくださいって書いてある看板なんて、もう多分誰もがわかることなんですけど、それができてない人間がやっぱりいるので、あの看板に果たして効果があるのかっていうのもやっぱり思っちゃうところが正直あるんですけど、やっぱりゴミを捨てないでくださいっていうのももちろん大事ですしそれがベストですけど、ゴミを捨てれる場所っていうのもちょっと市のほうで考えていくと、ゴミを捨てる人減るんじゃないのかなと思ひました。

例えば、昔みたいにガソリンスタンドでゴミ回収しませんか、昔はよくね、車の中のゴミをガソリン入れるタイミングで捨てたりもできましたし、コンビニはなかなかゴミ箱を外に設置するところ少なくなってきた、捨てづらくなってるんですけど、そういう場所にゴミ回収するところを苫小牧市でちょっと用意して、苫小牧市のほうでちょっとガソリンスタンドとかそういうコンビニとかに、あとは道の駅とかそ

ういうところでゴミを回収する予算を出して、もっとゴミを回収しやすい環境を作ると、ああいう長距離ドライバーのゴミとか減るんじゃないのかなって思っています。

あとはさっきの警察の話なんですけど、ポイ捨てってちっちゃいゴミ捨てるのもやっぱり違法性があると思うんですけど、僕もちょっと調べてたら、ポイ捨ては不法投棄になるんで5年以下の懲役または1,000万以下の罰金ってなると思うんですよ。でもそれ多分知らない人が多いと思うので、もう苫小牧が本気になってポイ捨ての人を本当に捕まえちゃう、苫小牧本気だよっていう姿勢をちょっと見せていくと、ちょっと意識変わってくるのかなと思いました。ゴミが少なくなることによって、この36号線沿いに来るクマもちょっと減るのかなと思ひまして。

◎市長 はい、大変貴重なご意見ありがとうございます。先ほど申し上げた通り苫小牧の警察署長とはよく会うので、道交法違反の中にそういうポイ捨てもあるんだよっていうのは、やっぱりどっかでもう少し言ってもいいのかなっていうふうには思います。ただ我々捜査機関ではないので、捕まえたりとか罰したりとかできないんですけれども、それを警察と連動しながら、そういうことを進めるっていうのはできると思いますので、ぜひともそれは署長と話してみたいと思います。ゴミを捨てる環境、これは副市長のほうから。

◎副市長 皆さんこんばんは、副市長の町田でございます。いつも大変お世話になっております。ゴミの関係ですね。おっしゃる通りだと思います。ただ、36号線沿いは国道なので、北海道開発局が所管になりますので、市のほうで勝手に看板を立てたりっていうのはなかなかできないものですから、その看板も全く効果がないっていうわけではなくて、まちの中にポイ捨て禁止の看板を立ててるんですけども、看板付近にやっぱりゴミ落ちてないんですよ。一定の効果はあると思います。ですから今後、国道なので国のほうとも相談をして、ああいう休憩所のところに、例えばゴミを捨てるクマが出ますですとか、そういうような工夫した看板が立てられないかちょっと協議をしてみたいというふうに思います。

それから、ゴミ箱の設置なんですけども、これなかなか、非常に難しいと思ひます。仮に市がああいう休憩所のゴミ箱を作っても、どのタイミングで回収するかっていう、おそらく短いスパンで回収しなければ、そこにまた動物が寄ってきたりっていうこともありますので、なかなか難しいなと思います。ガソリンスタンドですとか、コンビニさんもそうなんですけども、あくまでも民間の経営ですので、そこに負担をかけるっていうのが、例えば無償でやってくれるものかどうかというところもまだわかりませんし、コンビニなんかは完全にゴミ箱は店の中になっていうふうになっています。ガソリンスタンドによってはゴミを回収してくれるスタンドも、たまたま私行ってるスタンドは回収してくれるので、そういうスタンドもありますけれども、なかなか市のほうで強制的にっていうのは難しいので、先ほどもご意見ありました通り、まずはその講習会の中でそういうお話をします。ただポイ捨てしてるのが、苫小牧

市民よりも物流のまちなので他のまちから来る大型のトラックですとか、そういうところからポイ捨てされる可能性が結構ございますので、その対策をどうするかっていうところは、なかなか苫小牧市だけではできないので、そこは北海道とも協議をしながらやっていきたいと思えます。

あとクマ対策もやはりクマが増えてるっていう事実がございますので、北海道のほう、北海道一円で、駆除の対策ですとか、今後やっていかなきゃいけないでしょうし、シカも増えてます。これ例えば苫小牧だけシカを捕っても、今度他の地域から苫小牧にシカが流れてきますので、北海道全体でっていう話になると思えますので、シカもクマもですけれども、そこは今後も、引き続き北海道のほうと協議を重ねながら、少しでも対策になるように努力してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

<意見交換>

○司会 それでは市長プレゼンについての意見交換は終了させていただきます。ここからは特にテーマを決めず、市のまちづくりについて市長との意見交換の時間となります。昨年度まで、主に各課の担当者から回答させていただくことが多かったんですけども、冒頭市長からお話ありました通り、今年度からできる限り市長と皆様との対話をする機会を充実させたいとのことから、各課の担当者はほとんど出席しておりません。市長、副市長、そして事務局職員と一部の職員だけで参加させていただいております。そのため実務的なご質問については、ミーティング終了後に事務局のほうで内容やご連絡先をお伺いして、後日、各担当課からご回答させていただきますのでご了承ください。なお、発言する際にはお名前を述べてからお1人ずつ、簡潔なご発言をお願いいたします。

それでは、ご意見などがございましたら、マイクをお持ちしますので、挙手をお願いいたします。はい。

◆市民 植苗南町内会の・・・と言います。今司会者のほうから、事務的なことは後で伺いますと言われたんですけど、事前要望で出していることについての質問というのは、ここでは事務的なことということですか。

○司会 大丈夫です。

◆市民 今結構ですか。それではですね、まず2番目の千歳空港の街路灯の設置について。この要望先が開発局ということで、市から言えば上級機関になりますので、市が直接やっぱり遠慮があつてなかなかそういうことは言えないんじゃないかなと思うんですけど、こういう我々住民が、直接開発局に意見を申してもいいでしょうか。市のバックアップになりますか。それでも邪魔だつていうなら言わないんですけど、もしバックアップになるっていうなら言ってみたく思えます。

まずこの照明について2つほど私疑問な点がありますので、ちょっと述べさせて

いただきたいと思います。それで横断歩道には、通常歩行者が安全に渡れるように照明灯が設置されておりますね。そこでモダ石油から苦小牧のほうに500mほど来たところに、野生動物の横断歩道2か所あります。この1か所には照明がついてるんですけど、もう1か所には照明がついてないんですよ。この理由っていうのはわかりませんか。

あとですね、最近新聞でですね、野生動物との衝突の注意を促すために舗装道路の上に動物の絵を書いとくと、そういう記事が載ってます。いくらドライバーに注意を呼びかけてもですね、夜は道路の両端は真っ暗になるんですよ。今言ったように街路灯は植苗のほうって全然ないんですよ。だから、道路は車の明かりで明るいですが、その端のほうっていうのは真っ暗なんですよ。これはこういう状態では、動物がそこにいるかどうかさえわからないんですよ。注意をしてくださいっていうのは、何をどういうふうに注意すればいいんですか。動物が今いるから見えるから注意してくださいよ、少しスピードを落としてくださいよって言うんならわかるんだけど、真っ暗で何も見えないのに注意してくださいって言ったって、これはしょうがないと思うんですよ。ですから、まず道路を明るくすることが、動物の存在をね、確認できるようにするのが、まず衝突を防ぐ第一じゃないかと思うんですが、これちょっと開発のほうに確認していただきたいと思いますが、よろしくお願いします。

○司会 ただいまの質問、動物の横断歩道のところの照明が2か所のうち1か所しかないというところだったんですけども、事務局から担当課に確認して、後ほど回答させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 ・・と申します。実際私、道の駅の出店者でもあるんですが、この度、三星さんとローソンの間のところの、信号の舗装の件について整備していただくことについてはお礼申し上げます。ただ、我々が一番気にしてるのは、土曜日、日曜日になりますと5,000人近くのお客さんが来場されます。その中で、やっぱりあそこの交差点の時間差っていうのをきちんと設けていただかないと、やっぱり事故がいつ起きるかわからないっていう状況なもんですから、その辺の改善のお願い。それと苦小牧市として観光行政がどのように今後考えているかっていうことを、その中に、駐車場の拡大、それと体験型施設っていうことで、充実した道の駅を今後取り組んでいただければなということでの要望でありました。

◎市長 はい。大きく2点あったと思います。ご意見ありがとうございます。交差点の時間差を設けてほしいというご意見が、ちょっとどういうことなのかわからなかったんですけど、もうちょっと詳しくお話いただけますか。

◆市民 道の駅から、逆に札幌方面に帰るときに、通常の苦小牧方面から今度道の駅に入る車と、やっぱり接触事故を起こしやすい状況になってるんですね。要するに苦小牧方面から道の駅行きたいよっていう方と、時間差で信号が変わったときに、札幌方面に

戻りたいという人がちょうど接触する可能性が非常に多い。それが1分なり2分という時間がないもんですから、やっぱり道の駅入りたい方も強引に道の駅に入ってくる。札幌に戻りたい方は、やっぱり青になったからといって出て行く。そこでやっぱり接触事故っていうのは今後起こる可能性、今までも瞬時でどうにか出ていく方が我慢して、逆にその入ることを認めてから入っていくっていう状況がいっぱいあるもんですから、その点の不便さが解消できることが、また事故を予防することかなっていうふうに感じておりました。

◎市長 右折の矢印が出てないんですね。ローソンの前あたりですよ。わかりました。その辺りは現状と、傾向としてどうかっていうのは、やっぱり警察のほうといろいろ相談しないと駄目だと思いますので、その辺また詳しく担当のほうと進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それから観光行政についてですけども、さっきの日本ハムファイターズじゃないですけども、それと今日発表させてもらいましたけど、名古屋グランパスサッカーも、来年の夏から合宿を苫小牧でしていただけることになりました。これは練習とか、あるいは練習試合を他のチームと組むようなときにも、一般の方も見れるようにすると聞いてますので、そうなると思う皆さんの方がまた苫小牧に来ることが予想されます。当然道の駅に寄る方も増えると思います。そういう中で今 MICE という形で大きい会議を開いたり、あるいは大会等やっていただいたりというそれだけではなくて、観光客の方に美味しいものも苫小牧でたくさん食べていただいたり、あるいは道の駅でお土産を買っていただいたり、本当に様々な食と観光資源を楽しんでいただけるようなことを、苫小牧としてもやっていこうと思っておりますので、そのあたりはもっともっと観光行政としては進めていきたいというふうに思っております。

道の駅の視点からも、何かこういうものあったらいいとか、こういうことやって欲しいっていうのがあったらどんどん投げてくださいと思います。苫小牧観光協会と一緒に、市もやってまいりますのでよろしくお願いします。

◆市民 駐車場不足っていうのは。

◎市長 言っていましたね。駐車場が不足するのはやっぱり週末ですか。いわゆるお休みの連休とか。

◆市民 土日に集中することは事実ですが、逆にファイターズの球場ができ、また強化合宿場が盛んになれば、年間通してやっぱりさらに 100 万人ぐらいご利用していただけるようなことになると思いますので、今の駐車場だと1日も5,000人来ると、もうお隣の鳥獣センターの駐車場ですらもう満杯になってしまうものですから、その辺の改善を今後取り組んでいただければというふうに思います。

◎市長 はい、わかりました。ちょっと検討させていただきたいと思います。

○司会 それでは先ほど手挙げられてた方。

◆市民 中央町内会・・・といいます。よろしくお願いします。不審者に対する今後の対応と

というような感じで、今年の4月以降ですね、町内に住んでいる不審者によって、このファミリーセンターあるいはまた町内全体ですね、ドライバーさんが車のところにいるのに、つい鍵をつけたまま置いてたりとかすると、その人がちょっと目を離した隙に鍵を取ってしまうと。気がついたら車の鍵がないとか、ってというようなことが何件もあり、また各個別に配達する運送業者さんとか、その方もやっぱり鍵をかけないで配達行ったりしますよね。そのときにドアを開けて運転席だとか、中に入っているものを取ってしまうと。そういうような問題があったり、あるいはまた、ここの保育園の子供さんたちが園庭で遊んでいるところに、話しかけに行ったりとかってというようなことがあったり、あるいは向かい側の公園で遊んでいるところを、ベンチに座って見ていたりとかっていろいろなことがあり、またその取ったとか、何だりってということで苦小牧市のパトカー、通算すれば5回以上、最大で一度に5台来たってということもあるんですよ。

市の方とも相談して、いろいろと対策は取ってもらっているんですけども、なんせこの植苗の町内会の中には防犯カメラも1台もないですし、先ほどから出てるゴミの不法投棄だなんだりとかもそうですけども、何かあったときのための防犯カメラ、やはりそういったものも含めて、前向きに設置も考えていってほしいです。やはりその不審者にしてもそうですけども、何も悪いことしなければいいんですけども、やはり人間いつどこでどう変わるかわからないです。夏場にあったのは、このファミリーセンターの中に入って、男子の浴室の中に入って入浴している方のものを取ってしまったたり、ってということもあったんですよ。それでまた警察を呼んで、そういったこともいろいろ含めて市の担当の方とも相談してますけども、やはり、何かあってからことを起こすんじゃなくて、やはり起きないようにしておいて欲しい。我々もまた同じ町内会の住民ですので、悪さをしなければ、町民として大いに歓迎しますし、してしまったら今度、した人もそうですし、された人はもうもっと傷が深くなってしまいますので、そういったのを含めて不審者っていう、その人が歩いているだけで、我々なんか起こさなきゃいいなって、白い目で見るのもやはりちょっと心苦しいというのがあります。その辺、市のほうとしても十分考えていただきたいなと思います。

◎市長 はい、ご意見ありがとうございます。今お話いただいたことも非常によくわかるんですが、まず、例えば障害を持つての方であるとかいうことであれば、身内の方とよくお話し合い連絡を取りながら、例えば施設の利用されるときには施設の管理者と一緒に、なるべくそういったことが起きないように対策をとるとのことかと思えます。

例えば、先ほどお車の鍵が開いていてというようなお話をされましたけれども、お車から離れるときは、しっかりキーをして離れるとか、あるいはお家も鍵をかけて外出をされるようにするとか、そういうふうに皆さんで取りうる対策はまずとって

ただいて。それで、ある程度いろんな何かしら困難を抱えてらっしゃるような方の場合は、我々のほうでも、情報収集を行いながらできる限りそういった事故、問題が起こらないような協力はさせてもらいたいと思いますけれども、いかんせんやっぱり地域で日頃生活をされていらっしゃる方であれば、地域の皆さんがよりわかっている部分はあると思います。悪意でやるような方は別ですけども、例えばそういう障害をお持ちのような方であれば、ある程度皆さんで見守りというか、やりながらも危険なふうになるようなことがある程度想定されるのであれば、それは皆さんで回避するような、例えばお子さんがいる場合は近づけないようにするとか、何かしらそのケースバイケースでとれる対策っていうのはあるんじゃないかと思います。これまでもいろんなことあったから、今そのようなご質問されたんだとは思いますが、その辺は地域の皆さんと我々も連携をとりながら、これからもケースケースで対応させてもらえればというふうに思っております。ありがとうございます。

○司会 それではお時間となったんですけども、最後にもう1人どうしても質問したいという方いたら最後お受けしたいと思います。

◆市民 植苗南町内会の・・・と言います。3番目のですね、市道の整備についてなんですけれども、この回答を見ると、市長の思っているのが全然感じられないんです。市長はもちろんキャッチフレーズとして、こどもどまんなかのまちですけども、この他にもまちづくりの目標に関する取組として、安全安心で快適に暮らすまちっていう。それでこの要望の中でですね、交通が非常に危険な状態にあります。それから災害時の避難も問題があります。というふうに訴えているのに、回答としては、関係機関等に改善に向けて要望を行っていきます。あるいは、都市交通マスタープランによる検討をもとに、整備の必要性について考えていきます。これでいつできるんですかね、今危険なのに何もやる気がない。

それでね、市が全然責任がないように言ってますけれども、次のことについては、どうお考えかちょっとお聞きしたいと思います。昭和48年の都市計画決定で、国道36号の両側が市街化区域となりました。今から52年前です。都市計画法第7条の2によれば、市街化区域は既に市街地を形成している区域および、おおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域か。となっております。もう10年は既に過ぎていきますよね。

さらに、地方税法の第702条、都市計画法に基づいて行う都市計画事業に要する費用を充てるため、都市計画税を課すことができる。この区域では、もうこの50何年も前から都市計画税を払っております。しかし、都市計画に関する事業というのは一切ここに行われておりません。このお金はどこに行ってるんですか。今、市長が言ったように駅前再開発とかそういうところに全部使っちゃってるんですか。これは植苗の地域の人が払ってるお金は植苗で使ってもらわなきゃ困るんじゃないでしょうか。これは市の責任っていうか、市が何かちょっとおかしいんじゃないですかね。

都市計画というのは、もちろん道の承認がありますから、道の人にこういう状況になっているのを聞いてもいいんですけども、まず先に市の考えをお聞きしたいなと思います。

◎市長 はい、ありがとうございます。道路に関するご要望というのは非常に多くて、今・・さん言われたような話も本当に多くいただいています。やっぱり 36 号線がこの近辺ですと大きな通りですから、災害が起きたときに、そこが仮に破損してしまった場合に逃げ場がないというのわかりますので、その辺りは考えていかなければいけません、さらに北側にある高速道路なんかも、この間も津波警報が出たときは通行止めになりました。あるいは緊急車両を通すために、そのようにしているというふうに伺っておりますけれども、避難道というのはやっぱり確保していかなければいけませんから、この地域の皆さんが避難されるときにどの道路を使うのかってというのは、もう少し考えていかなければいけないかなというふうに今お話を聞いて思った次第でございます。

それから都市計画税のお話がありましたけれども、都市計画税というのはその目的税でして、これは法的には一定の政策目的を遂げるために、税収の使途が定められているということでございます。ただ、苫小牧でいきますと、この都市計画税をどのように使うかというのは、これは市民の皆さんが住むまちの発展のために都市計画事業ですとか、あるいは土地区画整理事業、こういった一定の事業に使われるということになっておりますので、地域地域でいろいろと確かに要望はあって、そこに使われるということもあるのかもしれませんが、苫小牧市全体で都市計画というのを持っていますから、そういったところでまず都市計画税というものが使われていくというふうにご理解いただければというふうに思っております。

再編交付金ですとか、いろいろと国から交付金が入るときに、町内会の皆さんには大変いろいろご理解をいただきながら、進めさせていただいておりますけれども、ああいった形での入る財源も、地域振興策として、この地域のまちづくりのために活用させていただいておりますから、都市計画税は税としてそのようなまちの全体のことに使われていると。それ以外の財源も使って、いろんな地域にもまちづくりに活用させていただいておりますので、そういった形で全体で、税というものが活用されているというふうに私は理解しておりますので、これからもそういった形で適切に、無駄なく使っていくように進めていきたいなというふうに考えております。

○司会 それでは、これで意見交換のほうは終了させていただきます。

◆市民 すいません、ちょっともう 1 点だけいいですか。中央町内会の・・です。すいません、ちょっと時間過ぎちゃいました。ちょっと昨年のまちかどミーティングのときにも僕発言させてもらって、ちょっと同じことになってしまうところもあるんですけど、今回市長さんが変わって、こどもどもんなか政策っていうのを掲げてるので、ちょっと発言せひしたいなと思っています。

僕この地域に住んで、今5歳の娘がいるんですけど、再来年になると植苗の小学校に通うようになるんですけど、やっぱりこの地域の子供が少ないと僕はちょっとやっぱ気になって。昨日も幼稚園の参観日に行って、向こうめちやめちやいっぱいいるんですよ。沼ノ端地域のほうは。こっちは子供すごい少なくて、この植苗地域の植苗の小学校が、小規模特認校にできないのかっていうのを去年ちょっと発言させてもらったんですよ。やっぱり沼ノ端地域、ここからすぐ隣のほうになるとウトナイ、拓勇、拓進っていうのは児童数がものすごい多くて、苫小牧市は今僕調べたら23校小学校がある中のベスト3がウトナイ、拓進、拓勇が、苫小牧の児童数がベスト3に入ってるっていう。ちょっと行くと、もう子供が溢れてるような、1学年でもう4クラス5クラスあるような学校がある中、ここはもうやっぱり子供がすごい少ない地域になってるので、今でも学年で女の子が1人しかいないとか、そういうところにちょっと自分の娘を通わせるのはやっぱりすごい不安で、やっぱり数を増やして欲しいなっていう要望があります。

それを可能にするのは、やっぱりこの小規模特認校に植苗小学校もしてもらうことによって、学校溢れてるところに通わせてるのが嫌な保護者さんも必ずいるはずだと思うので、児童数が増える可能性はあるのかなと思ってるんですけど。ちなみに今苫小牧だと、樽前のほうが小規模特認校になってると思うんですけど、この西側の学校に通うのにこの地域とか、今児童数が多い郊外とか、そういった地域の人たちが、小学校通うのにどうやって通うのかなと思ったら、バスもしくは保護者の送迎って書いてましたので、バスで行くのにどれぐらいかかるのかなってみると、やっぱり1時間半ぐらいバス乗って通う、片道、やっぱ通わせたくても通わせられない保護者って必ずいると思うんですよ。これがもし植苗のほうですと、沼ノ端地域の子供たちだと、バス乗ってやってくるんだったら、最寄りのバス停まで20分ぐらいで通える範囲になると、ちょっと現実的にこういう自然があつたりする学校に通わせたいっていう人は出るのかなと思うので、ぜひちょっと僕としては、植苗地域の子供たちを増やすためにも、小規模特認校っていうのにして欲しいなっていう意見があります。それをやるにあたって、どういう方法が、段階があるのかっていうのをちょっとまた個別でもいいので教えて欲しいと思います。

◎市長 はい、ありがとうございます。学校の規模については、今教育委員会の中でも、結構ドラスティックに、規模の適正化というのを図っていかないといけないんじゃないかっていうふうに今捉えて検討してます。

ただ、勇払と植苗と樽前地区については、苫小牧の中でも、ある意味地域的な特徴というものがあると、特性というものがあるということで、私も議会にいるときでしたけれども、廃校だとかいうふうにはしないで残そうという判断をしている学校です。

特に植苗の義務教育学校については、私が苫小牧で初めて義務教育学校に着手し

た学校ですので、これからもっといろんな特色ができてくる。この地域、元々小規模の学校、小中学校ともいわゆる小規模でしたけれども、それが義務教育学校になって、これからどんなふうに変わっていくのかっていうのは、もっとこれから時間が経っていけば、その特色っていうのが出てくるんじゃないかなと思ってます。ただ、規模っていうのは確かに大事ですから、私はこの植苗とか、まず義務教育学校でやってみるっていうのは一ついいんじゃないかと思います。ただ、樽前にある小規模特認校も非常に人数が少ないんですよね。ある意味ではいろんな地域から来てますけれども、あそこであの人数で、例えばここにもう1個作ったときにどうなのかっていうのを、いろいろ見ていかなきゃいけないと思います。子供の数全体がもう今年、去年生まれた子供の数も10年前と比べても半分ぐらいになってますから、そういう中で学校の数を増やしていくということが基本的には合っていないと思うんですよね。逆に適正化して減らしていくような方向性だとは思いますが、地域でいろんな特性もありますから、その辺りを教育委員会といろいろ話しながらやっていかないと駄目だと思います。北海道のほうから教員を送っていただいている形になってますので、これは道教委のほうの了解もないと、なかなか新たに学校を設置するのってことはそう簡単にはいかないとは思いますが、今言われた小規模特認校を植苗地区にっていうこともご意見として、まずは受け止めたいというふうに思いますけれども、ちょっとお時間をいただきたいなというふうに思います。

○司会 それでは、この後ミーティングについては閉会となりますが、先ほどご案内させていただいた通り、担当課へご意見ご要望等がございましたら、お帰りの際にこちらの事務局席にお立ち寄りください。内容とご連絡先を確認させていただき、後日、担当課から連絡させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは以上をもちまして、あなたの街でミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

令和7年度あなたの街でミーティング会議録

開催日 令和7年10月9日（木）

地 区 勇払地区

会 場 勇払総合福祉会館

<市長プレゼン>

◎市長 勇払地区の皆さんこんばんは。苫小牧市長の金澤でございます。改めまして今日よろしくお願ひいたします。皆さんにおかれては先日、先週ですか、勇払公民館祭含めて、すごくいい時間を私も共有させていただきましたけども、苫小牧にとっては大変重要な地域でございます、ゼロカーボンと、地域の取組も含めて、いろいろと皆さんの社会課題の解決にも結びつけながら、勇払地区の支援をしっかりとやっていきたいなと思っておりますので、今日も忌憚のないご意見いただけたらと思っております。

今日であなたの街でミーティング6回目、全部で10回ですか。ですから、いよいよ後半に入ってきたというところでございますけれども、私も市長就任させていただいて、いろんなテーマにチャレンジをさせていただいておりますので、今書いておりますけれども、まず大きく6つのテーマについて、皆さんにお話させていただいて、これについてのいろんなご意見いただいて、後ほどその他ということで、今回のテーマ以外のものも含めていろんなご意見いただきたいと思っております。

まず高齢者福祉についてでございますけれども、まず苫小牧市全体の会計規模としては、予算ベースですけれども1,250億円ぐらいで、その内高齢者の皆さんに関わる予算というのは、300億。かたや、私もこどもどまんなか政策というのを打ち出しておりますけれども、子供子育て関連は135億ということで推移していると。これもまず数字的なものを把握いただけたらというふうに思っております。

はい、次、お願いします。

私も今回こどもどまんなかとばかり言っているんですけども、実はこれは、将来ある子供たちをしっかりと育てていくということではあるんですが、これはひとえに、この将来の苫小牧を支えていく、そういう人材を育てるということになるものですから、これは、私もいずれ引退をしていく身でございますが、現役で頑張って地域あるいは苫小牧市をつくり、育てていただいた皆さん、しっかりと恩返しできるべく、そして皆さんを支えていくべく支援をしていくということです。これは高齢者福祉というものにもしっかりと繋がっていく、そのような思いで進めさせていただいております。

高齢者の皆さんに対する様々な支援事業というのは、ここに抜粋して書いてありますけれども、認知症カフェですとか、あるいはシルバーリハビリ体操、シルバーハ体操

と言ったりしておりますけれども、こういった認知症の予防ですとか、認知症になった方への支援だとか、あるいはこの予防接種に関しては、いくつか用意させていただいておりますけれども、今年度から带状疱疹のワクチンを、高齢者の方向けに接種するようなことも予算化させていただきまして、こういったものもまだまだいろんなことやらなきゃいけないんですけれども、高齢者の皆さんが生活していけるように、これからも取り組んでいきたいと考えております。

はい、次お願いします。

やっぱり大事にしたいなと思うのは、お互いに支え合う部分があるんじゃないかと思っております。現在でも左上ですと、高齢者の方が収穫した農作物を子供食堂に提供いただいて、子供たちがそこで食べさせていただいたり、あるいはボランティアの高齢者の方にも子供の見守りをしていただいたり、右上に書いてありますけれども。こういったことであったり、あるいは逆にこれは社会福祉協議会さんの取組ですけれども、高校生の灯油ボランティア、だんだん寒くなりましたので、また今度高校生がやるということになっておりますけれども、高校生だけではなくて社会人の方が入って灯油を運ぶボランティアをさせていただいておりますが、こういった、子供たちが高齢者の方を支えるということもやっていたり、あとスマホ教室なんかもしております。

はい、次お願いします。

それでやっぱり世代を超えて、まちでしっかり繋がりを持っていくということが大事なと思ひまして、お互いに支え合う、そういう許容する心を皆さんで持っていたらというのを改めて感じているところです。子供の声が聞こえるまち、公園で子供たちが遊ぶ声が少々うるさくても、そこは昔も僕らもそうでしたけど、そういう時期もあったということで、あたたかく見守ってあげつつも、危険な遊びをしていたり、あるいは近所に迷惑をかけるようなうるささで夜遊んでいたりしたら、そこはしっかりと、逆に叱っていただきたい、指導していただきたいというようなことをやりながら、高齢者も子供も一緒にまちで住んでいくというような、未来のあるまちを作っていきたいなと私は思っておりますので、まずそのことを皆さんにお伝えしたいと思っております。

はい、次お願いします。

そして、最近特に非常に市民の皆さんからも関心の高い、あるいは実現してくれと声を届けられているのが、北海道日本ハムファイターズの2軍施設の誘致の話でございます。これ元々私も市長就任してすぐ、こういったお話を口頭では聞いていたんですが、やはり簡単な話ではないものですから、当初はあまり取り組む気持ちは持っておりませんでした。ただ、その後市民の皆さんから本当に多くの誘致を応援する声をいただきまして、手書きのお手紙を何通もいただいて、ぜひこれを進めてほしいということだったものですから、7月の7日に日本ハムファイターズが正式に2軍の

施設を、今千葉の鎌ヶ谷から北海道に移すという発表されましたので、それを受けて、7月28日に私も定例記者会見において、2軍の施設誘致にチャレンジするということを発表させていただきました。実はそこに至るまでにも、日本ハムファイターズのほうとは何回かセッティングしていただいた機会を持って、いろんな協議をしておりましたが、なかなか皆さんに、どういう協議してるかっていうのをいろいろ言えないところがあって、本当は言いたいですけれど、駅前だとかあるいは東インターの近くがどうかとか、苫小牧市内のいろんな場所を、適地としてどうなのかという検討はしております。そのこともこの記者会見でもお話をさせていただきました。

そしてその後、白老町さん、それから鶴川町さんからも、一緒にその誘致に応援をしたいということで、苫小牧に2軍施設を誘致してくれということで要望に来ていただいております。

そして9月の25日でございますが、苫小牧の商工会議所の方々が中心となって、期成会を立ち上げていただきました。その足で、苫小牧市役所に来ていただいて、私のほうに誘致をしてくれという要望書を提出いただいて、これ市内の本当にいろんな経済界の皆さんが一体となって、そして1市4町の経済界の皆さんが来ていただいて、ファイターズのユニホームを着て、帽子かぶって、一緒に頑張ろうということでこのようなことになりました。

今署名活動、いろんなところでやっています。市役所のロビーでも、設置してやっておりますし、この間、たるまえサンフェスティバルっていうイベントがあったんですが、そこでも署名活動をやっていますので、これぜひ、恵庭は7万人の人口のところ、5万弱、4万9,000円ぐらい署名を集めていますので、我々は苫小牧だけで16万5,000ですから、広域で1市4町で考えるともっと応援いただけると思うので、ぜひとも皆さん応援いただけるのであれば、署名をしていただきたいと思っております。

はい、次お願いします。

スポーツ関係でもう1つ明るい話題がございます、実は名古屋グランパス、Jリーグの名門プロサッカークラブですけれども、ここは来年の夏から苫小牧で合宿をするということで決定をしました。

これ実は結構すごいことでして、何がすごいかというと、やっぱりこういう有名なJリーグのサッカーチームが来てくれるということの話題性ですね。やっぱり地元のサッカーやってる子たちもそうですし、サッカーファンの子たち、人たちにとっても、非常に関心が高いことです。ちょっと詳細はこれからだと思いますけれども、今のサッカー場が金太郎の池にあるんですが、そこでやることになっています。期間はおそらく3週間ぐらいじゃないかなというふうに思いますけれども、札幌にコンサドーレがあったり、あるいは今回名古屋グランパスさんが合宿すると決めたことによって、練習試合を結構やることになっているらしいので、グランパスが来たんだっつらということで、例えば隣の町にも、合宿検討しているチームがあるみたいですので、そ

ういったチームが決めてくれる可能性が高まったということがあるようでございます。

ですからそうすると、Jリーグの、これは2軍ではなくてトップチームの人たちが来て、練習試合が多くなりますから、金太郎の池のサッカー場でやりますので、もしかしたら無料で見られるかもしれない、という話が交渉の中で出てましたので、この辺は今も不確かなところなんですけども、とにかくサッカーですね。苦小牧としてもまた新たな一步を踏み出せる、そのような明るい話題があるということもお伝えさせていただきます。

はい、次お願いします。

それから次、津波でございますけれども、これまず7月の30日、津波の警報が来まして、勇払地区の皆様にご避難いただきまして、大変不便な思いをさせてしまったところでございますけれども、改めて当時の流れをここに書かせていただいておりますが、今回私が、あなたの街でミーティングで市民の皆さんにお願いしてまして、今後の災害発生に備えて、改めて今お住まいの場所、あるいは働かれています場所が、地盤高がどれぐらいになるかというのを把握していただきたいなというふうに思っております。

今回報道があったということもあって、すぐ高いところに皆さん避難をされたら、これは本当に正しい行動だったと思うんですが、当時7月30日非常に暑くて、特に高齢者の方なんかご自宅から避難所に移動されるだけでも、この暑さですとかあるいは長時間避難しなきゃいけない、このときは夜になって解除されましたけれども、もしかしたら1日泊まらなければいけないかもしれない。こういうような状況でしたので、そういったことで大変疲れてしまう。日頃家で横になったりする時間が多様な高齢者の方にとっては、座ってるだけでも疲れてしまって、そういったリスクを負ってまで避難するべきかどうかというのは、今回の件踏まえて、ちょっと確認いただきたいなと思うところであります。

避難所全てに、避難される方の水が全部あるかというところとそうではありませんし、ダンボールベッドが全部の場所にあるかというところとそうでもありませんので、まずは地盤高、それから津波の予想の高さが最高でどれぐらいかというのをちゃんと把握していただいて、避難すべきかどうかという判断は今後に向けて、そういう気持ちの備えをしていただきたいということをお願いしております。

この勇払地区の皆さんにおいては、10月の8日の大雨の際に、床下、床上浸水があったご家庭というのがあったというふうに伺っております。これも報道に出ておりましたけれども、本当に海が近いだけに、いろいろと避難に関して、皆さんにご苦労をおかけすることが多いかと思っておりますけれども、今日うちの防災の担当も来ておりますので、何かあれば市のほうに、いろんな問い合わせもいただきたいし、私もできる限りいろんな情報交換をさせていただきながら、対応させていただきたい

と思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

はい、次お願ひします。

それからヒグマ対策です。もう10月になりましたけれども、国のほうでは、ヒグマのこの発生を受けて街中で鉄砲が撃てるように、銃が撃てるように、法改正をいたしまして、その施行が9月1日からだということでもあります。市としては今、国から出されたガイドラインを基に、ゾーニング計画を作っております。クマさんがいる場所、それから我々が住居として住んでいる場所ですね。これ今作成中のマップ書いてありますけれども、右上のほうのピンク色のところが、緊急捕獲地域ということでクマさんが結構出る地域なんですけど、結構住居地域が入っております。できるだけそのゾーン分けをできるように、今検討はしておりますけれども、なかなかそれも難しいところがあると思ひます。ですから今、全国でクマが出ているというようなことで報道されておりますけれども、まずは我々ができることをまずやっていくということが大事かと思ひております。例えばゴミを外に捨てないとか、夜間ステーションにゴミを捨てることを控えるとか、あるいは市としてできるのは、クマがよく通ると言われている川沿いの草をぼうぼうにさせないで、ちゃんと草を刈るようにするとか、まず今できることから対応していくということが大事かと思ひております。

今、最近何日かもそうなんですけど、クマの目撃情報が市のほうに寄せられたり、あるいは警察に行ったりとかしてるんですけど、これ今、クマが出てまして、結構市民の皆さんの意識が高いので、暗い中で、クマじゃないかと思われるものに対してもお知らせが来るんですけども、これ実は担当のほうがいろいろ調べると足跡がなかったり、フンがなかったりということで、誤報じゃないかっていうのもあるんですけど、でもそういう意識が高まってるってことは非常に大事なことでございます。皆さん、ぜひお気をつけいただきたいと思ひております。ちなみにそういうクマの目撃情報があつた場合には、学校に対しての連絡をして、登校を控えるとか、そういう対応を教育委員会、学校と市のほうと一緒に連携しながら、というふうになりますので、そのときは地域の皆さんにもいろいろとご協力いただくかもしれません。

はい、次お願ひします。

はい、最後ですけれども、駅前再整備です。苫小牧駅前も、南口のegaoが閉館しましてからはや10年が経ちます。私としましては、岩倉前市長の思いを継承しながら何とかこの状態を早く解消したいと思ひております。先日、事業者募集が終わりまして、選定も終わって、これから協定を締結して、この駅前再開発に着手していただくところでございますが、とりあえず1年かけて、これから駅前再整備基本計画を策定することになっております。

例えば子供さんが雨が降っても楽しめるような施設を作るとか、あるいは今、古くなった科学センターを駅前に移しましょうとか、いくつか私の公約に入れてるものがございますけれども、これは財政的な問題をしっかりクリアしながらやっていこう

と思っておりますので、上に書いてあるような予定で進むかどうかというのはちょっとわからない部分もまだありますけれども、とにかくできるだけ、今 egao の建物があるようになっているところは、何とかまずなくすように、解体を急ぎたいなというふうには思っております。ただ今物価高騰で、大変解体費も含めて、多額の費用が以前よりもかかることが予想されますので、そのあたりはちょっと財政協議をしっかりやって、後世にしっかり良い財政を渡していきながら考えていきたいと思っております。

私からは以上でございますので、皆さんから忌憚ないご意見があれば頂戴したいと思います。どうもありがとうございました。

<市長プレゼンに関する意見交換>

- 司会 それでは、ただいまの市長プレゼンを聞いて、皆様のほうからご意見ですとかご質問、ご感想などございましたら、ぜひいただきたいと思っております。ご発言される方おりましたら挙手をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。
- ◆市民 はい、・・・といいます。市のほうに要望をまとめたとおり、今市長から話ありましたが、先日の大雨で会員さんのお宅が床上まで水がきました。先般、ちょうどその家の前、雨水排水管入れ替えたばかりなんだよね。そういう工事をしたばかりなんで、それで市の方も来ていましたし、マスコミも取材に来ていた。そこはいつも雨降るたびに水がつく。その交差点も車が通れなくなった、という地域ですね。それで排水管も入れ替えてくれたんで、大丈夫なのかなと思っていたら、市の担当者の話では想定外だと。想定外だったら何でも想定外で済まされちゃうんですね。それで想定外に対応する対策を今後どう考えているのか。考え方を教えていただければなと思います。
- ◎市長 はい。まず、ご意見ありがとうございます。大雨に関しては、勇払地区以外にも、もう10年ぐらい前ですけれども、川沿、ときわ地域でも想定外の雨が続いたときがありまして、小糸魚川という川の大規模な改修を3年ぐらいかけて大雨対策としてやりました。やっぱりそのときもある程度、ときわ、川沿地区ですね。川に雨水管から出ていく高さとか、想定してやってはいたんですが、もうそれを超える雨が降ったということで対策を打っておりますので、今回のその勇払地区のものについては、今後に向けて、今回の件の検証と、今後どういった対策を取りうるのかということ、ちょっと考えさせていただきたいと思っております。場所によっては雨水管に葉っぱが落ちて、流れなくなったというところもあったりするんですけども、そういったものも含めまして、検証して、検討させていただきたいと思っております。ありがとうございます。
- 司会 市長プレゼンに関するご意見をいただけたらありがたいと思っております。プレゼンの意見交換が終わった後に自由に発言する時間ございますので、まずはプレゼンに関するご発言いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

◎市長 私が今お話しした6つの中からは、何かご質問あればということです。

◆市民 すみません。市営住宅に住んでいる・・です。よろしくお願いします。津波の避難の考え方なんですけど、ちょっとお金もかかることでどうなのかなと思ったんですが、例えば1m、2m、3mの津波が来るという、一体どこまで浸水するのかっていうのが具体的に見えないので、できればそういう市のホームページに、例えば避難1m、2mですって、自分たちが住んでいるところどこら辺まで来るのかっていう、ぜひ今後そういうシミュレーターで自由に市民が見られて、避難1m、2mの津波で自分たちのところはどの辺まで来るのかっていうのをわかればすごく見やすいんじゃないかと思います。

ただ逃げなさい、だと40cmのときと3mで見れば違うと思いますので、避難警報2mだったら、もし本当に来たらどこまで来るのかっていうシミュレーターがあると、常にそれを確認しておけば、みんな各自どこまで逃げればいいのか、どこまで水が来るのかっていうのはわかると思いますので、できればそういうこともちょっと含めてお願いしたいと思います。

◎市長 はい、ご意見ありがとうございます。このハザードマップっていうのは各家庭に配られておりますが、まずこれぐらいの情報は、事前に把握されるとありがたいなと思います。ただ、こうやって最大の津波が3mまでとかっていうものなので、どこまで詳しく40cmの場合はどうだろう、1mの場合はどうだっていうのはわかりづらいとは思いますが、そのあたりについては担当が来ておりますので、危機管理の前田のほうからお願いします。

◎危機管理室長 どうもご質問ありがとうございます。防災を担当しております危機管理室の前田と申します。今お話あったシミュレーター、確かにあると非常に有効かと思うんですけども、ちょっとそういったような、これから使えるようなシステムですとかアプリが出来たときには、そういったものの導入も考えていきたいというふうに思っております。

それと、冒頭市長からもお話ありましたが、皆様の中で、ご自身のいる場所の地盤高ですね。土地の高さがいくらかっていうことを、できたら日頃から覚えておいていただくと、例えば津波の高さが3mで、ご自身が住んでいる土地の高さが5mであれば、まあ大丈夫かなとか、そういう一つの目安にもなりますので、ちょっとそういったことについても少しご承知おきいただければと思いますし、あとは私どものほうでこういう防災ハンドブックですとか、そういう中にも想定されている津波高が書いてありますので、こういったものもご覧いただければというふうに思っております。ご意見ありがとうございます。

○司会 それでは他にどなたかいらっしゃいますでしょうか。

◆市民・・と申します。避難施設のですね、1次避難施設の定義っていうものを教えていただきたいと思います。2つ目は勇払でパークゴルフ場を運営しているんですよね。

そこに灯りつけていただいているんですけども、その管理方法はどのように点検されているのかも教えていただきたい。そしてもう1つは、勇払はすごく外国人の方が多く住まわれております。その避難指示の周知っていうんですか。そういうのはどういう方法で行われているのかっていうのをお聞きしたいと思います。

◎危機管理室長 ご質問ありがとうございます。まず1点目の避難施設の定義、1次2次というお話でしたね。基本的には津波ということと言いますと、1次2次というよりも、まず身の安全を守ることが大事ですので、できるだけ高い建物ということになります。そうするとここでいうと日本製紙さんのアパート、あるいは勇払小学校、勇払中学校、こういったところ、あとは市営住宅ですね。こういったところが一時的な避難施設になります。あとは2次っていうことで言いますと、今回避難生活を送る場所ということと言いますと、この学校になりますので、小中学校が2次的な避難施設になりますけども、もしも時間的に間に合う方であれば、初めから学校を目指していただければというふうに思っております。

そして街路灯、灯りのお話ですかね。そこはもし具体的な場所がありましたら、ミーティングが終わりましたら、ちょっと場所を教えていただければというふうに思います。

それと外国人につきましても、これちょっと一部限定なんですけど、私どもが出す情報を、LINEで外国語に変換して登録されている方に対してですけども、出すようなこともやっておりますので、そういったことをやりながら、外国人の方にも情報が伝わるように、今はそういう仕組みで取り組んでおります。以上です。

○司会 では、次に先ほど手挙げられていた方をお願いします。

◆市民 私、・・・といいます。今回水がね、かなり来ていたっていうことは1つはね、道道ですね、あの道は。だから道道なんで市のほうで何も考えてないのか。

それと、もう1つは、ちょうど私のお世話になったうちの方が、ちょうど3番地で水がつくところだったんですよ。それで私も雨がちょうど止んで移動できるからちょっと行ってみたんですよ。そしたらすごいことになっているんですよ。それですぐ市のほうにも電話かけたり、警察、消防、全部かけたんですよ。したら市の下水道課ですかね。そこの方に繋がって、今ポンプ車は2台ありますと。それでも追いつかないという、大変なようだけど、私はそのときに言ったのはね、早く通行止めをしてもらわないと、大きな車だとか何とかが通ったときに、うちのほうに波で下水のほう、庭のほうにも水が入ってきているということなので、何とか消防だとか、警察のほうに電話したんですよ。そして通行止めを早くしてくれなかったら困るということと、もう1つはもう水没している車もあったと。事故った車もあったということで3番地から5番地の辺りまで水没しているんですよ。だからここは早くね、市のほうで勇払だけじゃないと思うんですけど、そういう危機管理室のほうでね、すぐ対応できるかできないか、その辺がちょっと聞きたいんですけど、よろしくをお願いします。

◎市長 はい。ご意見ありがとうございます。先ほど私10月8日と言いましたけど、9月の20日ですね。すみません失礼いたしました。あのときのことですね。危機管理室長が来ていますので、前田のほうからお答えしたいと思います。

◎危機管理室長 はい。9月20日の大雨ですけども、確かにこちらの地域のほうで水がつくという事態になりました。想定外ということはあつてはいけないんですけども、あのとき11時半から12時半の間で、約100ミリの雨がこの地域に降ったというデータがあります。残念ながら雨によって冠水するってことになってしまいましたので、そこは先ほど市長が申しあげました通り、こういったことについては検証することが大事ですので、日頃から私どもも、道路部門あるいは下水道部門のほうともいろいろ情報交換をしながら対応しておりましたので、ちょっとどのようなことができるかというところは少し時間かかるかもしれませんが、改めてこのことについても検証していきたいというふうに思っております。

後はこういった警報が出た場合には、私ども危機管理室24時間体制で市役所におりますので、何か先ほどですと、水がついているですとか、状況何かありましたら、危機管理室のほうに、市役所のほうにお電話をいただければ、関係部署のほうにも連携して対応しますので、そういった対応につきましてもよろしくお願ひできればというふうに思います。以上です。

◆市民 その件なんですけどね、私が1時30分ぐらいかな。1件連絡したんですよ。来たのはね、警察がね、それから3時間ぐらい、2時間ぐらいかな、経ってからようやく来たんですよ。そしたらあと市のほうの人たちは全然来てない。そういうことなんでね。もう今から対応しますとか何とか言っても、やっぱりその辺の危機の考え方が、甘いんじゃないかと思うんですよ。住民の方が1人で携帯電話の光で車を止めてという人が1人いらっしやいました。かなりね、そういうね、動きが鈍いんですよ。だからそういうところがあったんで、すぐ対応して、そういう動きをしてもらわないとね。どうもならないと思うんですが。

◎市長 ありがとうございます。はい。できる限り、特に夜間ですと、昨日ですね、雨ひどかったの。あれも1時ぐらいでしたので、私もちょっと音で起きて、担当といろいろやり取りしているところを見ていたんですけど、なかなか寝ている方もいたりして反応が遅れるところがあると思うんですが、できる限り迅速に対応して、市民の皆さんにサポートできるように、やっていきたいと思っておりますので、何かあればまた今後ご連絡いただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○司会 それでは他にどなたかいらっしやいませんか。一番前の席の方お願ひします。

◆市民 ・・と申します。よろしくお願ひします。2番と3番なんですけども、ファイターズファンクラブに入っているぐらいなんで大好きなんですけど、ぜひ苫小牧にお呼びいただきたいんですけど、名古屋グランパスの、サッカーは見ますけど、ファイターズ2軍とグランパス、例えば苫小牧に来た時に、どんな経済効果が見込まれるのか、

勇払にその影響が及ぶのかっていう。それと、勇払で何か企画が、住民と、このファイターズ2軍、グランパスに関わるようなことがあるのかどうかっていうこと、例えばグランパスが来たときに、宿泊施設ってどうなるのか。多分今でも苫小牧いっぱいいっぱいだと思うんですけど。その辺をちょっと教えていただきたい。

◎市長 今の二点について、担当として関わっている町田副市長からお答えさせていただきます。

◎副市長 質問ありがとうございます。副市長の町田でございます。勇払まで効果があるのかっていうところなんですけども、これもグランパスもまだ決定したばかりで、日ハムはまだ決まってない中で、今現状で、いや効果ありますよって胸を張って言えるような状況ではないということは正直申し上げます。ただ、これから市のほうでも仮に決まれば、そういうやっぱり全市的に効果を広げるってことは考えなきゃいけない。そこは地域の意見を聞きながらとなっております。

グランパスのほうは名古屋、トヨタさんの資本が入っていますので、そのトヨタ北海道さんともいろいろ話をしています。そもそも元々サッカー場も持っていますので、今そんなに状態は良くありませんけども、そういうところの活用を、トヨタさんと今後協議をしていきたいなと思っていますし、やはりグランパスさんJ1チームなのでファンの方は本当にいらっしゃいます。そういう方が2週間から3週間の練習中は無料で選手を見られるということで、かなり来られるかなと思います。・・・さんおっしゃる通り、ホテルの心配は多少ございます。そこは苫小牧地区だけでなく、1市4町、東胆振の圏域にもありますし、登別にもありましたのでキャパオーバーしたらそちらのほうにお願いするっていうことになるかと思いますが、苫小牧の駅前開発の中でも、ホテルをそこに建てるっていう計画の一部もありますので、今後そういうところと連携しながら、何とかいい効果を苫小牧にもたらせるように、我々のほうも含めて、これから取り組んでまいりたいと考えていますので、引き続きご意見があれば、いつでも言っていただければ助かりますので、よろしく願いしたいと思います。

○司会 はい。では次の方どうぞ。

◆市民 ・・と申します。今の誘致の件だったんですけど、署名やっています。イベントのときにやりました。市役所のそこだけですか、署名できる場所。

◎市長 今日持ってきています。

◆市民 ごめんなさい。わかんなかったものですから。そこだけでなくって、公民館でも置いていただければ、たくさんの方が署名してくださると思うんですよね。まず誘致のさっきの話もいろいろと難しいことがあるかと思うんですけども、皆さんやっぱり期待していると思うんです。だんだん過疎化になってきているものですからね。この話を聞いたときに、市長さんも、最初新聞を見たとき、苫小牧乗り気でないと思っていたんですよね。その後、何か名前が出ていたんで、拍手をしていたんですよね。

それで少し署名をね、身近な人が、お年寄りでも、交通の便が悪いところに住んでいるものですから、身近なところに置いてくだされば、助かります。よろしく願います。

◎市長 いや、本当にありがとうございます。そういう声をいただくと大変ありがたいし、なかなか応援たくさんする人がいてくれると思うんですけど、言っていてこっちも気づかないんですが、さっき申し上げた通り、最初私もお金もかかりますし、土地も用意できるのかなっていうのもあったんですけども、声をたくさん届けていただいたので、決断をさせていただいたんですよね。ぜひ勇払地区の皆様、よろしく願いたいと思います。

◎司会 今署名のお話いただいたんですけれども、今日ミーティング終了後ご案内させていただこうと署名用紙を持ってきておりますので、ぜひご賛同いただける方いたら署名していただけたらと思っております。よろしく願います。

<意見交換>

◎司会 それではプレゼンについての意見交換は終了させていただきます。ここからは特にテーマを決めずに市のまち作りについて、市長と意見交換の時間となります。昨年度まで、いただいた要望に対して、各課の担当者から回答させていただくことが多かったんですけれども、今年度からできる限り市長と皆様との対話をする機会を充実させたいということで、本日各課の担当者ほとんど来ておりません。市長、副市長そして事務局、こちらにいる職員しか来ておりませんので、実務的なご質問については、ミーティング終了後に事務局のほうで内容やご連絡先お伺いして、後日担当者からご回答させていただきたいと思っておりますので、ご了承ください。なお、発言する際には、お名前を述べてから、1件ずつ簡潔なご発言をお願いいたします。それではご意見などがございましたら、マイクをお持ちしますので、挙手をお願いいたします。はい。今マイクをお持ちいたします。

◆市民 ……でございます。1次避難の公民館の上の工事始まりましたね。それで私たち聞いているの、階段と手すりだけっていうような認識があったんですけども、それ以上何か悪天候に対応できるような施設とか、何かそういうものを用意しているのかどうかをお聞きしたいと思います。

◎危機管理室長 はい、ご質問ありがとうございます。危機管理室のほうからお答えをさせていただきます。今工事始まっております公民館ですけども、今お話あった通り、今回公民館については、逃げ遅れたときの本当に最終手段ということで外階段と、あとは転落防止の柵をつけさせていただいています。それとそうは言っても野ざらしという形になりますので、あの上にベンチ型の収納ボックスを置きまして、本当に若干ではありますけども、カイロですとか暖房対策ですとか、あるいは昨今の熱中症対策もありますので、そういったものは置こうというふうに思っております。あくまでも

そういう最終手段でありますので、先ほども申し上げました通り、時間がある場合には学校なりのちゃんとした施設のほうに避難していただければというふうに思っております。以上です。

○**司会** それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆**市民** ・・といます。よろしく願いいたします。今、公民館一時避難所の話があったんですけども、屋上から例えば公民館の中に入ってくるということはもうできない状態なんですか。

◎**危機管理室長** はい、公民館への避難の場合ですけども、基本的に外階段になりますので、2階ぐらいまで津波が来てしまった場合には、基本的には中には入れない形になります。基本的に屋上で難をしのいでいただくというような形でございます。

◆**市民** そこまで水が来ると、もう屋上に逃げるよりしょうがないんですけども、悪天候のときに屋上まで来そうもないなというときは、ちょっと中でね、雨露、雪なんかをしのぐというようなものは欲しいなと思います。よろしく検討してみてください。

◎**危機管理室長** その辺の運用については、またいろいろとお話をさせていただきながら、もちろん、2階まで波が来なければ、一旦屋上に避難した後に2階のほうに入っていたかどうか、そういった運用は可能かというふうに思っておりますので、一応そのような理解でお願いできればというふうに思います。

◆**市民** すると、中に入るには外階段を降りて、また玄関から入る。

◎**危機管理室長** そうですね。

◆**市民** 直接2階の部屋に入れるドアぐらいはほしいなと思いますね。何とかありませんかね。よろしく願いします。

それと、これは市長に直接お願いというか、宿題というか、あるんですけども、私はまちというのが形を成すためには必要なものはいくつかあると思うんですが、学校というのがあるかどうかというのも大きな要素だと思うんです。それで2030年に形は今と変わりますけれども、小中一貫校の義務教育学校が始まります。これはありがたいことです。地域に学校が残るということになりました。

それともう1つ、認定こども園が勇払にあります。これは勇払学園さんが運営しているんですけど、でも今のままだと子供の数がどんどん減って行って、認定こども園は民間ですから、経営運営自体が危ぶまれる。また学校も子供が減ると、非常に子供の教育に対してよくないような形の運営、教員の数だとか複式学級にするとかも含めて。ですからね何とかね、最低でも今の子供の人数が地域に常時いるような、例えば子育て世代の人の移住に対して、今勇払でソーラーパネルの設置だとか、それから先ほど市長がお話したようなモデルケースだとか、優遇措置の対象とされているんですけども、市の政策として、そういう子育て世代の人が家を建てる場合は、こんな特典がありますとかというような、行政施策を考えていただきたいなというふうに考えております。

これから苫東のほうに大きなデータセンターができたり、千歳のほうでラピダスの稼働を始めているようではございますけれども、今後もそういうところに出てくる企業、あるいは今ある企業に対してもですね、市長のトークセールスで勇払をPRしていただいて、そこら辺の子供の数を確保できるようなことに汗を流していただきたいと強く思うんです。

◎市長 はい、・・・さんありがとうございます。冒頭申し上げた通り、この勇払地区は苫小牧市のまちづくりの礎となった地域でございますし、八王子市の市長のほうから皆さんが、本当に必ずというか、ここに来るために苫小牧に来ていただいておりますので、苫小牧にとっては特別な地域でございます。したがって、まだ私が議員のときでしたけれども、小中学校も義務教育学校として残すという判断を、市も議会もしたわけございまして、その辺はこれから建て替わっていくと、新しく形が変わっていくとは思いますが、この先も、例えば早ければ来年度から、ゼロカーボンに関わる大きなプロジェクトが、苫小牧東港の周辺で2つ予定されております。北電さん、そして北海道ガスさん、これは数年間にわたって、工事関係者数千人から多いときで1万人規模の工事関係者が来ることになっておりますので、そういったところの、先ほどホテルがないんじゃないかというお話もありましたが、新たな投資みたいなものが、これから苫小牧のほうにも来る可能性としてはあるんです。

ただ、先ほど言われていましたように、ここの勇払地区の人口を増やすためにどういう対策が打てるかというところは、ちょっといろいろ考えていかないと駄目だと思いますので、今後の宿題とさせていただきたいと思います。先ほど言った大きなプロジェクトの受け皿として、宿泊を頑張ろうっていうのは、これ苫小牧だけじゃなくて、1市4町で、白老も安平、鶴川、厚真の町長、1市4町で受け皿となっていこうと言っているぐらいですので、当然この勇払の地域の皆さん、いろんな形でのご尽力をいただかなきゃいけないところもあれば、恩恵を、というところも可能性としてはあると思うんですね。その辺を人口どうやって増やしていくか、学校をどう残していくかというところとどう繋げていけるかっていうのは、ちょっと考えたいと思いますので、ちょっとまたご意見をいただければと思っております。ありがとうございます。

○司会 それでは次に隣の方、お願いします。

◆市民 ・・・です。今日の民報で、苫小牧市内在住の外国人の数がアジア圏を中心に1,700人以上を超えるという、このような民報の記事が上がりました。例えば、移住者の方が技能実習生として来ていますという、そういう情報はあるんですね。また日本製紙北海道サポートの旧社宅にですね、どのような仕事しているかわかりませんが、その社宅にですね、相当人数の外国人の方いらっしゃるんですね。どこの国の方々というのは全然わかりません。

それでなかつですね、夜間にですね、自転車で走ったりするんですけども、無灯

火なんですよね。それからなおかつ並列で走るだとか。こちらは、新聞によりますと、多文化共生指針というのは、道内で初めて苫小牧市が策定して示しているという、そういうことでもありますので、その辺は指導といいますか、道路交通ルールだとか、日本の法律だとか、そういうのがどの程度いらっしゃっている方に周知されているのかですね。こちら地域としては知らないんですよね。やっぱりある程度情報としてはですね、市からも住民全員ってことじゃなくてですね、やっぱり自治会の役員ぐらいのところには、こういう国の方が来ていますよと、こういう仕事されている方がこちらに来てるんですよってというようなことは、ちょっと知らせていただいてもいいんじゃないかなっていう、そういう気がするんですけども、その辺いかがでしょうか。

◎市長 はい、ありがとうございます。・・さんのお言葉本当にその通りだと思います。ただ今少子化の中で、10年前に比べて生まれる子供の数も半分ぐらいまでなっている中で、申し上げれば、苫小牧いろんな産業だとか工事っていうのはこれからも増えてくる可能性があると思っています。それをしっかり受け皿となるためには市としても、この人手の確保というのは大事だと思っていて、外国人がさらに増えていく可能性というのはこの先もあると思います。今1,700人ですから、伸び率としてはトップ5に入るぐらいですね。どんどん増えていますので、その急激な伸びに対して、市民の皆さんの外国人に対する理解とか、いわゆる文化、言葉が違う方に対するこの慣れっていうのが、ついていってない部分も当然出てくると思うんですよね。

ただ、やっぱり肌の色が違う、言葉がちょっと通じない、そういったところから、何か不信感とか出やすいとは思いますが、もう少しそこは時間をかけていって、慣れていく必要があろうかと思っています。

ただ、外国人の方といえども道交法は守らなきゃいけない。自転車の利用も気をつけなきゃいけないということをしっかり伝えなきゃいけないし、先ほどあったその災害時にどういうふうに、どこに逃げるべきだとかいうのも、これはしっかり行政が関係する団体、あるいは会社さんとも連携して、伝えることはしていかなきゃいけないと思います。だからそういう中で外国人、来ていただいた方々が、しっかりと安心安全に、そして地域の皆さんと一緒に住んでいけるようなことをやっていかなきゃいけない。

会社に勤めている外国人の方はどこから来て、何歳でどんな方かっていうのは、なかなかこれ個人情報もあって、市のほうでつかみにくいっていうのが現状というふうに担当から聞いていますので、そのあたりは今言われましたように、住んでいる方どういうふうな形で把握できるのかっていうのはちょっとまた確認したいと思います。おっしゃられることすごくわかります。それでやはりアパートを持っている方で外国人住まわせたくないっていうこともある。これ事実としてありますので、ちょっとそこも、宿題としていきたいと思っています。

○司会 それでは終了時間近づいてまいりましたので、最後にまだご発言されていない方の中で、もう1人ご質問あればお受けしたいと思いますのですが、どうでしょうか？はい。それでは最後にしたいと思います。

◆市民 ……といます。今……さんのほうから、外国人の話がございました。僕も非常に気にしています。当然海外から来られた方は、パスポートをお持ちだと思います。当然住んでいれば、住民票との関わりってということについては、行政によってどういうふうに把握されているのかなというのが1点です。

それと先ほど……さんのお話ありましたけれども、なかなかこの国の方なのかなと、それと、どこでお仕事をされているのかなってというのが全くわかりません。こういう言い方をすると非常に申し訳ないですが、居住されている方々って部屋にいないんですね。ほとんどの方が寝るだけのために部屋に入る。普段は全部路上にでて、道路のへりに座ってコンビニから何かを買ってきて、グループでお話をして、なかなか部屋に入らない。そこが実は通学路になったりしている。ですから部活やなんかをして子供方が帰るときは、多少もう海外の方お仕事終わって、そのアパートの路上で座ってお話をする、そんなところを皆さんが通ることになりますので、今のところなら問題は発生していませんけれども、将来のことを考えると、ちょっと心配だなというふうに思います。

それと、先ほどちょっと話ありましたように、151番1番地のほう、人口的にもまた人通りも非常に少ないということで、何か不祥事があったら大変だなということも含めて、行政のほうとして、危機管理も含め、どういうふうにしていこうとしているのか。

もう1点、3点目になりますが、同じことですね。勇払だけの問題じゃないと思うんですが、勇払は非常に多く感じるんですね。沼ノ端その他のところで、そんなに海外の人が道路にたむろしているような状況っていうのは見てないんですが、この辺のところ、どういうふうに把握されているのかお聞きしたい。よろしくお願いします。

◎副市長 ……さん質問ありがとうございました。外国人の関係につきましては、今日の民報にも出ていましたけど1,700人を超えているということで、ただ市のほうで苫小牧にいらっしゃる外国人の方がどこに住んでどこの企業に勤めているかっていうところまでは、正直つかんでいないのが現状でございます。ただ、3か月以上滞在する場合は住民登録も必要になってきますので、そこは適正にやっぴらっしゃると思います。おそらくの話って言うのはちょっと失礼かもしれませんが、労働者として入ってきている方がほとんどだと思いますので、企業のほうに市のほうから例えばそういう、先ほど……さんがおっしゃった無灯火の自転車の件だとか、そういう日本のマナーについてはしっかり指導していただきたいということは、市のほうから企業のほうには通知は出せると思いますので、そこはちょっと検討したいと思います。

それから勇払のほうの外国人の方が多というイメージがあるというお話があり

ました。勇払にどれだけいるのかちょっと存じ上げてないんですけども、私住んでいる西のほうも北洋大学で外国人留学生が来ていて、かなり多いっていうイメージを私は持っていて、確かに外国人の方って自転車を使っている方が多いなと思います。おそらく全市的にそういうマナーの問題ってあろうかと思いますが、市として改めて外国人に対する対応については、皆さんに不安を与えないようにどういう対策がとれるかっていうのは考えていきたいと思ひますし、将来的には、外国人の方と日本人我々が、しっかりと共生できるっていうような社会に向けて、対策をやっていきたくと思ひますので、こういうご意見をいただくことで我々も気づくこともありますので、何かあればまた我々市のほうに言っていたきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

○司会 それでは、以上で意見交換を終了させていただきます。この後ミーティングは閉会となりますが、担当課のほうにご意見ご要望ありましたら、お帰りの前にこちら事務局席にお立ち寄りください。内容とご連絡先を確認させていただいて、後日、担当課のほうから連絡させていただきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。それと先ほどご案内申し上げました通り、日本ハムファイターズの2軍誘致にご賛同いただける方おりましたら、本日署名用紙を持ってきておりますので、お帰りの前にぜひ署名をいただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。それでは以上をもちまして、あなたの街でミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

令和7年度あなたの街でミーティング会議録

開催日 令和7年10月20日（月）

地 区 錦岡地区

会 場 もえぎ町総合福祉会館

<市長プレゼン>

◎市長 皆さんこんばんは。苫小牧市長の金澤俊でございます。本日はあなたの街でミーティング、全体では7回目の開催になります。10回やる予定になっておりますが、7回目のあなたの街でミーティングということで、今回錦岡地区の皆様にお時間をいただいております。本当にお仕事お疲れのところ、ご出席いただきましてありがとうございます。今司会からもありましたように、まず私からは6点についてお話をさせていただいて、皆さんからご意見なりいただいて、その後にその他ということいろいろご意見ご要望を受けたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

まず高齢者福祉ということですが、私もこどもどもんなか政策というのは選挙で訴えまして、当選させていただきまして、着任後すぐ、そういったこどもどもんなか政策について進めておりますが、実はこどもどもんなかというのは、将来的にこのまちを支えていく人材を育てるということで、今不登校ですとかいじめですとか、非常に数が増えておりますので、そういった子供たちに対して手を差し伸べて、しっかりと未来に向かって力強く子供たちが生きていけるように、もっと子供、あるいは子育て支援について、これは教育も含めて、力を入れていこうということで、そのようなことを進めさせていただいております。これはひいては、高齢者を含めたこのまち全体の皆さんを支えていく人材になりますので、このこどもどもんなかというもの、この高齢者福祉というものは関連しているというふうに私は思っております。

予算的には、これ直近ですが1,250億円の全体の予算のうち、高齢者関連が300億、子供子育て関連は135億円ぐらいだったということ、まず皆さん頭にちょっと入れていただければというふうに思います。

次、お願いします。

高齢者福祉ということは何かということでございますけども、いろんな今年もやってきておりますが、認知症カフェをしていたり、あるいはシルリハ体操と言ってますが、各町に指導する方を育成したりしながら、介護予防の体操を各地域でやらせていただいたり、あるいは予防接種もいろんなことやっておりますが、今年度、带状疱疹ワクチンの予防接種というものを始めましたので、これは高齢者の方向けに、新たに予防接種を助成させていただいております。

はい、次お願いします。

そしてやはり高齢者の皆さんを支えるという意味で、子供たちを、そういう人材にしていきたいと思っておりますけれども、これ相互にやはり関連していると思っております。スライドの左上ですけれども、高齢者の方が収穫した農作物を子供食堂に使わせていただいたり、あるいはボランティアの高齢者による、スライドの右上ですけれども、子供の見守りをしていただいたり、あるいは逆に、スライドの左下ですけれども、高校生の灯油配送ボランティアということで、高層階に住んでいらっしゃる市営住宅のほうに、高校生が灯油を運んでお届けしたりとかいうことも、社会福祉協議会さんの事業としてやっていただいています。あるいは高校生がスマホ教室で、高齢者の方に、使い方を教えてあげたりというようなこともやっていただいて、お互いに関連していると思っております。

次、お願いします。

それでよく言われますのが、公園で遊んでる子供たちの声がうるさいんだというようなことを、地域のほうで言われたりすることもあるんですけども、そういったことも、温かく許容してあげて、受け止めてあげてほしいなというふうに思っております。そして、危ない遊びとか、あるいは公園の水を出しっぱなしにして、良くない遊びをしてるように思えたら、それはもう地域の皆さんで叱るなり、指導していただいて、温かくそういった形で子供たちに対して接していただけたらというふうに思っております。そういった形で、子供の声が聞こえるまちということを浸透させていただきながら、未来のあるまちを作っていきたいなと、このように思っているところでございます。

はい、次お願いします。

そして北海道日本ハムファイターズの2軍施設の誘致についてでございますけれども、7月7日に、北海道日本ハムファイターズの2軍施設を道内に移転するということを正式に発表いたしました。実は私が就任する前から、この話はちらほら出てはいたんですけども、正式に今千葉にある鎌ヶ谷から北海道に移転するということを球団が発表いたしまして、それを受けて、私もいろいろ市民の皆さんの声を聞いておりますと、非常に2軍施設の誘致を求める声が多くて、7月の28日でございますけれども、定例記者会見で北海道日本ハムファイターズ2軍施設の誘致にチャレンジをするということを表明させていただきました。

この後に、お隣の白老町さんから、経済界の方中心に、そして白老の町長さんも来られて、ぜひ苫小牧に誘致するのを応援したいと、一緒に頑張ろうということをお願いいたしました。その後鶴川町からも町長さん来られて、経済界の皆さんも一緒になって、誘致をしたいということで、応援したいということで来ていただいております。そしてその後でございますけれども、9月25日に期成会が発足をいたしまして、これは苫小牧の商工会議所さんが中心でお声掛けいただいて、1市4町苫小牧、厚真、鶴川、安平、白老、この4町と一緒に経済界の方中心に、誘致をする会という

ものを発足いただきました。

これに伴ってこの会場にも設置いただいているようですが、ファイターズを誘致する署名を、いろんなところで展開いただいております、会長の宮本さんが、10万筆集めると言っていたいてます。これは恵庭が人口7万人のところ5万弱、4万9,000いくらか集めましたので、苫小牧16万5,000人、1市4町で考えますともっと人口は多くいるということで、10万人ということをおっしゃっておりますので、ぜひ皆さん署名のほうも引き続きご協力いただきたいなど、このように思っているところでございます。

そして今日の夜、ソフトバンクと試合、もう始まっているのかな。そんなときに皆さんご出席いただきまして本当にありがとうございます。またこういった活動盛り上がってくるのかなと思いますので、ぜひともこのタイミングで、2軍施設の誘致に取り組めるというのも何かのご縁だと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

はい、次お願いします。

そしてスポーツ関連でいきますと、もう1つ明るい話題がありまして、名古屋グランパス、Jリーグの名門サッカークラブですけれども、ここが来年の夏から、苫小牧で合宿をしていただけることが決定いたしました。これは今夏が暑いので、Jリーグのほうで開催の日程を変えたことによりまして、その事前合宿を北海道でやるというのを結構、各チーム検討しております、その中で苫小牧市は名古屋グランパスさんといろいろ協議を重ねた結果、合宿が決まりました。これは元々トヨタ自動車北海道さんがこちらに進出してもうだいぶ経ちますし、関連する愛知の企業がたくさん来ておりますので、こういうご縁があったというのが1つあります。名古屋グランパスさん、Jリーグって芝が綺麗なところで練習するんですが、一気にそういう今Jリーグでやってるところまでいかなくても、徐々に苫小牧市がやれるスピード感で整備を進めてくれたらいいということをおっしゃったり、そういったいろんな合うところがあったものですから、今回の話となりました。日ハムもそうなんですけれども、名古屋グランパスも、これ本当にありがたいことなんで、駅前もこの名古屋グランパスのフラッグで赤く、合宿の期間を染めていきたいなど私も思っております。実は今日の朝、道新にも出ておりましたが、お隣の白老町さんも、このプロサッカーチームの、期成会が立ち上がるという報道がされてまして、これは、名古屋グランパスが来たら他のチームと練習試合とかやるので、この地域で、他のチームが来ていただいて、また盛り上がっていくというのが、非常にイメージしやすくなったかなというふうに報道を見て思っております。これはコンサドーレさんもそうですけれども、そういった広がりのある動きだっていうことも、皆さんにはご協力、ご理解いただきたいと思っております。

はい、次お願いします。

ちょっと前になってしまったんですが、7月の30日にありました津波警報について、皆さんにちょっとお話をさせてもらいたいと思います。この地域もいろいろと避難されたり、不便な思いをさせてしまったところあるかと思いますが、7月の30日に津波警報を見まして、ここに書いてあるような内容で時間経過しまして、一時はもう、日をまたいで、避難所では宿泊を伴う避難が必要なんじゃないかというようなことも想定されていたんですが、その日の夜には津波警報が解除されまして、避難指示解除させていただいたというところでもございました。

報道でもテレビにもたくさん出ておりましたけども、緑が丘公園に車がたくさん避難したり、あるいはこのあたりでも山のほうに向かう車で渋滞をしたとかいうことを、苫小牧市全域で聞いておりました。今後の避難ということを考えましたときに、ぜひ皆様には今お住まいの家の地盤高、あるいはお勤めになってる方で、お勤めになってる所の地盤高を確認いただきまして、それで津波の警報が出た際の最大の津波の高さはどれぐらいなのかというところを合わせて、避難をするかどうかというのを検討していただきたいなというふうに思っております。

と申しますのは、この7月30日も非常に暑い日で、特にお年寄りの方なんかは、わざわざ家から避難所に歩いて行って、クーラーがついてない中で熱中症のリスクを負いながら、避難をする必要があるかどうかというところは考えなきゃいけなかったところだと思います。ただ、市民の皆さんがテレビを見て、高いところに逃げろっというようなことを見てすぐ動かれたということは、これは正しい行動だと思いますので、それは間違っていないと思うんですが、一方でこういう暑い日のリスクですとか、あるいは、実は緑が丘公園も公園の上まで上がらなくてもあそこに行けば、津波は高さ的には来なかった地域なんですね。ですからそういった冷静な対応をするという意味でも、今後に向けては、ちょっと今の地盤高をまず確認いただきたいなというふうに思ってます。

当時市のホームページがダウンしてしまったんですが、これたくさんアクセスが集中したために、見れなくなってしまいました。これおそらく地盤高を、津波ハザードマップを見るために、皆さんいろいろとアクセスをされたからなのかなというふうに思っております。ホームページがダウンしてしまったのも、今ちょっと解決をして、簡単にダウンしないように対応させていただいております。今回でいきますと、このオレンジ色、赤っぽいところが避難エリアになっていました。黄色いところも、一部我々は36号線から南の方には避難指示を出させていただきました。これは便宜上わかりやすく、そのように避難指示をさせていただいたんですけれども、厳密に言いますとオレンジ色の部分が津波の来る可能性があるというところですので、こういうものを日頃から皆さん情報を把握しておいていただきたいなというふうに思っております。

はい、次お願いします。

そして最近また報道でも多いのがヒグマでして、これは北海道だけではなくて東京や本州の方でもたくさんヒグマが今出ております。正直言ってヒグマが出てきたときにどう対応するかっていうのは、なかなか決定的なものはないんですけども、今苫小牧市では9月に入りまして、国のほうでまちの中でも鉄砲が打てるようになったんですが、国で持っているガイドラインを参考にしまして、市のゾーニング計画というのを策定中でございます。これ年内に策定したいと思っておりますが、作成中のマップがスライドの右上にございまして、このピンクのところはクマさんがよく出るところだと思っただけだと思いますが、大体住居、我々が住んでるところ、多くかぶってます。

ですからこの中でどこをゾーニングといいますかね、ゾーンとして、クマさんがいるゾーン、入っちゃいけないゾーン、人間が住むゾーンって我々が分けても、クマがどこに来るかっていうのはなかなかちょっとわからないところがあります。ただやれることをこれからやっていこうと思えば、ぜひ市民の皆さんにお願いしたいのは、まずゴミを外に捨てない、ポイ捨てをしないとか、あるいは夜のゴミ出しをしないようにしていただくとか、ということがまず大事かと思えます。そういうものをクマが、漁って食べに来たりして、まち中に出てきてしまうということが考えられますので、まずそういったことは市民の皆さんにもお願いすることかと思えます。

それから市としては、クマの移動する傾向としては川に沿って移動するっていうことを言われておりますので、その川の、草木が生い茂ってれば、それを切って、クマが見やすいようにするようなことも、市としては対応していかなければいけないと思います。北海道の管理している河川もありますから、北海道と連携しながらそういったクマ対策を、できることから進めていくということかなと思っております。

最近もクマを見たんじゃないかという通報がこちらのほうに寄せられたりしてんですが、調べていくとクマの足跡もなかったり、あるいはフンもなかったりっていうことでなかなか形跡が見つかることができなくて、誤報の可能性もあるんですが、ぜひ気をつけていただくことに越したことはないので、例えば川の近くに来たときは気をつけるとか、夜は気を付けるとか、そういうことはぜひ皆さんにも現時点でお願いしたいなと思っております。

はい、次お願いします。

最後ですけれども、駅前再開発ですね。これは私の前任の岩倉市長も、大変体調優れない中でも、この駅前再開発に向けた駅周辺の、土地問題解決の方向づけしていただいて現在に至っております。現在は、再開発の計画を作る事業者が選定されて、これから協定締結ということでございますけれども、今ここに書いてあるようなスケジュールで今後進めていきたいなというふうに思っております。皆さんご承知の通り、旧エガオビルはあのような形になってもう10年経ちますので、少なくとも解体だけはちょっと急ぎたいというふうには思っております。

もう一つは財源のところが非常に大事ですので、今非常に物価高騰の中で、解体費含めて上がっておりますので、どういった絵を書いてどういうふうに進めるかっていうのは、ちょっとこのスケジュールよりも、変更があるかもしれませんが、いずれにしてもしっかりと後世に良い財政状況を残しながら、こういった駅前再開発を進めていければなと思っておりますので、市民の皆さんには、何かあれば忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

私も公約に入れておりますし、市民の皆さんからも非常に要望が多いのが、駅前で子供さん、親子連れで、雨が降っても時間を過ごせるような、そういった施設を作ってほしいということも言われておりますので、そういったものを、機能的に入れていけるようなことも検討しておりますので、そのことをお伝えして、私からのプレゼンとさせていただきます。何かご意見ご要望ではお受けしたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

<プレゼンに関する意見交換>

○司会 それではただいま市長からプレゼンがありました、大きく6つの項目について、まずは意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、皆様のほうからご意見ご質問、ご感想などあればいただきたいと思っております。発言される方は、マイクをお持ちしますので、挙手のほうお願いしたいと思っております。

◆市民 明德町の・・・です。6番目ですか、苫小牧駅前の再開発で駅前ゾーンを再開発するのは、着手されてるんですけど、駅の前に立ったときに、苫小牧駅があまりにひどくて、見た目ですよ。立たれたことありますか、目の前に。降りたときについていうか、あそこの駅前で待ってたりとか、ちょっとあまりにも駅の絵面っていうんですか。それから苫小牧駅がたまにニュースで出るんですけど、恥ずかしくて、ちょっと、えっ、という感じですよ。昔綺麗だったところが今全部なくなって、苫小牧駅っていうのも相当ひどい感じになってまして、JRさんとの関係あるんでしょうけど、観光客とか結構今来てますよね。ですから、せめて駅前の見目がって、ずっと思ってるんですけど。そういうのはJRさんと交渉で難しいんでしょうか。

◎市長 あそこを書いてありますが、JRの建物はJRさんが基本的にはやるんですが、我々の駅の再開発というのは、JRの建物ですね、やっぱり一緒に変わってもらわないと駄目だとは思ってます。いろいろとJRと交渉もしてきてるので、そのあたり町田副市長のほうからちょっと説明させてもらいます。

◎副市長 はい。質問ありがとうございます。ちょうど駅前の赤く囲っているところなんですけども、駅側にちょっと飛び出てますよね。あそこの駅舎の一部というイメージなんです。それでJRさんと交渉してまして、おっしゃる通りテレビに映ると、錆びた苫小牧駅が映るので、あそこを市のほうで、今JRさんと交渉して、市が責任を持って改修するような形で交渉を続けてます。今年度中に計画を作りますので、そこも含め

た計画を、市民の皆様にお示ししたいというふうに考えてますので、我々も同じことを考えてました。

◆市民 今、駅の中コンビニしかないですね。苫小牧駅、降りるとコンビニしかなくて、観光客の観光案内所もふれんどさんのとこまで行かないとわからないっていう、最初来た方、私たちはもう慣れてるんですけど、戸惑われると思うんですけどね。駅の中結構、今空き店舗いっぱいなってるところにいろいろ入ってましたよね。観光客の方が、要するに今再開発するまでちょっとあまりにも、苫小牧駅に降りたときに、10何万都市で、えっ、て思うのと、バス停がもうバラバラになって、すごい皆さんも戸惑ってらっしゃるとかよく聞くんですよね。ですから、駅のほう早めにやれないでしょうか。

◎副市長 はい、ご意見ありがとうございます。先ほど市長も言われた通り、旧サンプラザビルがあのようなになって10年経ちますので、市としてはまず解体のほうを先に着手したいという考えでいます。その後に、駅舎のほうに手をつけるっていう流れになりますので、もうしばらくちょっとかかりますけども、恥ずかしくないような駅舎になるように我々も頑張りますので、またご意見いただければと思います。ありがとうございます。

○司会 はい。それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。前の方、先にお願います。

◆市民 明徳町の・・と言います。先日、津波警報が出された関係で確認したいんですけど、結局避難指示が出たのは国道から南側3mということで、私は大体イメージができてたんですけども、私は市営住宅、津波避難ビルに指定されている、入居している関係もあって、1回目、「どうするの、どうするの。」っていう方がいたんですけど、「ここは津波避難ビルだから、もし心配なら2階以上に避難しなさい。」という話をしたんですけど、それでたまたま今回は3mだったんです。それで、一般にお配りしてる浸水地図っていうのは、最大苫小牧9.7mの津波が来たときの浸水予想図なんで、皆さんその辺理解されてない方が多かったんで、多くの避難される方が出て混雑した箇所が出たと思うんですよ。この9.7mの津波ということを理解してない方も、その辺の周知をされたほうがよろしいんじゃないかというイメージを持ったんですよ。例えば5mならここまでとか。そういうなんていうのかな、地図っていうのを作れないのかなとちょっと思いましたので、その辺をよろしくお願いします。

◎市長 はい。今回のあなたの街でミーティングでも、そういったことをできるだけ理解いただけるように、こういったテーマをまず取り上げておりますので。すごく良い質問、ご提案をいただいたと思います。今日、災害担当が来ておりますので、蔵重の方から。彼の持つるハザードマップもありますので、見ていただいて。

◎危機管理室副主幹 真砂町で最大9.7mというのが本市の令和3年に、北海道が公表したものでそうっております。おそらく皆様のお手元にこの津波のハザードマップ全

戸配布させていただいてたと思うんですけども、今回、我々の周知不足っていうところもあるんですけども、こっちの面というのが、最大の津波警報が出たときのマップになっています。ですので、今回は津波のもう1個下の津波警報というところでしたので、そこでの違いというところがあります。その違いについては、我々もやはり最大のところの避難というところを周知したものですから、警報ごとの周知っていうのがなかなか行き届いていなかったという反省があります。この裏面に、実は表にも出てるんですけども、この警報種類ごとの全市版のものがあります。津波警報だと、見ていただいた通り、黄色のエリアぐらいは表のものと同じものになっています。津波警報だとこの赤い部分ですね。この部分の方たちに今回は避難指示を出したというところにはなるんですけども、この辺りの警報なのか、津波なのかというところについては、我々もこれから、しっかり周知していきたいなというふうに考えております。

ということで、皆さんについては、もしよろしければこの裏面を見ていただきまして、ここに津波警報だとエリアⅠと言いますけど、この赤いところですよ。ごめんなさい、津波だとⅠ、Ⅱですね。で津波警報だとエリアⅠっていうところになってますので、その辺り、自分のところの津波高、地盤高ですね。それと併せてご確認いただければなというふうに思っておりますので、今後またさらに周知頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

◎市長 あと地域によりましては、その地域は地盤高は例えば3m以上で大丈夫だとしても、川が近くにあると川が干涸びると狭くなるので、川が洪水してしまうと、押し寄せてきて洪水するっていうところもあって、今蔵重が持っていた地図も場所によっては、川のところだけ色が違ったりしてるものですから、そういうものもぜひご理解いただきたいと思ひます。

○司会 先ほど手挙げられた方。

◆市民 錦西町内会の・・・と申します。よろしくお願ひします。今の内容について、私よりちょっとお話ししたいと思うんですけども、防災無線ですね。以前錦西町内会にあったんですよ。1機。それが現行のね、防災無線に移行する際に撤去されてね。音が聞こえないという苦情がずっとされてね、お話は届けてたんですけども、その辺なかなか進展しないのでね。以前より状況は悪くなってる。先日の津波のときもですね、そういうものが使えればですね、もっと的確に市民の方にね、避難してください、この地域の方は避難してくださいっていうことをちゃんと伝えられると思うんですよ。だから防災無線が生きてないですよ、今の状態ですとね。っていうことで、何とかしていただきたいというのが要望です。さっきお話しされましたけども。避難所が開設されましたよ、北洋大学。なぜ開設されたんですか。ちょっとさっきのお話ですよ、避難指示が出てないのに、避難所は開設されたというふうにとっているんですけども。

◎市長 はい。では、蔵重のほうから。

◎危機管理室副主幹 はい。ご質問ありがとうございます。まず先に避難所の開設の部分からお話いたします。避難所につきましては、津波警報が出たタイミングで全部の避難所を開設するという取り決めをしております。北洋大学なんですけれども、もしかすると海側の方たちが逃げてくる可能性もありますし、36号線とか走っている方たちも避難してくる可能性もあるというところで、全市の指定避難所48か所あるんですけれども、そちらを開設したという状況になっております。ですので、津波警報、大津波警報、津波に関しては警報が出たタイミングで全部の避難所を開設いたします。

続きまして防災行政無線の関係なんですけれども、おっしゃる通り、聞こえないというところは確かにございます。1つのツールというところで考えていただきたいというところがありまして、皆さんの情報を取る手段というのが結構多様化しております。携帯で取れる方もいたりラジオで取れる方もいたり、外で雨が降ったりすると、無線とかは全く聞こえなかったりというようなところもあります。その防災行政無線の確認方法については、戸別受信機というものをご自宅で基本的には貸与してるんですけれども、それが有償だったり無償だったりっていうのもございます。そこで同じスピーカーから流れたものを確認していただくっていう方法もありますし、この防災ハンドブックの中に、電話をかけたら、その音声が同じものを聞けるっていうテレホンサービスがあったりですとか、あとはメールですとかLINEですとか、携帯になってしまいますけれども。あとはFM苫小牧さんですね。道も協定を結んで83.7を聞いていただければ同じ情報というのが、協定の関係でいち早く確認するということができますので、防災行政無線もそうなんですけれども、いろんなツールとかを活用いただきながら、皆さんのところに情報を届けていきたいというところがありますので、聞こえないというところは申し訳ないんですけれども、そのいろんな面で、情報収集という形と情報発信に努めていきたいなというふうに考えております。以上でございます。

◆市民 それで緊急時は音で知らせる手法もございますよね。いろんなツールがあるのもわかるんですけども、私も含めてね、高齢だとそういうのなかなか使えませんよね。今回の津波に関してはですね、携帯でいろんな情報を入手して、該当してないなど、避難しなくてもよかったのかなっていうのは後からわかったんですけども、その場ではどういう状態なのかよく見えないですね。っていうのはあって、ちょっとその伝達方法、早急に皆さんに知らせる方法も、もうちょっと考えていただくのと、出張の方で苫小牧に来られる方っていうのはなかなかそういう情報、方法を知らないんですよ。前、私お話したんですけども、白老で避難訓練やった際にね、私、白老に仕事に行ってるんですけども、そういう方にも携帯でちゃんと通知きたんですよ。だからそういう方法も、もうちょっと考えていただけたらなというふうに思います。

◎危機管理室副主幹 すいません。伝達方法については今後もしっかり考えていきたいな

というふうに思っております。今現在カムチャツカを含めまして、アンケートの調査もありまして、検証作業を行っております。この検証作業を終えた後に、周知方法等についてもしっかり皆様のほうに伝えられるように検討しておりますので、今後方法については検証の後、お知らせしたいなというふうに考えております。

○司会 それでは、他にどなたか。

◆市民 すずらん町内会の・・・といいます。よろしく願いいたします。今の津波に関する事なんですけども、実は当日、30日の日警報が出まして、それでだいぶ車等で避難をされたわけなんですけども、実はうちの町内の中にですね、道南バスの本社の営業所のところから、高速道路のほうに出ていく道路が、あれは避難経路として指定されてるんですよね。ただあの道路は非常に道幅が狭く、上のほうへ行っちゃうと車1台分くらいの幅しかないというところなんですけども、実は当日ですね、あの道路はものすごい渋滞しちゃったんですよ。それで中上がって行ったら今度Uターンはできないわ、車をですね、退避させるような場所もないというところで、実は私もそれ入ってすぐ上がっていったんですけども、来た方々のほとんどが高齢者、同乗者がですね、高齢者だとか、小さい子供を乗せた車なんで、実はうちの町内は、北星町なんですけども、うちの町内の方の車1台もなく、来た人にそれぞれ聞いたところ、みんな国道36号、今回の避難指示出た地域の方がほとんどなんです。それでなぜここへ来たのかということを確認したら、いわゆる緑ヶ丘公園のほうには行けないと。ここが一番近いところなんで、上がってきたと。ここへ行くと、高速道路、樽前サービスエリア、そこにも入っていけるんじゃないかというような方が非常に多かったわけなんです。ところが高速の樽前サービスエリアは、あそこ一般車両は中に入ることができない状況になっておりまして、まず、結局その先がどこから詰まってるのか全くわからなくて、私もずっと歩いて行ったところ、一部の車はアルテンに行きたいと。あの道路を抜けてアルテン行きたいという話なんで。確かに道路はアルテンには繋がってはいるんですけども、ただその先行くにしてもですね、車がそうそうすれ違いできるようなところじゃないというようなことで、この辺渋滞して留まってしまった車の皆さんは、じゃあ私たちにどうすればいいのかと。これ高速道路、樽前サービスエリアに入ることを何とかしてくれないかと、地元の町内会として動いてくれないのかという、私相当強く言われまして、実はこれは町内会としてはどうにもなりませんというようなことをやったところ、一部の方が市に電話をかけたんですが、全然繋がらないと。パンク状態で全く繋がらないと。じゃあ私たちはどうすればいいのかと。今私もうこの状態ではもう帰りたいんだけど、Uターンはできないわ、もう万が一本当に津波来たときに私たちに死ぬと言うのかという言葉まで言われました。

ただあの場所はですね、海拔も10m以上あるので、基本的にまず津波に襲われるということがないんですけども、ただやはりここでもってですね、まず避難場所がな

いということが1つ。それから避難所が指定されていないというのも1つ。それから道路が1本道路でもって非常に狭いということが1つ。それと、市の電話は全くパンク状態で繋がらないと。それから防災無線は全く聞こえないというようなところがいくつもありまして、一応これらについてはですね、もう地元の町内会ではどうにもならない話なんで、市としてはこれ、今後ですね、いろいろと検討していただきたいなと。今回は実際にあったことなんですけども、これを教訓にしてですね、今後ちょっといろいろと対策をですね、市としてもまた地元町内会、また町連の地域のグループともいろいろと話し合っ、ちょっと検証していただきたいなというところでございます。よろしくお願いします。

◎市長 はい、ご意見ありがとうございます。おっしゃられる通りで、先ほど蔵重のほうからご説明しておりますけども、こちらから周知がまだまだ市民の皆さんに足りてないっていうのがまず根底にあらうかと思えますし、例えば、36号線走ってる車がお知らせを聞いて、逃げなきゃって行って山側に走ったっていうのはこれ間違いじゃないんですが、そこに、地域の人たちが行く、逃げるようなところに来てしまうっていうのもこれも、ある意味では自然の流れでそうなってしまったというところもあると思うんですね。いろんなことを検証しながら、どういうふうに今回起きたことを、課題を整理していくかっていうところは本当にこれからにとって大事なので、それは先ほど説明しました通り、先月末で一応このアンケート取り終わってますから、市として今いただいたご意見も含めて、ちょっともしよかったら詳細後ほど教えていただければと思えますし、今後に向けて改善していきたいと思っております。

<意見交換>

○司会 それではプレゼンについての意見交換をここで終了させていただきたいと思えます。この後も引き続き、このプレゼンに対しての質問をしても大丈夫ですし、どのようなテーマでも構いません。

昨年度まで市の担当者のほうからいろいろ回答させていただく機会が多かったんですけども、今年度から市長と皆様との意見交換を充実させたいということから、各課の担当者はほとんど出席しておりません。市長と副市長、それとここにいる事務局と一部の職員しか、今回出席しておりませんので、実務的な質問についてはこの場で回答するのが難しい場合がございますので、その場合はミーティング終了後に、事務局のほうで内容、ご連絡先お伺いして、後日担当者からご回答させていただきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。発言する際には最初にお住まいの町名とお名前を述べてから、お1人ずつ1件ずつ、簡単なご発言をお願いしたいと思います。それでは意見ありましたらお伺いしたいと思います。まず先ほどの方お願いします。

◆市民 皆さんこんばんは。青雲町の・・・といいます。私は本州生まれで、転勤のためにこ

ここに住むことになりまして。それで町内会というのは、良いのを作ってもらってありがたいです。入ってみませんか。町内会のこれです。

私も、転勤族でありまして3年に1回とか、そういうことで本州から来まして、北海道も何か所か移転してまいりました。この、町内会に入ってみませんかという、これは本当に良いことだと思います。私は、やはりそのときに町内会の入会のお金、金額っていうのも、ある程度の幅があると思いますが、200円とかから500円とか1,000円とか、本州はびっくりするほど何十万円という、それは住まれている方がいるものですから、地権者が「ゴミ捨て場を使ったら駄目ですよ。」と。でも、やはり町内会がなければ防災の今のお話のように、お互いに助け合うっていうことができますので、それでもうちちょっとこら辺も視野に考えていただければありがたいと思います。私も80を過ぎてるものですから。

それで今のお話のようにされてましたが、高速のほうも歩いてみたんです。やはり皆さん地元の方は、やはり歩いてみないと駄目だと思います。うん。文句言ってもどうしようもない。自分のことは自分でわからないと駄目だっていうことですね。

私もこの前も、わからないものですから、9月の24日の北栄町のウォーキングに行かしていただいて、一番後ろで完走させていただきました。やはり自分の体は自分で1つ1つ考えていかなきゃ。ただ市長さんとか副市長さんに文句言ってもどうしようもないんです。やはり自分が健康であって、人を助けるっていうことで、私それで先ほどお話あったように、高齢者の体操ですね。2回させていただきました。

私は苦小牧市の住民ですから、やはり良いまちにしていきたいと思います。良いまちを作りたいと思いますから、皆さんもお互いに意見交換をしまして、不満を持つての方がおるようですが、お互いに助け合っていかなければ、不満ばかり言ってもみんなが困ると思います。そういうことで良い政治をやっていただきたいと思います。私はそれ以上のことを望みません。よろしくお願いします。ありがとうございました。

◎市長 はい、・・・さんありがとうございます。今青雲町内会の資料もいただきましたけど、本当にまず苦小牧に移住していただいて、感謝を申し上げます。今言われましたように、良いまちを作って、このまちに来てよかったと思われるようにこれからも我々も頑張っていきたいと思います。自分のことはまず自分でやるっていうことをおっしゃっていただいたので、本当にそれを避難する際も同じですので、それで無理だったら共助ですね、お互いに助け合う、そして最後に我々の公的な支援をさせていただくというようなことで、何とかそういう災害時は乗り切っていくと、命を守るということを目指していきたいと思っておりますので、ぜひ今後ともよろしくお願いします。ありがとうございます。

○司会 それでは窓側の方をお願いします。

◆市民 錦西町の・・・です。市長さんに質問です。新聞で、IRは子供にとっても良い施設だ

って思ってるっていうの見たんですが子供にとっても良い施設っていうことは、自分の子供さんなんかも連れて行くし、修学旅行や遠足などでも使える場所だって思ってるんでしょうか。

◎市長 ご質問ありがとうございます。まず子供にとって良い施設だっていうふうに私は言っていないんじゃないかと思うんですが、カジノが悪いっていう確か議員からの質問があったんじゃないかと記憶しておりますけれども、「カジノがあるからすなわちそれがすぐ悪いというふうには思わない。」って、私確かそういう答弁したと思います。

これなぜか、どういうことかっていうと、カジノがなぜ悪いというふうにおっしゃるかっていうと、依存症になってしまったり、そしてそれで経済的に、暮らしが困難になったりする方が出るというのが駄目だと思うんですね。ただ自分でそれを自制して、使う金額はここまでだということをちゃんと決めて、お金の使い道をしっかり自分でコントロールしてやっていくような方もいらっしゃいますし、そういうことを、特に子供たちに教えていくことが大事だと思っています。実際例えばパチンコだったり競馬もそうですけど、法律で認められているものっていうのはあるわけですよ。それで生きがいを感じる方もいらっしゃいますし、例えば宝くじなんかは、その宝くじで得た収入から一部を助成金として、いろんなまちづくりに使うように制度を作ってくれてるっていうものもありますし、苫小牧でもそういうものを使わせていただいています。そういうものは子供たちのために使わせていただいたりもしてまずし、実際私も去年まで少年野球の会長やっておりましたけれども、ある市内のパチンコ屋さんなんかは、その少年野球の子供たちに、大会の協賛としてお菓子をすごくたくさん用意して、これを参加賞として皆さんに子供たちに渡していただきたいということで、そういう協力もしていただいたりしてるんですよ。

ですからIRだけではなくて、そういった賭け事全般が悪いというのではなくて。そういうものにしっかりとこのお金を使うということに対しての自立をできるように、大人もなんですけど、これからの子供たちには教えていくということが大事なのかなと思っております。

◆市民 わかりましたけども、あの意見を述べられた形で見ると、子供にとっても良い施設だっていうふうに市長さんが思ってるから、IRを進めたいっていうふうには私はとりました。たとえ子供の野球にお金が回ってるとしても、なかったら市役所からお金を出せばいいんです。そういうので十分じゃないから、民間の人が寄付してくれてるので、別にIRなんかないほうがいいと思います。私も1回2回かな。海外でそういう施設に、パックに入ってたので行ったことありますので、訳もわからないうちに3,000円や5,000円。何だったのか知らないけどなくなる。あれはやっぱりはまっちゃうと大変なことで、それを子供にも良い施設だなんて言わないほうがいいと思います。IRには絶対反対してください。

◎市長 先ほどの繰り返しになります。子供にとって良いつて言ってるわけではなくて、そういう施設ができて、それに依存してしまって悪い方向に行かないようにすることが大事だと思ってます。既にパチンコもそうですし、競馬もそうですけれども、それで依存症になってる方もたくさんいらっしゃると思いますので、IRができることになった法律が通って、国もようやくそういう方々に対して依存症対策を、本格的にやるようになってきたっていうのが今の現状でして、そういう対策を打ちながら、やっていくということかなというふうに思っております。

◆市民 IRがなかったらそんな対策しなくてもいいんです。

◎市長 ご意見をちゃんと受けておりますので。

◆市民 絶対反対してください。

○司会 それでは他にどなたか。

◆市民 錦西町内会の・・・と申します。今アルテンです、パークゴルフ場があって、パークゴルフクラブみたいのを作って市民が参加して、月例大会だとかいろんな大会やってるんですけど、来年度から何かパークゴルフクラブを解散するという話が出てるようなんです。パークゴルフの会長と、アルテンの人の意見で決まっちゃって、来年度からそういうクラブなくなるっていう話をしてるんですよ、今ね。噂かもわかんないけどね。だから市民がね、みんな集ってパークゴルフ楽しんでるんでね、そういうのをなくすと、ちょっと問題じゃないかなと。錦西町内会にもそのクラブに入ってやってる人、何人かいて、みんな文句言ってるんですよ。なくなるんだと。だから、市長さんどういうふうに考えているのか、お伺いしたいと。

◎市長 すいません、ちょっと私そのクラブがあるっていうのは、それパークゴルフのクラブ。

◆市民 そうですね。

◎市長 錦西町の。

◆市民 いやいや、アルテンの。

◎市長 アルテンの中にあるんですか。

◆市民 アルテンのパークゴルフを楽しむ、そういうクラブっていうか、他のパークゴルフ場でもそういう会員が集まって、ゴルフでも会員が集まってやってる、それと同じようなものがあるんですよ。それでみんな月1回の月例を楽しんで試合やってね、楽しんでるんですけど来年度からなくなるっていう話なんです。やっぱり市民のためにね、そういうのは続けてやってほしいなと僕は思うんですけど、どうですかね。

◎市長 すいません、私もちょっとそこまで詳細にはわからなかったです。ただおっしゃられる通り、パークゴルフ場ごとにそういう会員を募って、月例とかやっていますよね。多分そういうのがアルテンにもあるんですということなんでしょうけど、何かの理由があって仮に解散するとしたら、会員が少なくなるとか何か理由があるんだと思いますが、まず事実確認からさせていただきますので、ちょっと宿題とさせていただきます。

さい。

○**司会** はい、それでは、ただいまの件確認して後日回答させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。それではお時間近づいてきましたので、もし最後にもう1人どなたかいらっしゃればお受けしたいと思います。

◆**市民** 錦西町内会の・・・です。街路樹周辺に住んでる者ですけれども、街路樹の花とか、枯れ葉とか枯れ枝の処理は、市はどの辺までやってくれるんですか。それとも、そういうものに関しては、その近くに住んでいる者が全部枯れ葉等を整理するんですか。それと、枝が垂れていて、もう少し高めで剪定してもらおうと車を運転するときの見通し、そういうもの、ちょうど今日スマホで写真撮ってきたので、そういうことをどの辺までやってくれるか線引きをお願いしたいなど。

それと、ごめんなさいね、1個だけ。今日この会場まで、錦西2丁目から歩いてきたんですけれども、バイパスの歩道が暗くて、歩けないんですよ。それを1つお願いします。

◎**市長** はい。ご意見まずありがとうございます。街路樹の剪定ですけれども、これは、担当のほうで見ながら、公園にしても、街路樹にしてもやっていて、委託をしてお願いしてやっております。これ例えば、先ほど具体的に写真あとで見せていただければと思いますけど、ここが伸びて例えば車出るときに見づらいついかというのがあれば市でも対応すると思いますので、それも都度言っていただきましたらと思います。これ植物相手なので一旦切ってもまたちょっとしたら伸びてくるのが大いにあります。さっき私言った川も同じように、浚渫してもまたガッとすぐになりますから、その辺りは都度言っていただきましたら、計画と予算があるので、すぐに対応できない場合もあるかもしれませんが、まずそういうご意見にしたがって、いろいろ現場見たりだとかっていうことはやっていますから、それは言っていただきたいと思います。

歩道についても、ちょっと暗いついてというのが具体的にどこなのかっていうのがありますから、またそれを教えていただいて。検討させてもらいたいと思います。

◆**市民** 街路樹の木に関してですけど、根が例えば他のところ、土地に入り込んできた場合は、それはどういうふう処理してもらおう。

◎**市長** やっぱ根もずっと生えていくと、本当に言われる通りですが、ガッと地表にも出てきて危なかったりしますので、いろんな方法あると思いますけれども、何らかの対応をさせてもらおうと思います。はい。それもケースバイケースなので、また具体的に教えていただけたらと思います。ありがとうございます。

○**司会** はい。それでは・・・さんの件につきましては、帰りに連絡先お伺いさせていただきます。後日回答させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それではこれで意見交換については終了させていただきたいと思います。この後、ミーティングについては閉会となりますが、市長のほうからも冒頭ありました通り、日本ハムファイターズ2軍誘致の署名行っておりまして、今日署名の用紙持ってきて

ております。もし賛同いただける方おりましたら、ぜひお帰りの際に署名いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それと、他にも担当部署のほうにご意見ご質問等ございましたら、お帰りの前にこちらの事務局席にお立ち寄りいただきまして、内容とご連絡先お伺いさせていただきますので、後日担当のほうから回答させていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは以上をもちまして、あなたの街でミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

令和7年度あなたの街でミーティング会議録

開催日 令和7年10月28日（火）

地 区 山手町・花園町地区

会 場 山手北光総合福祉会館

<市長プレゼン>

◎市長 改めまして皆さん、こんばんは。本日は山手町、それから花園町地区の皆様のあなたの街でミーティングということで、6時というご飯時にお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

また先ほど伺った、先般の敬老会でお会いした方もいらっしゃいますけども、日頃から様々な地域のことに協力いただいております、本当にありがとうございます。あなたの街でミーティングも数えるところも今日と明日、明後日ということなんですけれども、私も市長就任して初めてのこういう取り組みなものですから、いろんなところで話して回っておりますが、まずはここにあります6つのテーマについて、私からお話させていただきますので、何かご意見があれば、そこでご意見ご要望、質問をお受けしたいと思います。

まず、高齢者福祉ということでございますけれども、私も選挙を通じてこどもどもまんなか政策というものを訴えて、今日もある会社さんからこどもどもまんなか政策に使って欲しいということで、ご寄付をいただきました。やっぱりずっと続けていると、それに賛同する企業さん、団体さんが出てきて協力いただけるものだなと思っておりますので、これから引き続き続けていきたいと思っております。

こどもどもまんなかとは言っておりますけれども、あくまでも高齢者の方、あるいは障害をお持ちの方、市民の皆さんをど真ん中と私も考えていまして、特にその中でも将来このまちを支えていくであろう子供たちに、もっともっというんな手を差し伸べて、強く成長して欲しいということで、いろんな政策を考えていきたいということでやっております。まずイメージとして、予算ベースですけども、今苫小牧市の全体予算が1,250億円ぐらいなんですけども、そのうち子供に関しては135億円、これに対して高齢者関連の予算というのは300億円ぐらいだということを、まず皆さんの頭の中に入れておいていただければというふうに思っております。

はい。次、お願いします。

高齢者の皆さんに関わるいろいろな事業というのは、岩倉前市長のときもやってきておまして、今現在取り組んでいるものとしては、例えば認知症カフェであるとか、認知症に対する支援ですね。あるいはシルバーリハビリ体操、こちらの町内会にさせていただいてるかもしれませんが、介護予防の体操、こういったことややらせていただいたり、あるいは様々な予防接種ありますけれども、特に今年度から、帯状

疱疹ワクチンの予防接種というのを高齢者の方向けに始めさせていただいております。こういった様々な、高齢者の方々の事業というのはさせていただいております。

はい。次、お願いします。

高齢者の方々と子供たちってというのは、やっぱり切っても切り離せない関係だと思っております、お互いに支え合う、そんな関係じゃないかなと思っております、皆さんもそのように思っただけであればですが、例えば高齢者の方々が収穫した農作物を子供食堂に提供していただいて、子供たちが食べさせていただいたり、あるいは、ボランティアの高齢者の方による子供の見守りをしていただいたり、それからスライドの左下になりますけれども、高校生の灯油の配送ボランティア、高層階にお住まいの高齢者の方に、灯油を高校生が持ってお届けするというようなことも逆にやっていたり、あるいは高校生がスマホ教室で高齢者の方に使い方をご説明したりとか、お互いに支え合うものじゃないかなというふうに思っております。

はい、次、お願いします。

子供の声が聞こえるまちってということで書いておりますが、例えば公園で子供たちが遊んでいる声がうるさいというような声を聞くことがありますけれども、ある程度のそういったものは、広い心で許容してあげていただきたいと。ただ、危険な遊びとか、あるいは夜中に声を張り上げていたり、花火をしていたりとかっていうのであれば、それは地域でしっかりと指導していただいて、温かい心で、将来ある子供たちに接していただければと、このように思っております。そういった子供たちをしっかりと育てていくことで、我々を将来的に支えていく人材になっていく、未来あるまちが作っていただけるのではないかなというふうに思っております。

はい。次、お願いします。

2点目ですけれども、北海道日本ハムファイターズの2軍施設の誘致についてということです。これ報道もされましたので、皆さん見ていただいたり、これまでの経過、ご覧になっていると思いますけれども、7月の7日に、北海道日本ハムファイターズが、正式に千葉の鎌ヶ谷にある2軍施設を北海道に移転するということを発表いたしました。私もその後7月28日に定例記者会見によって、日ハムの2軍施設を誘致チャレンジするということを表明させていただきました。その後、お隣の白老町さん、それからさらには鶴川町のほうからも、町長さん、あるいは経済界の方が市役所に来ていただいて、苫小牧への誘致を頑張ってほしいと、実現してほしいと、手伝いもしますよっていうことを言っていただきました。その後、9月25日になりますけれども、苫小牧商工会議所の方々が中心となりまして、この胆振の、特に東胆振ですね。東胆振の団体、経済、観光、教育、スポーツ等々の37団体で期成会を作っていただきました。2軍施設を誘致する会というものが発足いたしまして、市役所に来て、要望をいただきました。もう既にこの入口にもありましたけれども、署名の運動を今、皆さんにお願いしているところでございます。

我々の先頭走ってると思われる恵庭市なんかは、人口7万人のところ、4万9,000人ほどの署名を集めたということを知っておりまして、それを聞いて、誘致する会の宮本会長は、10万人署名を集めると言っていたいておりますので、ぜひとも、皆さんにもご協力いただきたいと、このように思っている次第でございます。なかなか具体の場所を、どこに誘致を考えているかというのは、ちょっと皆さんには残念ながらお伝えできないわけでございますが、ファイターズと接しての中では、やっぱりお客さん、あるいは選手の行き来がしやすいところということで、話を我々も受け止めておりますので、そういった意味では駅前ですとか、あるいはインターチェンジの周辺、そういったところにあるほうが好ましいのではないのかなということで、関係者と様々な協議を行っているところでございます。

はい。次、お願いします。

スポーツ関係でもう1つ明るい話題がありまして、サッカーのJリーグの名古屋グランパスが、来年の夏から苫小牧で事前のキャンプを行うことを決定していただきました。スポーツの担当だけではなくて、いろんな部署の方々が一生懸命頑張った結果だと思いますけれども、非常に苫小牧としてもいろんな広がりや、可能性を感じるものであります。多分8月ぐらいに3週間ほどというふうになるんじゃないかなと思うんですけども、この駅周辺、あるいはそのサッカー場で実際の練習やりますので、その辺り、このグランパスの赤いフラッグでその期間を染めて、歓迎ムード作りたいなと思っております。

やっぱり苫小牧はトヨタ自動車北海道さん含め、愛知に関係のある企業さんたくさん進出いただいておりますので、愛知から来られている方もたくさんいらっしゃいますし、そういう何て言いますか、縁と言いますか、ストーリー性があるこのグランパスさんの合宿決定でございましたので、そういった意味で、経済、あるいはスポーツ、教育、いろんなことを、練習試合も見れると聞いておりますので、ぜひとも皆さんにも興味を持っていただければと思います。

はい。次、お願いします。

それから4点目でございますけれども、7月の30日にありました津波警報についてでございます。ずいぶん時間経ってしまったんですけども、ここに書いております通り、皆さんご承知の経過がございます。今回私があなたの街でミーティングに際しまして、ぜひこれを取り上げたいと思った理由は、今後の避難のあり方について、ぜひとも皆さんに、ご確認いただきたいところがあって、取り上げさせていただいております。それは、今皆さんのお住まいのうちの地盤高がどれぐらいかと、あるいは勤務されてる方であれば、お仕事されてる方であれば、お勤め先の地盤高がどれぐらいなのかというところを、まず、今一度把握いただきたいということであります。そして今回であれば、最大で3mの津波が来るんじゃないかと言われておりましたので、そういった予想される津波を踏まえて、どのように避難行動したらいいかという

のを今後考えていただきたいというふうに思っております。

と申しますのは、この当時、7月30日で非常に暑くて、今年暑い日が多かったですが、テレビ報道等で高いところに逃げろというふうに出たのを受けて、たくさんの方が車で山のほうに避難をしたということがありましたし、あるいは空調のない避難所に、高齢者の方が歩いて避難をされたということもありました。やっぱりそういった熱中症のリスクを抱えてまで、そこのご自宅から避難すべきかどうかだったかっていうところなんですよね。ご自身のご自宅が、地盤高がその津波よりも高いところあって、津波の恐れがないということであれば、その自宅でいらっしゃるということも立派な避難だと思います。実際私も避難所になったところ回らせていただきましたけれども、やっぱりその高齢者の方は特に、避難をせずとそこに座ってるだけでも、もう疲れちゃって、大変だと。寝そべりたいんだけど、簡易ベッドも十分がないというような避難所もありましたので、そういったことで考えますと、適切な避難ということで考えますと、やっぱり地盤高を把握して津波、予想されるものと踏まえてどういうふうに、どこに逃げるべきということも、今後に向けては、ぜひとも考えていただきたいというふうに思っております。

はい。次、お願いします。

次は、今日の報道で出ておりましたけれどもヒグマ対策でございます。これは、9月1日から、あまりにもクマが出るものですから、国のほうも制度を変えまして、市街地でも鉄砲を撃てるようにガイドラインを変えました。それを受けまして苫小牧市としては、現在ゾーニング、スライドの右側にありますけれども、このマップを作って、大体クマさんが出る場所はどの辺かと、あるいは我々が居住地としているのがどこかというのを踏まえて、ゾーニング計画を作ることに今なっておりますけれども、ここの作成中のマップを見ていただきますとわかるんですが、このピンク色のところがクマがよく出るところと置いていただければいいと思うんですが、大体我々住んでるところと多くかぶってるんですね。ですからここで、ゾーニングっていいいます。人間が住むところ、行動するところ、クマさんが行動するところを分けるっていうのが、なかなかどこまでできるかっていうのは、ちょっと現段階で難しいところはあるかと思えます。

今日もテレビでやっておりましたけれども、とにかく夜、あるいは早朝に、1人でクマが出るようなところは歩かないとか、クマになるべく遭遇しないようなことをまずは行動としてとっていただくことが大事だなと思っております。それからクマの特徴として、川に沿って移動するっていうことも聞いておりますので、そういった川が苫小牧たくさんありますけれども、市が管理しているような川に関しましては、草が生い茂るようなところがあれば、そういったものを切って、取り除いて、クマが見えなくなるような状況は作らないようにするというようなことも、我々がとれる1つの策かなと思っております。

それから皆さんにも改めてお願いしたいのは、ゴミなんですけれども、夜、ゴミを出すのはちょっと控えていただくとか、ゴミを捨てないということもそうなんです、そういったことも市民の皆さんと一緒にできることなんじゃないのかなと思っておりますので、クマ対策として、いろいろそういったところを気をつけていただければというふうに思っております。

はい。次、お願いします。

これ最後ですけれども、長らく苦小牧駅前再整備が検討されておりましたけれども、このたび事業者が選定されて、これから協定の締結を事業者と結んで、その先を約1年かけて、駅前の再整備をどうやっていくかという具体的な絵を、計画を作ることになっております。今のエガオビルが閉鎖されてあのような状況になってから、早10年が経つこととなりますので、私としては建物はまず解体をするというところは、そう時間を置かずに計画通りやっていけたらというふうに思っております。あとは市の財政状況によりますけれども、例えば子供さんを連れて、雨の日でも遊べる施設を駅前に設置したり、あるいは科学センター、今古くなっていますから、科学センターを駅前に移転してはどうか、こういったことも私の公約にも入れておりますので、そういった駅前が賑わうようなものをどれぐらいの規模でいくらかけてやるか、またいつやるか、そういったものを、これから事業者と検討を進めてまいりますので、そのあたりは皆さん、何かご要望があればどんどん市のほうにも上げていただきたいんですけれども、大体このようなスケジュール感で今考えているということだけは、ご理解をいただければというふうに思っております。私からのプレゼンは以上ですので、何かご意見ご質問ありましたら、忌憚のないご意見いただければと思っております。よろしくお願いします。

<市長プレゼンに関する意見交換>

○司会 それではただいま市長からプレゼンいただきましたが、プレゼンの6つのテーマに関して皆様からご意見ご質問、ご感想などいただければと思います。ご発言の際にはマイクをお持ちいたしますので、挙手をお願いしたいと思います。

◆市民 見山町東町内会の・・・といいます。今、日本ハムファイターズの2軍施設の誘致ということでお話あって、うちの町内会でも、誘致に対して署名活動も少しやったんですけれども、署名をやる段階で、果たして苦小牧に日本ハムファイターズの2軍が来るときに、どこが一番いいのか、またはそのアクセス、交通事情がどうなのか、苦小牧が他のまちに比べて鉄道とか、それから最近あのバスが、道南バスなくなるってことで交通の便が悪いなと思うんです。それで駅前再開発にも絡んでくるんですけども、苦小牧駅、この周辺をどういうふうに活用していくか。まずは札幌まで、千歳からの沿線の便を苦小牧のほうに持ってこなければ、いくらいいものがあったとしても駄目かな。それで中央インターができて、その近くもいいかなと思ったんですが、こ

ういう施設ってのはやっぱり駐車場が必要になると思いますんで、結構大きい土地が必要じゃないかなと思います。その辺をどのように考えて誘致するのか。

また他のまちでは、既存の日本ハムファイターズの都市まで行って視察してきたと。それから全国に数ある球団の2軍施設があると思うんですけども、こういうところを見て、どこが1番参考になるか、苫小牧だけで考えるんじゃなくて、苫小牧の誘致で1番いいなと思ったのは、近隣の各市町村が集まってやると、ここだけは他のまちに負けないなと。それから広域の力をうまく活用できればいいかなとは思いますが、場所的な問題がちょっと気になる。

◎市長 はい。ちょっとここから着座でお話させていただきます。まず大変いろんなことを考えていただきましてありがとうございます。今言われましたように、苫小牧市は他の誘致してるまちと違うところは、広域で取り組めるという強みがあるかと思いません。胆振日高で人口だけいくと、45万人弱ぐらいいるんですよ。ですからそこまで署名集まるかちょっとわかりませんが、今胆振も日高も、結構多くの自治体が協力してくれるような流れが出来つつありますので、それは本当におっしゃられる通り、力にして、ファイターズにも伝えてますけれども、していきたいと思ってます。

それから規模でいきますと、大体これ具体の、詳細は全然決まっておられませんけれども、必要なものとしては、球場が2つ、それから室内練習場が1つ、それに合わせてそのマンション、それと商業施設のようなものですね。こういったものを大体絵に書くと、10ヘクタールぐらいは必要じゃないかなって言うことを言われてますし、我々も考えております。そのぐらいの土地を先ほど申し上げた通り、交通アクセス、人の行き来がしやすい場所っていうと、本当に、・・・さんもお考えだと思いますけど、何か所かしかないと思うんですよ。駅前も苫小牧駅とか沼ノ端駅とか、いろいろありますけれども、西側についていう声も市民の方からあつたりしますから、そういうなんていうんでしょう。決め付けたりせずに、本当に真っ白い紙に絵を描くような気持ちで私は最初取り組んでいましたけども、大体そういう場所はある程度限られていると思います。先ほど言われました駐車場の確保も含めて、大体10ヘクタールぐらいは必要になってくるんじゃないかなと思います。

それからいろいろと、他球団の2軍施設なんかは実は木村副市長がこれから見に行くことになってます。町田副市長か、もう1人の副市長、今日来てない副市長がこれから視察に行くことになってますので、それはちゃんとどこかで、議会とかでも議論になるかと思えますけど、どっかでお披露目させていただくかもしれませんけれども、他球団の例を参考にやっぱりしたいと思っております。いろんな球団が今2軍施設を同じような形で、球場を作るだけじゃなくて、まちづくりみたいな感じでやっておりますので、そこはしっかり勉強させていただきたいと思ってます。

それで大事なものは、公共交通機関のお話もありましたが、バスも少なくなっているのも私も不便だと思っております。JRもどうなるかっていうのが、苫小牧駅から函館

に向かうところはまだ大丈夫なんですけど、これからの人口減とか考えますと、まだどうなるかっていうのも本当にわかんないかもしれません。逆に日ハムのような、人が集まるようなものを持ってこることで、今の札幌から新千歳空港に10分に1本快速エアポートが出てるのがおわかりのように、便が増える可能性もあるんじゃないかと思っておりますので、そういったことも広域で、胆振というくくりで考えても、廃線になっていってるJRもありますから、そういった逆に持ってこることでまた盛り返していけたらなというふうに考えております。

○司会 はい。それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 山手北光町内会、・・と言います。津波警報の件なんですけども、結局、私、後になって、線路より海側のほうが、市としてですか。避難指示っていう形で、何かそういう1回お知らせするような動きがあった。私は線路より山側の山手町に住んでまして、市からのそういう広報みたいな音声はなくて、とにかくテレビ情報が全てだったのでね、テレビ情報で津波警報ということで、アナウンサーが結構逃げてくださいっていう感じだったものですから、自分の身は自分で守るっていうのが基本だと思って、市が守ってくれるんじゃないかと、市はサポートしてくれるかもしれないけど、とにかく自分の身は自分で守らなきゃなんないっていう。

そういうことで、私は、これ言っちゃ駄目かもしれないけど、釧路の様子を見て、近くのアパート、高層アパートに行くかどうか判断しようと思って、準備だけはしてたんですけど、うちの家族は早々と9階10階の高層のほうに行ったわけですけど、結局難しさはそういう、線路より上のほうは、とにかくテレビの情報が全てだから、テレビの情報で全てを判断して、市のほうは市のほうで、市民をより安全にするようなお考えでいろいろサポートされてると思うんですけど、その辺がなかなか市一体のものにはなりづらいっていうのは1つの課題なのかなというふうには、ちょっと感想めいたことなんですけど、感想を持ってました。以上です。

◎市長 はい、ありがとうございます。私もあなたの街でミーティング回っていて、本当に災害が起きたときの行動に対する事前情報を、どこまで市が市民の皆さんにご理解いただけるかっていうのは、本当に課題があるなと思ってます。それぐらいまだ知られてないところもたくさんあるので、その方法をこれから考えていかなきゃいけないというふうには思っております。今日実は災害のプロと、クマさんのプロ2人来てますので、今日まず津波のほう前田室長から、災害のプロから補足あればお願いします。

◎危機管理室長 はい、どうもおぼんでございます。防災担当しております、危機管理室の前田と申します。今お話あった通り、津波というのは非常に対処が難しいお話もありまして、いろいろと今課題検証しているところではあります。津波の場合には、やはり皆さん独自の判断の中で、行動することも大事っていうところはあるんですけど、市のほうで津波警報と大津波警報という、津波に関する情報って大きく2つ、警報って

あるんですけども、警報と大津波のときの一応避難していただきたいエリアというものを、前もって区分をしておりました。昔各ご自宅の方にお配りをした、地区別のハザードマップというものを皆様お持ちでしょうかね。この裏面に、津波警報と大津波警報の避難のエリアというものを、分けたものをお示ししておりました。これ改めて周知すべきだということで、広報苦小牧10月号、この中でもこのマップを入れてお配りしておりますので、改めてこれをご覧いただいて、津波警報と大津波警報のエリアってこういうふうに区分になってるんだなってことをご理解いただいた上で、もしまた万が一こういった津波の情報があったときに、このことを思い浮かべながら、最善の行動をとっていただければというふうに思っております。ご指摘ありがとうございます。以上です。

○司会 それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 北光町町内会の・・・と申します。今市長のほうからもいろいろな計画を聞かされて、先がすごく明るいなど、楽しくなるなど思ったんですけど、これに対してのお金、もうあれを作ります、これも作ります、っていうんで、心配なのはお金があるのかっていうので、その辺の予算の取り方はどうでしょうか。

◎市長 はい、ありがとうございます。本当に一番大事なところだと思います。実は私が議員になった17年前は、岩倉市長が、前市長が市長になられたときとほぼタイミングが一緒で、財政健全化を岩倉市長、最初に取り組みされて、いろんな行革やりながら、健全化しました。基金もかなり、当時から比べると積み上げてきたおかげで、今いろんなことに取り組めてると思いますので、私もいろんなチャレンジをしながらも、次世代にちゃんとした形で財政を渡していくようなことは忘れちゃいけないというふうに思っております。

今、駅前再開発のお話6点目でさせていただきましたのと、あるいは例えば日本ハムファイターズの2軍施設の誘致も、市がどこまでお金を出すかということが非常に大きなポイントです。それから名古屋グランパスさんの誘致に関しても、これも何もなくて来ていただくのではなくて、芝の整備を、やっぱり彼らが使う、その要求に応じれるぐらいのものを整備しなきゃいけない、ということですから、あるいは総合体育館、今古くなってますのでその建て替えをする、本当にたくさんのお金が事業を行うには必要なんですが、今申し上げたような大きなものだけでも、大体これぐらい使うんじゃないかっていうのをある程度想定をして、やめるべきところはやめていく。

例えばときわのスケートセンター、古いところありますが、おそらく私ぐらいしか存続って言ってなかったと思うんですけど、それももう今年度いっぱいやめるということを最終的に決定いたしましたし、やっぱりそういうやめるべきところはやめて、ここには税金を注力していくというようなことは、やらなきゃいけませんから、今具体的に、例えば日ハムにしても駅前の再開発にしても何億、何十億ぐらい充てるかっていうのはまだ決めておりませんが、ある程度中身を詰めていく段階で見えて

きますので、そこは先ほど申し上げた通り、後世に、多大なる借金を残すようなことがないように、あるいは後世の人たちがちゃんとその後も、いろんなことができるようにはしていきたいと思っております。

○司会 それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 先ほど話した、見山町東町内会の・・・といいますけども、昨日、NHKの8時から鶴瓶の番組で苦小牧を特集したのが、先週と今週2回に分けて出てたんです。苦小牧のいいところが出てくるかなと思ったら、なかなか苦小牧らしいところは出てこなかったんですね。それで僕はちょっと苦小牧でしたら、何がいいところがあるのかなと思いつながり期待してたんですけども、昨日の番組では、バレーボールの女の方が子供の集まる所に行くってということで、おそらくあれは体育館の前のところありますよね。あそこに行って探したんじゃないかなと思うんです、ずっと歩いて。ただ子供の声が聞こえないなということで、ちょっと何か前回も、あれは拓勇東町の大きな公園で、子供の集まっているのを探したみたいなんですけども、ちょうど日曜とか土曜じゃないから、子供は少なかったのかもしれないんですけども、それが常時、子供が集まるようなまちであればいいなとは思いつながりいるんですけども。

苦小牧の計画では駅前通りをシルボルストリート、それから36号線から体育館のほうに行くところを、カルチャーストリートっていう名前を昔開発してきたと思うんです。それが今後ちょっと変わる、通りが変わっちゃうのかなって気もするんですけども、その辺の考え方、せつかくカルチャーという名前を、文化会館とか、それから青少年センターとか、あの辺を通るようにして、体育館のほうに行って、図書館のほうに繋がるようなラインを作ってるんですけども、あそこはなんかもつたいないなっていう感じがするんです。その辺もちょっと聞きたいなと思って。

◎副市長 どうもご質問ありがとうございます。今駅前の再整備を行い、そして今、市民文化ホールを来年3月、稼働します。今、元々駅から国道36号線まではシンボルストリートということで整備をし、それでは出光カルチャーパークに向けてのカルチャーストリート、そういう形で今、繋がりを持っているところです。私ども、駅前再整備に向けては、ウォークアブルなまちにしようということで、市民の皆さんがシンボルストリートからカルチャーパークまで、そういう歩いて楽しんでいただくまちにしようという思いで今進んでいます。ですから、これから駅前再整備をして、駅前と市民文化ホール、そして出光カルチャーパーク、そこまでのルートというのは、これからはしっかりと皆さんが歩いて楽しんでいただける、そういうまちづくりっていう、まちなかはしていきたいと思っておりますし、あとそういう点から線にするような、そういう政策をしっかりと作り上げていきたいと思っております。ハードの面はこれから作り上げていきますけども、そういうストリーートのストーリー性、そういったものを皆さんにしっかりと訴えかけながら、このまちづくりというものは進めていきたいと思っておりますけども、皆さんからも、いろんなお声ございましたら私たちに

届けていただいて、それをまた参考にさせていただきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

<意見交換>

○司会 それではここで、プレゼンテーションについての意見交換は終了させていただきたいと思ひます。ここからは特にテーマを決めずに、市のまちづくりについて市長との意見交換の時間となります。

昨年度まで、いただいた質問には、各課の担当者が答えさせていただくことが多かったんですけども、今年度からできる限り市長と皆様との対話をする機会を充実させたいということで、各課の担当者はほとんど出席しておりません。市長、副市長、それとここに並んで職員だけで参加させていただいております。そのため実務的なご質問については、ミーティング終了後に事務局のほうで内容や連絡先をお伺いして、後日各担当からご回答をさせていただきたいと思ひますので、ご了承ください。

なお、発言する際には最初にお住まいの町名とお名前を述べてから、お1人ずつ、1件ずつ、簡潔なご発言をお願いいたします。それではご意見などがございましたら、マイクをお持ちしますので、挙手をお願いいたします。

◆市民 山手北光町内会・・・といひます。要望の3ページですね、3ページに載せていたひてるんですけども、まず、今後ともご検討お願ひしたいというふうにいるんですけど公営住宅の共有部分、階段含めてですね、電気代の徴収を町内会でやってるんですけども、ぜひとも市のほうで集めるなり、あるいは住宅料に含めるなど工夫してですね、やっていただきたい。結局何年か前に、町内会は任意ですから、この共有部も含めた分、町内会費を集める中にいわゆる電気代も集めなきゃなんない。町内会費は会員だけなんですけど、電気代は全員の分を集めなきゃいけない。それで電気代集めんなら、町内会班長やりたくないってバタバタと辞めたときがあるんですよ。それでそっからもうこの要望を出してるんですけども、結局現在数名の、数件の生き残った班長さんっていうか、生き残った町内会の方がもう本当に毎年、2年に1回すごい頻度で毎回やってると、そういう人方もどんどん高齢化されていってですね、本当にままならない感じに高齢化しているという、そういう現状があつてですね。町内会費だけなら町内会の分だけ集めればいいわけですけど、結局全戸集めなきゃなんない。しかもなかなかすんなり払わない方もたまにおられるっていう、そういうこともあつてですね、本当に大変だつていうのはあるっていうことで何年か前から要望をさしていただいて、今後とも1つ、継続的な、システム上のいろいろ時間がかかるっていうことで重々承知しておりますが、検討し続けて進めていただきたいと思ひます。

◎副市長 はい。公営住宅のそういう管理のみならず、やっぱり町内活動自体も高齢化の波にのまれて、なかなか成り手もないとなつている、その活動自体があつてという話はあ

ちこちの町内会さんからもいろいろお聞きしております。それで今の話につきましては、回答書のほうにも書かれておりますけども、原課のほうでも徴収の実施方法、市による徴収の実施方法について、具体的な検討を進めているというところではあります。ただいろいろ整理しなきゃいけない部分は確かにございますので、もう少しお持ちいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○**司会** はい。それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。まだお時間ございますが。

◆**市民** 山手町内会の・・・と申します。別に質問するつもりなかったんですけど、何もないって言うから。あんまり手元に資料も何も持ってきてないんですけど、頭の中での記憶で話しますけれども、公営住宅ですね。山手町2丁目9番、10階建て、11階建て、それと5階建てのですね、耐震の関係で取り壊すっていうことになったんですね。それで取り壊すということは住民が全部そっから出ちゃってですね、今、山手町内会はですね、非常に人口というか、住民は減ってしまう。町内会の会合が減ってるってことですね。町内会自体、維持できるかどうか非常に厳しい、瀬戸際になってます。それで建て替えするという予定なんですけど、75棟だったかな、記憶では。それが2棟ですね、70棟、それを早くですね、やっていただきたい。それまで町内会何とか頑張ってるですね、維持存続していかなきゃならないんですけども、実際例えば新しく建っても入居、それだけ入ってくれるかどうか、それはまた別問題ですけど、いずれにしてもですね、今のままでは町内会もたないと、そういう状況になってますんで、早めにやっていただきたい、というのが要望です。以上です。

◎**副市長** はい。ありがとうございます。市営住宅に関しましても、やはり耐震化ですとか、老朽化に伴って今、段階的に計画を立てて、建て替えをしていっております。早くというお気持ちはもう私たちも重々、地域によってはわかるわけですけども、やはり財源的な部分も含めて、そういったところも考えながら計画的に進めておりますので、ちょっと山手のこの公住がいつ建て替えの計画になってるかって、申し訳ない、私も今資料は持ち合わせてないんですけども、とにかく計画に遅れがないように進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

○**司会** それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆**市民** 見山町の・・・と申しますが、太陽光パネルの設置なんですけど、東側がどうなるかって、あんまりあっち側行かないんで、最近は。よくわかってないけど、だからどんどんそういうのが増えてきて、苫小牧の景観っていうものがどんどん変わってきて、本当に自然を大切に、子供にこれを残していくとあって、何か言葉を使ってるけど、実際どうなのっていう。ニセコとかああいうような感じに苫小牧がなくなっていくんだろうとか。そういう何か不信感がすごくあって、国のほうからも早めに、土地を外人に売り渡してる、売り渡さないという問題とか、できないのであれば、もう苫小牧市はそういう市だぞって、もう、なんていうの、市の条例みたいなもので

何か決めたほうがいいんじゃないかっていう。釧路のほうでは市の条例とかを作ってやってるけど、そういうなんていうか、国政にもっとアプローチするのもそうだし、やらないんだったら、市としてこうだっかってアプローチをしないと、住んでるほうがすごい不安だと思うんだけど、どうでしょう。

◎市長 まずご意見ありがとうございます。釧路なんかも、この太陽光パネルの設置についての規制について、あのようなことが起きております。私も、環境に良いということで、太陽光パネルの設置が苫小牧市内、市街地でも、進んでいるところがありますが、これやっぱりちゃんとした形で環境を維持するという視点が抜けては駄目だと思っております。

今年の3月28日に、苫小牧市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例というのを、苫小牧市は設定しております。この内容でいきますと、ある程度市の責務であるとか、あるいは事業者の責務、こういったものが書かれておまして、あるいは土地所有者等の責務を書いておりますけれども、この再生可能エネルギーの発電事業および太陽光パネルの設置にあたっては、ある程度環境の保全に努めなければいけないと。これは市の責務としても、周辺関係者の理解を求めるような努力を怠ってはならないということを書いておりますので、今の段階で、このまず条例でしっかりと、こういった規制をし、規制といいますか、誰もが山を切り開いて、環境破壊をしてしまわないように、見ていかなければいけないと思っております。おそらく釧路なんかも、元々そういうものはあったんだと思いますけれども、現状あのようにはしっかり届け出をしないで、事業者がやってるというのを受けて動いてると思っておりますので、もう一步踏み込んでやるかどうかっていうのは、今様子を見ながら、ちょっと状況を見て、それは判断を検討していきたいと思っております。

○司会 それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。よろしいでしょうか。それでは、これで意見交換のほうを終了させていただきます。この後ミーティングは閉会となりますが、市長プレゼンのほうからもありましたけれども、日本ハムファイターズの2軍施設の誘致について、ご賛同いただける方がいらっしゃいましたら、ぜひ署名のほうご協力いただきたいと思いますので、お帰りの際には入口のところで署名いただければと思います。また担当からのご意見、ご質問などございましたら、お帰りの前にこちらの事務局席のほうにお立ち寄りください。内容とご連絡先をお伺いさせていただいて、後日、担当課から回答させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは以上をもちまして、あなたの街でミーティングを終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

令和7年度あなたの街でミーティング会議録

開催日 令和7年10月29日（水）
地 区 しらかば町・豊川町地区
会 場 豊川コミュニティーセンター

<市長プレゼン>

◎市長 改めまして皆さんこんばんは。苫小牧市長の金澤俊でございます。私も選挙終わって昨年12月に市長就任させていただきましたが、初めてお会いする方もいらっしゃると思いますので、これからしっかりと皆さんの生活向上のために頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

司会からもありましたように、前岩倉市長の時から地域に伺って、市民の皆さんの声を聞いて、意見交換等々させていただくこういった機会を、私もぜひしていただきたいと思ひまして。金曜日で最後のあなたの街でミーティングということでございますけれども、私もここの豊川町の隣の日新町に住んでいまして、顔見知りの方もたくさんいらっしゃるんですが、ぜひとも、忌憚のないご意見をいただければと思ひます。そしてまず6項目について、私から冒頭お話をさせていただきます、皆さんからもご意見等賜りたいなと思っております。

まず高齢者福祉についてでございます。私も選挙を通じまして、また市長就任後も、こどもどまんなか政策というものを打ち出しながら、ここまで進めてきております。そして今年1年間重点的に取り組む項目としても、こどもどまんなかアクションということで様々なことを、子供に関わるものを少しでも負担軽減等含めてやっていきたいと思っております。ただ、子供のことをやるんですが、どまんなかと言っておりますけれども、ど真ん中にいらっしゃる市民の皆さん全員そうです。子供のことをやるというのは、最終的に、苫小牧の将来を担っていく子供たちを育てるということになりますので、最終的には、高齢者の方はもちろん、障害を持っている方とか、そういう方々のためになる人材を育てるということに繋がるということも皆さんご承知だと思いますけども、そういう考えで私もさせていただいているというところでございます。

全体の予算でいきますと、1,250億円ぐらい苫小牧市予算あるんですが、そのうち高齢者の皆さんに関わる予算としては300億円ぐらい、子供たち、あるいは子育て関連予算が135億円ぐらいということをや頭のなかに入れていただければと思ひます。

高齢者の皆さんに関わるいろいろな事業というのはこれまでもやってきておまして、認知症カフェですね。認知症の方、あるいはその家族への支援、あるいはシルバリーハビリ体操、町内会に赴いて、シルリハ体操ということで指導をしていただきたいということもやっております。これは介護予防の取組です。

それから予防接種もいろいろございますけれども、今年度から高齢者の方に向けて带状疱疹ワクチンの助成事業というのをやっております。こういった形で、いろんな他にもあるんですけれども、高齢者の皆さんが元気に生き生きと毎日過ごせるようなことをこれからもやっていきたいなと思っております。

そういった子供との関わりなんですけれども、これはお互いに関わり、そして支え合っているところを改めてご理解いただければと思っております。スライドの左上ですけれども、高齢者の皆さんが収穫した農作物を子供食堂に提供していたり、あるいは高齢者の方のボランティアによって、子供の見守りというのは、こういう形で、スライドの右上ですけれどもしていただいたり、逆にこれは社会福祉協議会の取組ですけれども、スライドの左下の高校生が灯油を高層階に住んでいる高齢者のご自宅にお届けしたり、あるいは高校生がスマホの使い方を高齢者の方に教えてあげるような機会をもったりと、こういうのをお互いに、助け合ったり、支え合ったりしているというものかと思っております。

子供の声が聞こえる街というふうに書いておりますけれども、やはり未来ある子供たちを、温かい目で見守ってあげていただければと思っております。例でいきますと、子供たちが公園で遊んでいる声がうるさいというような苦情を聞くことがありますけれども、多少そういったことは受け止めてあげていただいて、ただもちろん、こういった暗くなってから夜遅くまで、大きい声を張り上げて遊んでいたりと、あるいは夏の時期に、花火を遅くまでやっていたりということがあれば、ぜひ皆さんから指導していただきたいなということで、子供の声が聞こえる街というのは未来ある子供たちを育てるということで、未来あるまちと思っておりますので、まず冒頭お話しさせていただきたいと思っております。

2点目ですけれども、北海道日本ハムファイターズ2軍施設の誘致についてでございます。7月7日に、日本ハムファイターズが正式に千葉の鎌ヶ谷から、北海道に2軍施設を移設するということを発表いたしました。

その後、7月28日に私のほうから、北海道日本ハムファイターズの施設の誘致にチャレンジをするということを定例記者会見で発表させていただいて、その後ここにありませんけれども、白老や鶴川から頑張ってくれということで、町長さんや経済界の方々をお願いの訪問に来ていただいて、その後9月25日ですけれども、日本ハムファイターズの2軍施設誘致をする会、いわゆる期成会が苫小牧商工会議所を中心に1市4町、苫小牧と白老、厚真、鶴川、安平、ここの経済界、あるいは観光、教育、スポーツ、37団体で組織していただきまして、皆様も書いていただいたかもしれませんが、誘致の署名運動を目下展開していただいているところでございます。会長の商工会議所の宮本会頭は10万筆集めたいと言っていますので、ぜひとも皆さんいろいろな施設、あるいはイベントでやっていますから、ぜひ署名を書いていただきたいなと思っております。簡単な話ではないと思っております。チャレンジを表明す

るときから思っておりますけれども、場所をしっかりと確保できるか、あるいはどこまでお金の負担ができるのか、こういったところがキーになるわけでございますけれども、なかなか細かいところまでここでは言えませんが、人の往来がしやすいところ、選手やお客様が往来しやすいところが候補になるということで、駅周辺はどうかとか、あるいは苫小牧東インターチェンジの辺りはどうかとか。何か所か検討はしておりますのでぜひとも皆さんからも、署名運動などを通じましてのご支援をお願いしたいと思っております。

もう1つ、プロスポーツ関連といたしまして、来年の8月になると思いますが、名古屋グランパス、Jリーグの名門サッカーチームが苫小牧で合宿をしていただけることに決定をいたしました。

これは非常に大きいと私は思っております、先ほどの日本ハムファイターズは2軍ですけれどもグランパスは1軍の選手も来て、おそらく3週間ぐらいにわたって合宿していただけることになると思います。場所は緑ヶ丘公園サッカー場になると思います。練習の様子ですとか、場合によっては、コンサドーレとか、あるいはこの周辺で他のサッカーチームが合宿などを決めていただければ、そういったチームとの練習試合ができますので、サッカーによる盛り上がりというのは、苫小牧でも大きな期待ができるかなと思っております。

決まった背景はいろいろあるんですけれども、そもそもトヨタ自動車北海道さん始め、愛知県にゆかりのある会社さんが苫小牧に多いということも1つありました。トヨタ系の会社さんには、名古屋グランパスが来るときに歓迎するムードを一緒に作ってほしいというお願いもしております。駅前とか、あるいはサッカー場に行く道に、名古屋グランパスの赤いフラッグが並ぶようなそんなイメージも私しておりますけれども、ぜひ皆さんも見学を含めて楽しんでいただけたらと思っております。地元の子供たちへのサッカー教室なんかもおそらくやっていたらいいんじゃないかというふうに思っております。

3点目でございますが、津波警報における避難情報と避難エリアということでございます。7月30日、もうだいぶ日が経ってしまいましたが、津波は50cmぐらいしか最終的には来なかったんですが、改めてあなたの街でミーティングで皆さんにお伝えしたいことがあって、このように取り上げさせていただいております。

経過としては、7月30日にあったものを皆さん思い出していただけたらと思っておりますけれども、苫小牧市としましては、津波警報が出てから36号線から南側の方々に避難指示を出させていただきました。テレビにも出ていましたけれども、とにかく高いところに避難しなきゃいけないということで市民の皆さんに行動していただいて、これは本当に正しい行動だったと思っております。

ただ、いろいろ振り返りますと、緑ヶ丘公園にたくさんの車が駐車して、またあるいは北に向かう道路や、いろんところで大渋滞が起きていたということも伺って

おりまして、皆さんにお伝えしたいのは、改めて皆さんのお住まいの地盤高はどれぐらいか、あるいは津波が来たときにそこが安全な場所かどうか、避難しなきゃいけないかどうかというのを、そのときにしっかりと把握した上で避難をするかどうかの判断をしていただきたいということです。

この日は非常に暑い日でしたので、例えば避難をした小学校、市内の小中学校は、樽前小学校以外はクーラーがついていません。高齢者の方が避難した先で、暑くて大変だったというようなお話も聞いております。避難したという行動は正しいんですが、熱中症のリスクなんかも考えて、あるいは北側に山なりに逃げる時に、大渋滞の中で苦勞するよりは、地盤高が高いところであれば、ご自宅にいるというの、立派な避難だったと思います。そういう検証を苫小牧市もしておりますけれども今後に向けましては、ぜひとも豊川町、しらかば町、日新町も含めてですけれども、どれぐらいの地盤高にいらっしゃるかというところをまずは把握をしていただきたいと、このように思っている次第でございます。

次に、ヒグマについてですけれども、本当に最近ヒグマあるいはツキノワグマが出たという全国的なニュースが絶えませんけれども、苫小牧でもいろいろと出没情報が寄せられております。今日担当来ておりますけれども、いろいろな情報をいただいて、それに対する対応に結構夜中も含めて追われております。

国のほうでは9月1日から法改正に基づいて、いわゆる市街地でも銃を撃てるというふうに変ったんですが、国から出されたガイドラインを参考に、苫小牧市ではゾーニング計画というものを策定中でございます。年内に素案策定を目指して取り組んでおります。どんなものかというスライドの右上に作成中のマップと書いておりますけれども、ここで色がついている中で、ピンク色のところがクマが出るところだと思っていただければと思いますが、皆さんが住んでいる居住地域とかぶるわけです。この中で、ゾーニング、ゾーンを分けるというんですけれども、人が住む場所、活動生活する場所、あるいはクマが通る場所、ここを分けようと思ってもなかなか難しいところがあるんじゃないかと思うんですけれども、そこを何とか、ゾーニング計画を作っております。

皆さんにぜひ協力していただきたいと思っておりますのは、できることをやろうということになりますと、とにかくごみを捨てないということです。ごみステーションにごみを出すのも、夜ではなくて日中です。翌日燃えるごみの日で、前日の夜にごみを出される方もいると思うんですが、そういうものを控えていただくとか、あるいはクマは川に沿って移動するというふうに言われておりますので、なるべく夜中とか早朝にウォーキングしたい方もいらっしゃると思いますけれども、そういう場所には近づかないようにしていただくと。あるいは我々のできることとしては、苫小牧市には川が多いので茂みを取ってクマが見えやすくするようなこともできることかなと思っております。何か出没の情報があつてクマの恐れがあるということであれば、学校

と連携しながら注意を促す、あるいは登校を学校の判断で見送るというようなこともあろうかと思えますけれども、とにかくクマに会わない、そういった努力をしていただく、対応していただくということがまず皆さんにお願いできることかなというふうに思っております。

そして次に駅前再整備でございます。実は昨日、事業者さん、清水建設さんを含む企業体と事業者との協定を結びまして、今年1年かけてどのような駅前再整備をやるのかというのを具体的に計画として作る作業に入っております。これもいくらかでもお金かけられるわけでもありませんが、私も公約に入れさせていただきまされたけれども、子供たちが雨の日でも、家族と来て駅前で過ごせるような空間をつくることとか、あるいは科学センターが老朽化していますので、科学センターを駅前に移設してはどうかとか、とにかく賑わいをつくるようなことを考えて計画を具体化していきたいというふうに思って、計画を作ることを進めていきたいと思っております。

あとはエガオのビルです。これが閉鎖からはや10年、私の一番上の子供が17歳ですけれども、物心ついた頃には、あのような状態になっているということです。今の子供たちにも早く、駅前が明るくなった風景を見せてあげたいなと思っておりますので、できれば建物の解体だけは急いで進めたいなというふうに思っておりますけれども、まずはこういったスケジュール感で進んでいくということでご理解をいただきたいと思えます。

私からのプレゼンは以上ですけれども、先ほど言いましたけれども、クマ対策の担当と災害関係の担当が来ておりますのでそういったものに対してのご質問、ご意見ございましたら、良い機会ですので、忌憚のないものをいただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

<市長プレゼンに関する意見交換>

○司会 それでは、ただいま市長プレゼンいただきましたけれども、プレゼンを聞いて、1番から6番に関連して、皆様からご意見やご質問、またご感想のようなものでも構いませんので、ぜひご発言いただきたいと思えます。

発言される際にはマイクをお持ちいたしますので、挙手をお願いしたいと思います。

◆市民 宮の森の・・・といいます。個人的に要望をいくつか出したんですが、ちょうど今日の市長プレゼンに関わって2つ3つ入っていたので、こうやってお話ししたいんですが、今回の津波で避難ということであちの町内にもかなりの車が入ってきていて、町内会長を始めとして、役員の人たちが、その対応をして、店舗さんなんかとも連絡取りながら、避難の車の整理対応に追われたっていうことがあるんですね。ただ前から僕ずっと言っているんですけど、何年前だろう、十数年前からこのミーティングに参加してから苦小牧の特徴である噴火だとか津波だとか。当時は大きな災害に対

してどう避難するかっていう点ではマップは作られるんだけど、どう対応して避難するかっていうのは、全くわからない状況なんですよ。

例えば市民だからといって必ず自分の町内にいつもいるわけでない。他の町内に移動して何かをやっている場合もある。そしたらどこへ避難するかっていうときに、避難経路が明確にならない。やっぱり表示が必要ですよね。観光地なんかでもやっていますよね。外国の観光客が逃げられるようにとかってやっていますけど、外国人だけに限らず、市内の市民、外の市町村から市内に入ってくる人たち、仕事で来る人たちも、いざという時には逃げるっていうのがやっぱり最低限必要なこと。

それからやっぱり逃げる場所について、僕は2年前かな、岩倉市長さんですよ。皮肉めいた物を言って、いやそんなことないって言って岩倉市長さんも苦笑いしていましたけども、山から海まで2km くらいしかないところで、途中で線路があつてね。大きな避難経路は全部絶たれるんですよ。横に移動する場合も、川があつて、そしてそこをどう渡っていくかっていうのは非常に避難しにくいまちなんです。十数年前から、やっぱりもっと具体的に避難をどうするか、そういう道路が混むだとかっていう問題だつて警察署も対応しなきゃならない問題なんですけどね。やっていかなきゃならないんじゃないかっていう意見出したんだけど、やっぱり十数年たつてもそこが見えない。これは考えていかなきゃならないことだと思います。

去年から言っているんですけども、やっぱり災害対応の専門部門の、職員がこう変わっていくじゃなくて専門家だとかそういう人たちを配置して、災害にどう対応するかっていう。今回のクマの対策も、そういう意味では入ると思います。そういう市としての対応をもっとやっていかないともう駄目な時期じゃないかなというふうに思います。これは私のあくまで個人的な意見ですけどね。

それから線路をどう渡るかっていう。多分列車も止まっていたと思うんですよ。そしたら列車も止まったら線路を歩いて渡ることも可能なわけですよ。そうするとJR との連携だとか、そういうことも含めて、やっぱりもっと詰める必要がある。それから、海側の人は特に、こっちのほうもそうですけど高い建物がないんですよ。避難できる場所をどうするか、避難場所をやっぱり積極的に何か所か作るっていうね、対策をとっていかないと、多くの市民の命を守ることはなかなか繋がらないっていうふうに思っています。以上です。

◎市長 まずご意見ありがとうございます。先日、念法寺で行事があつて伺いましたら避難した方がたくさんいて、対応されたという話を伺っていたところでございます。やっぱりあなたの街でミーティングをここまでやってきておりますが、意見が多いのは先ほど言われたような災害発生時の対応について、市民の皆さんになかなか理解がまだ行き届いてないということを感じておりますので、どのように情報提供を行っていくか、あるいは災害発生したときの情報の伝え方も、外にあるスピーカー全然聞こえないっていうこともよく言われておりますので、それ以外の方法によって、どう

伝えていくかっていうことは課題だと思います。

今回の災害、津波避難の指示によって、災害は発生してなかったわけですが、避難していただいたことでいろんなことが見えてきていますので、市のほうでまとめて、今後の課題として、議会にも提示することにはなっておりますので、その辺りは、しっかり整理して知見として積み重ねていき、今後に生かしたいと思っております。

先ほど申し上げましたけれども災害のプロが今日来ているんですが、東日本大震災の後から11年、ずっと災害対応をやっていますので、先ほど言われたようなご意見をいろいろお答えできると思いますので、前田のほうからお願いします。

◎**危機管理室長** 防災を担当しております、危機管理室の前田と申します。市長からありました通り、今回のカムチャツカ半島地震の関係では本当に地域の方々のご支援をいただきましてありがとうございます。そういった中でいろいろと課題が出てきていますので、検証しているところであります。そうした中で・・・さんからお話があった中の海拔表示ですとか、そういったお話をいただいておりますけれども、私どもが取り組んでいる内容といいますのは、そういった表示をする、誘導するような看板を作っていくってところも大事ではあるんですけども、様々な災害の種類もありますので、地域の災害リスクがどんなものか、その上でどのような避難行動がいいかということで、地域のほうに入って訓練ですとか講座をさせていただいております。できましたら地域の方々に、そして避難者になっていただきたいというような取組をさせていただいております。いろんな手法はあるかと思いますが、そのような対応させていただいております。

それからもう1点、津波避難の高い場所が必要ではないかというお話もございました。そこもまずは、私どもとしては今ある高い建物を活用して、何とか避難できる体制を作っていこうということで取り組んでいることが1点です。その上で、どうしてもそういった建物がない地域、勇払ですとか錦西、ときわ地区ありますので、そこについては何とかそういった施設を作れないかということで検討を進めております。いろいろ課題がある中で、すぐに解決できない部分ありますけれども、そのような取組みをさせていただいております。以上です。

○**司会** それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆**市民** しらかば西町内会の・・・といいます。今の津波に関することなんですが、当日、私は町内会館にいたんですよ。市の防災ラインで津波警報の話はわかりました。すぐ副会長あたりに連絡して対応を取りました。会館に避難した人は徒歩で学校まで行けないという方が数名いました。落ち着いてから、私が学校のほうに様子を見に行っただけです。教室をのぞいてびっくりしたのが暑さです。ほとんどの部屋が30℃近い部屋ですから、私は皆さんに熱中症にならないように水分補給をしっかりとってくださいということを、ほぼ各教室を回りまして声を掛けました。ここで一つお願いしたい

のは、学校にエアコンを取り付ける話が決まっていると思うんですよ。これは市のほうではなくて教育委員会のほうになると思うんです。なるべく早く、全教室は無理かもしれませんが、少しでも避難者に対する配慮、これを考えていただきたいなと思います。以上です。

◎市長 はい、ご意見ありがとうございます。学校ですけれども、まさに私も避難所になった学校9か所まわらせていただきましたが、私が行ったのは、ある程度避難所が開設されてからですが、夕方6時ぐらいからでした。私が行ったときも暑かったんですけど、日中はもっと暑かったんだろうと思います。学校にエアコンつけるということになっているというお話でしたが検討中です。財源あつてのものでありますので、できるだけ早く、どのようにつけていくかっていうことを検討しているところでございます。やっぱり避難所としての機能を考えたときにも、空調というのは考えなきゃいけないので、そこはこれからになります。先ほど申し上げた通り、そういった学校に避難できても、そこも暑いのでやっぱり熱中症のリスクというものがありますから、扇風機を回すなりなんなり対応できたとしても、それよりはご自宅にいたほうがいいんじゃないかというような判断もできるかもしれませんので、そのあたりは地盤高の把握を含めて、改めてしていただきたいなというふうに思っております。地域で対応いただいた中で、しらかば町内会の日新町内会の皆さんに大変ご不便をおかけしたとは思いますが、学校の問題も含め、検討していきたいなと思っております。

○司会 それでは先ほど手を挙げられていた方。

◆市民 豊川町に住んでいる・・・です。4丁目公園は避難所になっていますよね。あそこに逃げてきても、トイレがない。それと夜は街灯が暗いっていう人がいるんだよね。規格通りのものをつけてくれていると思うんだけど、どうなんでしょうか。

◎市長 前田のほうから答えます。

◎危機管理室長 公園のお話ですけれども、ご説明しますと、公園については、避難場所ということで災害から難を逃れるため広いスペースという形にしております。

ですから、今回の津波でしたら浸水区域外の公園はよろしいかと思うんですけどもできれば高い建物ということで、学校ですとかいうところ目指していただければありがたいなというふうに思っています。

◆市民 4丁目はマップを見ると、水がつかない。事実、私の・・・は桜木に住んでいますが、私の家に逃げてきました。だから、水がつかないってことはわかっている。避難をするために公園へ来たら、トイレがないっていうのは不自由じゃないかという。

◎危機管理室長 はい。わかりました。トイレの問題と街灯ですよ、暗いというものにつきましては、申し上げた通り、緊急的な避難場所になっていることは事実ですので状況を確認して、何かできることがないか、内部でお話をさせていただければというふうに思います。

○司会 それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆**市民** 有珠の沢町の・・・です。一昨年からこれに参加させてもらっていますけど、毎年同じことを言っています。回答にも書いてありますけど、年1回草刈りしていると、伐採しているというような状況も含めて書いてありますけど、道路の縁、川の両側の草刈りがあってそれはわかります。私ここに30何年住んでいますけど、川の樹木、大木は1回もあそこを整理してないんだよ。伸びっぱなし。あれではクマが来ようがシカが来ようが。先日クマが迷子になってはまっていますけど、あれでは防災にならないじゃないですか。川底を上げるなりして流れを良くしてあげないと、有珠の沢川が詰まって溢れてくる。当然、下のほうは完全に浸かっていますよね。いつも大雨降るとパークゴルフ場がありますけど、私もあそこたまに使いますが、ほぼ雨降ると使えない。それが当たり前。危機管理的にこれからやっていくのかっていう市の構想、いつまでに何をやるっていうのが全然見えないんですよ。川は北海道の管理だから、北海道に言うのは言ったかもしれない。いつ北海道が対応してくれる。大木はどこまで育てば危険とを感じるんです。今は大丈夫のような感じで書いてあるんですけど、全然何か危機管理がなっていないの、住んでいる人間からして。シカもひどい市内のケンタッキーの辺りも、緑ヶ丘もそうですけれども、シカ牧場になっているじゃないですか。シカ公園ですか苦小牧って。あれだけ誰でも目に入っていると思うんだけど、駆除はもう何百頭とやっているっていうことはたまに目にしますが、それでも追いつかないんだから、クマも多い気がする。

私たちの生活の安心感を得るために、市としては、どういう対策をしているのか。具体策や何か案的な将来的にこうするんだ。そういうものが全く見えない。個人的な感想を言わせてもらいますが、もう少ししっかりとチームを組むなりなんなりして前向きに何か市民が理解できる、安心できるような回答をいただきたいなというふうに思います。以上です。

◎**副市長** 副市長の木村でございます。今のは2番目の回答ということですね。・・・さんがおっしゃったように、あそこ北海道の管轄という河川ではありますけども、私どももそういう市民の方からのご意見をもとに、北海道とは少し協議を重ねているところであります。どこまでどうすればいいのかっていうところはあろうかと思えますけども、こうしたご意見も当然ございますので、またクマの問題もでてきて、やはり川の草刈りという重要性もまた改めて私たちも感じておりますので、引き続きこういったご意見につきましては北海道と協議をさせていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

◆**市民** 当然基準があると思うんですが、基準を明確に出していただきたいです。

◎**副市長** その辺も北海道のほうにお聞きしながら、北海道としてもいろんな河川を持っておりますので、そういったところで一定程度の線引きをした中での回収伐採、草刈りというのはされていると思えますので、その辺も今一度確認をさせていただきたいと思えます。

◆**市民** あと1つ。提案ですけど許可があれば、市が認めていただけるなら、川の草刈りとかボランティアでやれると思うんですよね。僕もやってもいいなと思っています。町内会でも、隣の木がかぶっているときにはやっています。やっぱそういうところは自分なりにやれる範囲で伐採したい。声掛けして集めればシルバーじゃなくてもそういうことをできる人、やれる人もたくさんいると思うのでそういうのも一つの手かなと。川に入っていいたったら切りますよ。上げるのがちょっと大変ですけど。

◎**副市長** ご提案をありがとうございます。基本的にはやっぱり北海道のほうでしっかりと安全対策を施しながら、伐採していくということになりますけども、手法として、いろんな手法があるのであれば、私どももその辺は北海道にも探してみたいと思います。

<意見交換>

○**司会** それではプレゼンに関する意見交換は終了させていただきたいと思います。ここから特にテーマを決めずに市のまちづくりについて、市長との意見交換の時間となります。

昨年度まで、いただいた要望に対する回答については、主に各課の担当者からご回答させていただくことが多かったんですけども、今年度からできる限り、市長と皆様との対話をする機会を充実させたいということから、各課の担当者はほとんど出席しておりません。市長副市長そしてこちらにいる事務局の職員のみで参加させていただいております。そのため実務的なご質問については、ミーティング終了後に事務局のほうで内容やご連絡先をお伺いしますので、後日各担当から回答させていただきたいと思いますので、ご了承ください。なお、発言する際には、最初にお住まいの町名とお名前を述べてから、お1人1件ずつ簡潔なご発言をお願いいたします。

それでは、ご意見などがございましたら、マイクをお持ちしますので、挙手をお願いいたします。

◆**市民** 豊川町の・・・と申します。数年前のミーティングに参加させていただきました。要望させていただきます。すぐそこですが、ドラッグストアのある交差点に信号をつけてほしいというご要望させていただいて、当時コミセンの改修工事で利用者も増えるだろうっていうようなこともご提案しました。

今はファーストフードの店ができるとして、交通量が相当増えたので。まして日中の時間ですと、南北の往来ってまずできない。押しボタン信号ですが、交通量の関係で厳しいです。右折車線のない道路は非常に対向車との事故の可能性が高いということから、今後の交通量等も考えた上で、できれば四つ角信号をつけていただきたいというのが要望です。

◎**司会** それではただいまの要望、信号に関する事ということで市の市民生活課の担当になっております。今のお話については事務局のほうから市民生活課のほうに伝え

させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。

- ◆**市民** しらかば西町内会の・・・です。先ほど有珠の沢川の話がまずありましたけれど、苫小牧川の36号線の上流側に中州みたくなって、そこに木が生えている。昨今の雨の降り方を見ると、集中的に降るとというのが結構来ていると思うんですよ。たまたま苫小牧にそういう集中豪雨、氾濫するようなことはないと思うんですけれど、中洲があることによって、上流から流れてきた木、これがダムみたいな形になって、洪水を招くんじゃないかな。これは市の管轄ではないと思うんで、そちらのほうの確認を一つよろしく願いしたいと。

続けてもう1点いいですか。うちの近くに小泉の沢川があるんですが、ちょうど毒蛾が発生する時期に、イタドリが生い茂っているということで、かなり毒蛾にやられているんですよ。その草刈りは10月の末とか枯れる頃にやっている。一番みんなが必要なのは、毒蛾にやられる前に草刈りをやってくれないと意味がないんじゃないかなと思うんで、これに対する回答もできればお願いしたいなと思っております。以上です。

- ◎**市長** はい。ご意見ありがとうございます。川については・・・さん言われました通り、北海道の管理になりますのでこれは、確認したいと思います。

それと毒蛾対策、今年も結構出ていましたので、草刈りのタイミングっていうのは本当に何かに合わせてやるっていうことで考えますと、頻繁にやれるわけではないので、その辺りもできるだけ効率的にできたらとは思っていますので、いただいたご意見、担当と話をしたいと思います。ありがとうございます。

- 司会** はい。それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。

- ◆**市民** すいません宮の森の・・・です。先ほどのヒグマ対策、今日質問したいなと思っていたんですけども、先ほど市長さんのほうからも、対応はこれから取っていくということだったんですが、例えば宮の森なんかヒューム管通りなんかはね。頻繁に使うと思うんですけども暗いんですよ。あそこの道路できたときに街路灯は立っているんですが、やっぱり距離が相当お互いにあるということで、やっぱり夜は相当暗い。

それから2、3年前だったですかね。日新町とヒューム管通りの近くにクマが出て、そのときにも車で通ってこれはやられるなと思ったのがごみ箱です。先ほど市長さんも言われたように決まった時間にごみを出してほしいと。ただ昨今のニュース見ていると、日中も構わず出てきますから、たまたまこの辺が出てないだけで、そうなってくるとごみ箱も各町内会でそれぞれ対応しているわけですけども、熊に壊されないような頑丈なものを取りあえず置くとなると、やっぱり町内会任せで大変だと思うんです。やっぱり市のほうの予算の関係もあると思うんですけどね。例えば頑丈なごみ箱をやっぱり助成して作ってもらうだとか、作るだとか。ということも考えて、少なくとも山沿いのね、町内会が安心できる体制、もちろんクマを出さないのが一番

いいんでしょうけども、クマの嗅覚は人間の比にならない嗅覚だって言っていますから、対応は難しいのかもしれないけど、少なくとも山側のごみ箱はそういう対応ができないのかなっていうふうに思うんですよ。宮の森は幸いにして戸別回収になっているんです。夜にごみを出すことはほとんどないとは思いますが、それでもあそこは元々クマが出るってところですから、両脇を川に挟まれてね。クマが出てくる。僕なんか宮の森は入口に出てくるんじゃないかと。川沿いに来てというふうに思っているくらいなので、ぜひその辺の対応なんかもお願いできればなというのが1つ。

もう1つは、駅前の再整備で前から思っているんですけども、僕は函館出身なんですけど、最近函館市の観光の一番メインのところはすごく暗いんですよ。僕たちがいた頃から比べると、あそこの函館の状況というのは住宅地がすごく小さいんです。ですから、車があつて家を建ててっていう状況が難しいところなんです。そうなるくと、人を集めるとか、駅前に人を集めるとかってなると、地主の人の土地の提供をお願いしてね、区画整理をするとか。そして道路の区画整理をして新たに作り直すくらいまで考えて開発しないとイケない。ただ「協力してください。」と言うだけじゃ駄目だから、協力してもらおう地主さんにはそれなりの、対価がないと駄目だとは思っています。そういう思い切ったことをやって、そこに人が集まるやっぱり物を作らないと、駅前再開発って難しいんじゃないのかな、というのがずっと感じているところです。そういうことも含めて、考えられているのか、ただ単に今の地割の中で考えているのかっていうあたりをお伺いしたいなと。

◎副市長 私から駅前の再開発の件です。あそこは昔バスターミナルの立体駐車場があったところから駅に平行にサンプラザがあり、サンプラザに隣接している2層式の駐車場、あそこまでを一体的に整備をするという計画でおります。ここについてはサンプラザも含めて、地権者との合意は既に得ております。

昨今課題となっているのは、果たしてどういった機能をそこに貼り付けて、市民が多く集えるような施設にしていこうかというところで、いろんな検討が進められております。苫小牧駅もJR北海道さんとの協定も終えて、駅も含めた一体的な整備というところまではいっておりますので、今のところ、・・・さんがおっしゃっているような、地権者とこれからどうするかっていう状況ではありませんので、それはしっかりと、あとはお金の問題ではありますけども、そこも踏まえて、しっかりと検討していきたいというふうに思っております。

◎市長 私のほうからヒグマの関係です。先ほど申し上げた通り、ごみの問題ってというのが1つ基本対策としては取りうるかなと思っております。確かに数年前には桜坂を下りたところで、クマを目撃されたという情報ありましたから、あの辺りも、気をつけなきゃいけないと思います。暗くなったら基本的には外出しないと、特にこういったクマが出ているような状態のときは、これが一番の対策じゃないかと思えます。私も

家があこの辺なので「早朝ウォーキングするな。」と、妻から言われていますのでしないようにしています。夜も子供たちもあんまり歩かないとか、特にあそこの辺の学校帰っていますから、「夕方とかも気をつけなさい。」っていうことを言っていますし、そのように自己防衛していくことがまず大事だと思うんですが、ごみ箱の設置等につきまして、せっかくクマ対策のプロが来ていますから、武田のほうからお願いします。

◎**環境衛生部次長** ただいまご紹介がありました環境衛生部でクマ、シカを担当しております。どうぞよろしくお願ひいたします。・・・様からのご提案がありましたクマ対策としてのごみ箱のお話でございます。

先ほど・・・さんからもお話あったんですが、クマという動物は嗅覚、匂いを感じる能力が非常に発達しておりまして、人が感じることのできないような食べ物ですとか、あるいは動物の死骸の匂いを嗅ぎ付けて、数キロ先からそこにやってくると言われております。頑丈なごみ箱っていうのも、例えばキャンプサイトなどの、クマが生息する場所にあるアウトドアの場所なんかでは、もう既に導入されている実績なんかはありますが、ただやはり究極的には、クマを寄せ付けないということが、安全のためには第一かと考えております。頑丈なごみ箱っていうのも一つの手段かと思ひますが、まずはごみの適正な排出、基本的にはごみの収集直前にお出しいただくというところをゼロごみ推進課から発信しておりますので、ここは本当に皆様にご協力をお願いする形になりますが、まずはごみ出し等、あるいは不法投棄、クマが好むような食べ物、空き箱や空き袋、こういうものも郊外に落ちていまして、私も先月植苗方面でクマの対応をしたときに、うちのスタッフが空き缶にクマの牙が刺さった跡のついたものを拾ってきて、牙の大きさや深さが間違いなくクマだというふうに判断したんですが、そうした悪いクマを生まないためにも、日頃からごみの適正排出や不法投棄の防止にもご協力いただければと思ひます。いただいた頑丈なごみ箱の意見については少し情報収集を進めてまいりたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○**司会** はい。マイクをお持ちします。

◆**市民** しらかば中央町内会の・・・と申します。今回、町内会のほうからは要望受けていませんけれども昨今話していると、糸井循環道路、バイパスから南側になりますね、道路の損傷、痛みが非常に多くなっていまして、冬場になると、路面より10センチぐらいしばれ上がるんです。そしてアスファルトが痛むと、そしてそこにたくさんアスファルトを入れていくってことで、非常に道路の脇にもアスファルトが溜まっちゃうっていう状況になっていて、桜坂線のバスができてから、しらかば5丁目の床屋さんのところでは、その先のところで一部切り取って引っ込めていますけども、結構車で走っていても相当ジャンプするんです。私もその道路の脇に住んでいるんですけども、朝方になるとトラックが結構来ているようでして、地震のように揺れるん

です。担当の方にお話したら、この道路は相当お金がかかるから、もっと偉い人の前で言ってくださいって話もありましたので今日来ているんですけども、相当痛んでいます。もちろん南側に行くほうも西側に向かうほうも道路が痛んでいます、結構しんどかったりするっていうんです。ですから修繕計画がどうなっているかっていうことで、もし計画があるんでしたら、早めをお願いしたいなっていうことです。

もう1つは私は国鉄北海道にいたんですけども、国鉄北海道にはいないっていうことで、28年間JR東日本に行きました。埼玉県戸田市に住んでいました。埼玉県戸田市にはヤクルトの野球の2軍と陸上部の合宿場があるんです。河川敷の中には、球場とトラックを持っているんです。そして、戸田市から100m離れたところにロッテの練習場があるんです。戸田市の2軍施設は実に寂しいところです。北広島市をイメージして誘致するんでしたら、私はいいと思うんです。結構ヤクルトのファンもいますから、荒川の河川敷の堤防、そこでみんなで腰掛けて、そして見ているだけなんです。そしたら若い女の子なんかはヤクルトのところに行きますし。

私はソフトボールをやっていたから、ドームの中に戸田市のソフトボール球場は全部で6面あるんです。それぐらいかつては盛んに市内で7チームくらいありましたから、しょっちゅう行ってやっていたけども寂しかったです。その横で練習やっているわけですから、私どももあんまり期待されてというか。何を求めて誘致するのかっていうところ、私としてはピンとこないんです。今まで要望してないこと、そして余計なこと言うようですけども、そのところをお伺いしたいなと思って質問しました。

◎市長 はい、ありがとうございます。日ハムの2軍施設誘致についての説明スライドを出していただけますか。新聞報道でも出ていますのでご覧になった方も多いと思うんですが、右上のスライドに載せています。確かに千葉の鎌ヶ谷にある日ハムの2軍のスタジアムも、本当に駅から離れていて、田舎のところにスタジアムしかないという状態ですので、日ハム以外の他球団も、2軍の施設を新たに作っていつていますが、そういった昔のスタジアムだけのものではなくて。日ハムもそうですがスタジアムが2つぐらい、室内練習場が1つ。そしてさらに、見づらいんですけども、商業施設と、あとマンションなんかも建っていて1つの街みたいなものを作るというのを日ハムさんがイメージしています。

ですから、できれば駅前の再開発なんかの話もありますので、そういったものと絡めた中で何かできたらなというものも、私の考えとしてはあります。ただ、お金とか場所とかいろいろ問題があるので、そうなるかどうかはわかりませんが、スタジアムだけではなくて、そういった街を1つ作るようなビジョンがあるので、市民の皆さんからのやってくれという声も非常に多くて、私は7月28日にチャレンジを表明させていただきました。そうすると、そこに人の往来ができますし、白老や鶴川さんが、苫小牧市に頑張ってくれて言っているのは、そういったことにチャレンジをして

もらって広域で賑わいを作ってほしいと。経済的なものとかスポーツの振興ですとか、あるいは場合によっては JR がこれからもっと便数が減っていくんじゃないかっていう懸念を郡部では持っていますので、そういったことで、苫小牧にできることで、西側、もっと言うと西胆振の室蘭ですとか登別とか。ああいったところからの人が、伊達もそうですけど、そういったところから人の往来ができることで、もっと JR の便が増える、あるいは維持できるっていう、そういった効果も見込めるんじゃないかとか、こういう複合的な見込みが期待されるものがあるんです。ですからそういったところから、これはチャレンジしたほうがいいんじゃないかということで表明させていただいております。どうもご意見ありがとうございます。ぜひ何かいろいろ聞かせていただきたいと思います。

◎副市長 それでは私からは市道、糸井循環道路の状況についてであります。担当のほうで日々パトロールしながら、道路の状況を確認し、そしてやっぱり必要性、優先順位に基づいて補修は随時しています。担当のほうには、場所も含めて話をされているっていうことですか。

◆市民 担当のほうには個人的に話しているだけで町内会の意見ということでは言っていないですね。私の家の前の道路のことですから。

◎副市長 町内会の意見でなくても結構です。

◆市民 町内会の役員会で、あそこの道路はすごい跳ねて危ないっていう話は出ていますが、その程度で正式に町内会の議題にはまだなってないです。

◎副市長 あとは偉い人に言えということですね。終わってからで結構ですので、再度場所を確認させていただいて、担当のほうでも話が個人的にでも来ているのであれば、担当のほうとお話をさせていただいて状況も確認をしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○司会 それではお時間となりましたので、意見交換については終了させていただきたいと思います。この後、ミーティングは閉会となりますが、市長からお話ありました通り、日本ハムファイターズの 2 軍施設の誘致について、ご賛同いただける方がいらっしゃいましたら、今日署名用紙持ってきておりますのでぜひお帰りの前に署名いただけたらと思っております。よろしくお願ひいたします。またその他、担当課へご意見ご要望ございましたら、こちらの事務局席のほうにお立ち寄りいただきまして、内容、連絡先確認させていただいて、後日担当から連絡させていただきたいと思っております。それでは以上をもちまして、あなたの街でミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

令和7年度あなたの街でミーティング会議録

開催日 令和7年10月31日（金）

地 区 大成町・光洋町地区

会 場 日吉総合福祉会館

<市長プレゼン>

◎市長 皆さん改めまして、こんばんは。大成町光洋町地区の皆様の、あなたの街でミーティングということで早速始めさせていただきたいと思いますが、私も昨年12月に苦小牧市長に就任しましてから、前岩倉市長が行っていたこの地域地域で市民の皆さんの声を聞くということ、今、司会からありましたように、形を変えて少し工夫しながら、ぜひともこういった機会はなくさずに、続けさせていただきたいということでやってまいりました。実は今日で今年度最後のあなたの街でミーティングということで、大成町光洋町の皆さんの声を聞いて、まずひと区切りというところがございますが、今ありましたように、まず私のほうから6つのテーマについてお話をさせていただきたいと思います。

まず、高齢者福祉でございますが、私も選挙を通じまして将来ある子供たちのことを、もうちょっとしっかりやっていきたいという思いで、こどもどまんなか政策を訴えております。今年度は市長就任1年目ということで、このこどもどまんなか政策を具体的に進めるこどもどまんなかアクションをやっておりますが、それで、実は子供のことをやるんですけれども、やはり将来的にこのまちを支えていく人材というふうな捉え方。やっぱり私もいずれ引退をしていきますので、その高齢者の方とか、あるいは障害をお持ちの方という人たちをしっかり支えていく将来ある子供たちを、もっと力を入れて支えていき、また教育していこうじゃないかというような思いを込めてうたっている政策であります。全体の市の予算で1,250億円ぐらいあるんですけれども、その内子供にかけているのが135億円ぐらい、高齢者の方にかけている予算としては300億円ぐらいだということをまず覚えていただければなというふうに思っております。

次、お願いします。

やはり高齢者の方に元気で生き生きと、生活をしていただきたいということで、岩倉前市長のときから、いろいろな高齢者福祉に関しては取組をしております。上から認知症カフェ、認知症の方の、あるいはその家族の支援、あるいは2番目になります、シルバーリハビリ体操、介護予防の取組でございます。そして予防接種もいろいろとやっておりますが、今年度から带状疱疹ワクチン、高齢者の方向けにこの助成制度も新たに創設をさせていただいております。

こういった形で、とにかく皆さんがより健康で生き生きと毎日を過ごせるように、

これからも取り組んでいきたいと思っております。

はい。次、お願いします。

支え合う子供と高齢者と書いておりましたが、こういった高齢者の皆さんも、子供たちが支え、あるいは子供たちを高齢者の皆さんで支えていただいているというようなことがこのまちでも展開しております。スライドの左上になりますけれども、高齢者の方が収穫した農作物を子供食堂にご提供いただいたり、あるいはスライドの右上になります、高齢者の方のボランティアによります子供の見守り、こういったことをしていただいたりもします。スライドの左下段になりますけれども、逆に高校生も、灯油配送ボランティアと書いてますが、高層階に住んでいらっしゃる高齢者の自宅に、灯油を届けるというのを市内の高校生あるいは大人がやったりしますが、子供たちもこのような形でやっていたり、あるいはスライドの右下になりますけれども、スマホ教室ですね。子供たちスマホを使うのが得意ですから、高齢者の方にどのように使ったらいいかを教えるようなこともやったり、お互いに支え合い、また影響を与え合っているということでございます。

次、お願いします。

こどもの声が聞こえるまちと書いておりましたが、いろいろと地域の声を聞く中で、例えば公園で遊んでる子供の声がうるさい、というような地域の方からの声を聞くことがあります。気持ちは非常にわかるんでございますが、我々も歩んできた道でありますから、そういったある程度のことは受け入れてあげる、許容する心を持っていただいて。ただ、夜に、うるさく遊んでるとか、夏でしたら、夜遅くに花火をして近所にうるさく迷惑かけてるといようなことがあれば、ぜひ皆さんからご指導いただいて、そういうことは駄目だよ、とぜひ諭してあげていただきたい。そういうことで、こどもの声が聞こえるまちが、子供たちが生き生きと生活できて、そういった子供たちを、我々大人がしっかり見守って指導していくということで、それこそがまさに未来あるまちに繋がっていくのではないのかと、こういう思いでこどもどまんか政策を進めておりますので、まずそのことを皆さんにご理解いただきたいと思ってお話をさせていただきました。

はい。次、お願いします。

2点目ですけれども、北海道日本ハムファイターズの2軍施設の誘致についてということでございます。この会場にきましたら先ほど署名の箱を抱えて市役所に届けていただくことをされてました。どうもありがとうございました。実は今日民報さんに書いておりましたが、1か月で1万5,000円筆集まったということで書いていて、次第に数も増えてきております。既に書いていただいた方もいらっしゃると思いますがありがとうございます。

この日本ファイターズ2軍施設の誘致は、私が市長に就任する前ぐらいから実はお話としてはありました。ただそれは報道ベースであったんですが、7月7日に球団

のほうで、正式に今の千葉にある鎌ヶ谷というところから北海道に移転をするということが発表されました。私もその間、市長就任後も特に市民の皆さんから、たくさんのファイターズの2軍施設誘致に取り組まないのかという声をいただいておりますので、7月の28日になりますが、定例記者会見でチャレンジをするということを発表させていただきました。

その後、白老町、それから鶴川町の町長さんや経済界の方々からも、ぜひ苦小牧市に誘致をしてほしいと応援するということをお願いをいただいて、9月の25日になりますけれども、東胆振の経済界の方を中心に、期成会が発足をいたしました。これがスライドの一番下になります。苦小牧商工会議所の方々を中心に、地域でお声がけをいただきまして、市役所に来ていただいて、ぜひ頑張ろうということでお声掛けをいただいております。私としても大変ありがたくて、その具体的な動きが署名運動なわけですが、申し訳ないことに皆さんにはどこに球場の誘致を考えてるかっていうところ、なかなかちょっと示せなくて、交渉の相手方があるものですから。ただ私も記者会見で何度かお話しておりますけれども、やはり選手、あるいはお客さんが行き来をしやすいところといいますと、やはり駅前であるとか、インターチェンジの付近とかそういったところが候補になろうかと思っておりますので、そういったところを中心に検討して、関係するところと協議をしているというところがございます。今恵庭ですとか江別とか結構、競合相手としては先に走ってる強力な自治体がいらっしゃいますけれども、私としては可能性がある限り、しっかりとチャレンジを続けて参りたいと思っておりますので引き続き皆様のご支援、応援のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

はい。次、お願いします。

プロスポーツ関連でいきますともう1つ話題がありまして、名古屋グランパス、Jリーグの名門チームでございますが、来年の8月に、苦小牧で合宿を行うことが決定をいたしました。これは非常に大きくて、サッカーそのものの魅力もあるんですが、やはりJリーグの1軍の人たちが来ますので、日本代表に選ばれているような選手がこの苦小牧に来て、サッカー場で練習をするということになります。聞いてますと練習の風景ですとか、あるいは他のクラブチームとの練習試合なんかもすることになってますので、そういったものも、一般市民の皆さんが見学できるということになっております。場合によりましては地域の子供たちへのサッカー教室なんかも開催されるということもやっただくと私も思っておりますので、まずはグラウンドの整備からいろいろと議会に対して提案をしておりますけれども、環境づくりをしっかりと行ってまいりたいと思っております。ちなみに来年度は、スポーツ都市宣言60周年の節目になりますのでそういったことから、このプロスポーツが苦小牧でまた新たな展開があるということをご期待いただきたいと思っております。

はい。お願いします。

ちょっと話が変わりまして津波警報と避難情報と避難エリアについてのお話でございます。7月の30日に津波警報が発出されたのを受けまして、市内で避難指示をさせていただきます。その際皆さんには大変なご迷惑ご苦勞おかけしたと、不便をおかけしたと思っておりますけれども、無事に津波も、最大で40cm50cmのものにとどまり、当時暑かったんですが、熱中症で何か大きな症状を出すこともなく、そういった方を出すこともなく済んだかなというふうには思っております。

ただ今回私があなたの街でミーティングで、津波の話をさせていただきたいというふうに思ったのは、今後に向けた避難のあり方として、より適切な避難をしていただければということで取り上げさせていただいております。今年暑い日が多かったですけれども、この日もやっぱり暑かったんです。避難をされた方々が避難所に行っても、例えばクーラーがなくて熱中症のリスクがある中で避難されていたと。特に高齢者の方においては、そういったところも散見されました。ですから例えば自分が今お住まいの場所が、地盤高がどれぐらいかということ、あるいはお勤めされてる方であれば、お仕事のされている場所はどれぐらいの地盤高なのかというのを日頃から、まずは把握をいただくというところからお願いをしております。そして、津波が発生するということが発出された時に、大体最大どれぐらいの波が来るかというのを把握していれば。避難するのも大事なことです。家に、例えばとどまるということも立派な避難だと思しますので、今後におきましてはそういったことをしていただくために、改めて皆さんのお近くの地盤高をご確認いただけたらと思ってお話をさせていただきます。

はい。次、お願いします。

それからヒグマ対策でございます。もう本当にヒグマについては全国でツキノワグマも含めて出没の情報が出ておりまして、苫小牧もクマが出たんじゃないかというような情報が多数寄せられておりまして、それが誤報の場合もあるんですけれども、非常に市民の皆さんもそういう意味では意識高くなって気をつけているような状況があらうかと思えます。

国のほうも、法律や制度を変えてきまして、9月の1日から、こういう市街地でも猟銃を撃てるように変えていただいております。ただ地域地域でそれぞれ事情もありますので、今は苫小牧市としては、スライドの上段の真ん中ぐらいに書いておりますけれども、ゾーニング計画というものを策定中でございまして、クマと我々が住む場所、活動する場所、できるだけゾーンとして分けて、皆さんがクマとあまり会わないようにするように、検討中でございます。作成中のマップとスライドの右上に書いておりますが、大体ピンクのところ、クマが出るようなところだと思っていただければいいのですが、大体我々が住む場所とかぶっておりますので、なかなかそこをゾーンとして分けるというのは難しさがあるわけでございますが、できるだけ会わないようなことを考えていきたいなと思っております。

我々ができることとしましては、例えばクマは、川に沿って移動するということを知っていますから、川の茂みをなくすようなことをしたり、あるいは市民の皆さんにさせていただけることとすれば、ゴミの不適切な排出ですね。ゴミをその辺に捨てることをやめていただく、あるいは夜にステーションにゴミを捨てるということも避けていただければ、クマがそういうものを食べたりってということもなくなりますので、それはお願いしたいなと思っております。

仮にクマが出たということであれば、市のほうでも担当のほうで調査をしたりパトロールをしたり、あるいは学校に対して、登校を控えていただくようなことも検討してほしいというようなことを挙げたりしますので、その辺の対応を、できる限りさせていただきたいというふうに思っておりますが、皆さんができるだけクマと会わないということ気をつけてもらいたいと思いますので、こういう夜にはお1人で歩かないようにするとか、川の付近は歩かないようにするとか、あるいは早朝のウォーキングも、暗い間はなるべく1人でしないようにするとか、その辺りはぜひお考えいただけたらなというふうに思っております。

はい。次、お願いします。

これ6点目、最後になりますが苦小牧駅前再整備でございます。この駅前にはエガオが閉鎖しましてからはや10年になります。あのような状態になって長いものですから、岩倉前市長が地権者の方々とお話し合いをある程度つけて、その再開発の方向性をつけていただきましたので、私も市長として就任しましてから、この駅前再開発は本当にすぐに着手していきたいと思っておりました。3日前になりますけれども、苦小牧市と、再開発を行う計画を作る事業者さんと協定を締結いたしまして、これから1年ぐらいかけて、駅前の再開発の具体的な中身について検討していくことになっております。ただ、エガオのビルがあのような形になっておりますので、あれだけできるだけ早く解体をしたいというふうには思っております。ただ多額の費用がかかります。公共的な投資が必要になってまいりますので、市の財政と見合わせながら、どういったスケジュールで具体的に進めていくかというのはこれからになります。皆さんにお示ししているこのスケジュール感でできるだけ進めたいなとこのように思っているところでございます。

私からは以上になりますけれども、ぜひ皆さんから、ご意見ご要望、忌憚のないご意見いただけたらと思っております。どうぞよろしく申し上げます。ちなみに、今日はいわゆる災害と、それからクマさんのプロの担当が来ますので、何かありましたら、きっちり答えていただきたいと思いますから、よろしくお願ひしたいと思っております。

<市長プレゼンに関する意見交換>

○司会 はい。それではだいま市長からプレゼンをいただきましたが、まずはこの6つのテーマについて、皆さんのほうからご質問ですとかご意見またご感想のようなものが

あれば、ぜひいただきたいと思います。発言される際にはマイクをお持ちしますので、挙手をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

◆市民 光洋町町内会の・・・でございます。最初の質問は町内会地域じゃなくてですね、この一番最初の高齢者福祉、この部分ですね、苫小牧市がここにできる生涯雇用、これは長生大学っていう制度がありましてですね、苫小牧市内に約260人、アイビープラザ、各コミュニティセンターを中心にして60歳以上の最高齢の人は94歳かな。

大学って言うとな、みんな難しいこと勉強するでしょって聞かれるんですけど、決して難しいことを勉強するんじゃないくて、高齢者として身につけておかなきゃならない健康、それから保険だとか、体力とかね、そういう高齢者に必要なことを学んでいく場所です。しかもですね、学費が無料っていうのは、全道でもですね、珍しく苫小牧市だけが無料なんです。これは苫小牧市として誇れることですので、もっともっと長生大学のこと知っていただいて、いろいろ、先日も長生大学の大学生（オープンキャンパス）が終わったばかりでございます。大学生の他にも市民の方にいっぱい来ていただいていたました。もっともっと機会を見ながらですね、これをちょっと紹介していただきたいと、そんな思いをしてます。市の広報にも出てますけどね、ほんのちょこっとね、こんなのがありますと出るだけでね、どんと出ないんですよ。ちょっとこの辺もまた、検討をお願いしたいと思います。1点です。

◎市長 ・・・さんありがとうございます。リスキングとかって最近では言うんですけども、本当に学び直してっていうのがすごく大事なことで、私も学生時代、なんで勉強しなかったんだっていつも今も思ってますけども、本当に年齢に関わらず、そういう機会を大事にしていきたいと私も思ってますし、そういう機会を市としても作っていくことが、市民の皆さんが生き生きと毎日を過ごせるような機会になりますので、これは非常にいいことだと思っております。

学費無料が他市に誇れることっていうのを言っていただけて本当にありがとうございます。何かのときにちゃんとPRしていきたいと思っておりますので、ありがとうございました。

◆市民 私今5大学の学生の代表をしてるんです。

◎市長 そうですか。ありがとうございます。

○司会 それでは他に。今マイクお持ちします。

◆市民 日吉町町内会の・・・でございます。座ったまま質疑をさせていただきます。津波警報における避難の考え方だったんですけども、7月の避難の経過ですね、いろいろな筋から報告受けておりますと、日吉町につきましては糸井小学校がメインの避難になっております。しかしながら、学校でございますから、エレベーターがございません。それからエスカレーター等ありません。それから会館のようなスロープもあるわけではございません。そこで何が起きたかと言いますと、高齢者がですね、あるいは障害者の方が3階まで避難できないっていう現状に遭遇しております、若い方々が

いらっしやったのでその方々の援助をいただきながらですね、作業に繋がったという結果になっております。

私個人といたしましては、住民の総意といたしましてはですね、やっぱり津波の直撃を回避するためにはですね、防潮堤を作ることが最善の避難対策じゃないかっていうのが1つ、あわせて市長さんのご意見を賜れば幸いですので、よろしくお願いいいたします。以上になります。

◎市長 …さんありがとうございました。高齢者の方の避難というのは、特に津波でいきますと、垂直避難といいまして、高いところに逃げるということを推奨しても確かに言われる通り、大変なところがあるかと思えます。そういったときにはやっぱり水平避難でありながら、高いところに逃げていくということが大事なのかと思えます。この地域でそれはどこなのかということが、日頃から皆さんと協議をして共有しておかなきゃいけないということだというふうに思っております。

防潮堤のご提案もあったんですが、これ苦小牧市単独ではなかなか、いわゆるインフラ整備が、多額の費用もかかるということがあったりしますので、その辺りを国なんかと協議しながら進めていくことになろうかと思えますが、今すぐそのことについてやるということは、申し訳ないんですけどもすぐ明言はできないというふうには思っておりますが、ちょっと関係するところ、そういったところの高齢者の方の避難ということで、改めて、いろいろ検討していきたいと思っております。

◆市民 ありがとうございます。よろしくお願いいいたします。

○司会 はい。それでは他にどなたかいらっしやいますか。はい、隣の方お願いします。

◆市民 日吉町内会の…です。このテーマの番号1番目の高齢者福祉の項目とそれから、今、…がちょっとお話ししましたが、避難所の希望ですから4番目の項目にまたがることだと思うんですけども、JRの線路の際にですね、光洋町と日吉町にまたがって市営住宅があつて、通称的に言いますと光洋日吉団地っていうふうに言われておりますが、もう年数が相当経ってますね。回答書もいただいているんですけども、この回答は回答でわかるんですけども、もうちょっと具体的にですね、確認しておきたいと思うんですが、日吉町に限って言いますと、入居率が50%ぐらいしかないんですよ。もう相当古いもんですから。ほとんど入居されてる人が高齢者、その高齢者の中で半分以上がいわゆる独居の状態なんです。それで、やっとな年から光洋町のほうスタートしまして、建て替えの動きが出てきてるんですけどね。計画では13年かかって、日吉町と光洋町のほうの今現在の市営住宅を解体して建て替えということになってるんですけども、建て替えする建物がですね、全部光洋町なんです。5棟建てるという計画ですけど、5棟とも光洋町なんです。それで避難のことからいくと、ぜひその日吉町のほうの解体した場所にもですね、1棟でも2棟でも建てていただければ、避難する場合に、つかの間の避難場所ということで利用できるんじゃないかと。

ちょっと話それますけども、糸井小学校が今、日吉町地区の避難場所になってるんですけども、ご存知のように、今年の1年生が20名ちょっとぐらいの数しかいないんですよ。1学年1クラスぐらいずつですから、6年すると、もう本当にもうどっかの小学校と合併しなきゃならんというような、そうなると避難場所に指定されてます学校でさえ、避難場所がなくなるようなね、懸念をしているわけです。そんなことなもんですから、ぜひ1つ、建て替えの新しく建つ部分をですね、5棟のうち1棟でも2棟でも、日吉町の壊した後に建ててほしいなというふうに思います。

それともう1つは、最終的に新しく建ったところに再度入居することになると思うんですが、13年後なんですよ。もっと早くできないのかということをお願いしたいと思います。担当部署のほうに聞きますとね、今はもう今年度から解体工事かかったけれども、最終的なまだ決定ではありませんのでというような言葉を聞いておるもんですからね。ですから、まだ先がありますので、途中で計画を変更するのも可能なのかなというふうに考えるものですから、できたら今話したようなことで、きちんとお願いしたいなというふうに考えております。よろしくをお願いします。

それともう1つ、6番目の駅前の開発ですけども、新聞報道見ますとね、今現在どういうふうの開発していくかっていう計画する業者が、清水建設を中心したJVが何か決まったというふうに承知してるんですけど、あれはあのまま工事がかかるような形になれば、今組まれているJVの清水建設を中心にしたJV再開発の事業をそのままやってもらうということになるんですか。その辺が新聞の記事だけでははっきりわからないもんですからね。あれはあくまでも計画の段階の提案であって、それが煮詰まってきて実際かかる状態になったときには、また新たにその施工する業者を入札でしようけれども、募集するのとか、その辺をちょっとお聞きしたいなと思います。よろしくをお願いします。

◎市長 ありがとうございます。私から今の最後の駅前の話だけまず答えさせていただきます。今言われました通り、先ほど私が申し上げた通り、今協定を締結しました事業者さんとは、まずは計画を策定するというような内容での締結になります。実際に工事にかかる事業者がどこかというのはそのとき、またこの先、まだ未定です。これから、今締結した事業者がそのままやるというのもあろうかと思えますし、別の事業者がやるということもあろうかと思えます。その辺は内容と、事業規模ですとかどこまで公費で負担するのとか、具体的な中身が決まってきて、最終的にいわゆるその事業、例えば建物を建てたり開発をする事業者が決まるんです、ということになるかと思えます。

それ以外の日吉団地等々については、副市長からお願いします。

◎副市長 副市長の木村でございます。日吉町の市営住宅の関係ですけども、今の市営住宅整備計画におきましては、今年度から光洋町側の市営住宅を一部壊し、それで最終的に日吉の解体もあるということになると、先ほど・・・さんが言っていましたように、令

和20年完了を目指しております。ですから、壊して建てて、壊して建ててというところを令和20年度まで進めていくわけですが、どうしても予算の関係でいっぺんにはできない状況の中で、今の計画としては令和20年度までということになってます。ただ、これも情勢の変化ですとかいろいろ加味しながら、途中の段階で早めることができるのか、あるいはもっと財源の問題で遅くなるかもしれないというところがありますけれども、今の整備計画としてはこのような形で今年度から進めているということでありますので、これからまた更に精査しながら、この計画というのは進めていきたいというふうに思っております。

それと日吉町のほうが全部壊して全部光洋町のほうに市営住宅が移ってしまうというところで、これまた今の段階では、そのような計画で進んでいるということですが、日吉町の市営住宅の跡地の活用というのはこれから、例えば町内会さんからは、宅地にして人口増やしてほしいという要望もございますので、そういった町内会さんのご意向、ご意見も踏まえながら、これから鋭意検討してまいりたいというふうに思っています。あとは、そんな感じでしたか。・・・さん。よろしいですか。また何か違ってたら言ってください。

○司会 はい。それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 光洋町内会・・・でございます。今の公営住宅の光洋日吉の続きの話なんですけども、この間7月の末の避難の際ですね、陸橋にですね、たくさんの方が集まるんです。光洋町、日吉町、桜木町。車は利用ができない。そんな状況になりました。

将来的なことですけど、今さっき日吉町側について話がありましたけども、さっきの話ですけども、日吉町側の陸橋と並行して、防災ビル、1階は商業施設、生活に必要な日常生活の買い物するのに非常に遠いですよね。この公営住宅とかね。1階は商業施設、2階3階辺りは防災備品庫、今は明野のほうに防災、消防署が管理してるんですけども、やっぱりこの場所っていうのは、苫小牧市の中心部なんですよね。中心部に、いざと言ったときの倉庫、防災備品のね、倉庫を兼ねたものを考えたい。4階に避難所あるいは銀行とかね、そういったビルとして、また陸橋からでも入れる。それから桜木町側からでも入ってこれるとね、線路をまたいで。建てる場所は日吉町の一番国道陸橋側で、そうすると今日の日吉町の方にもですね、恩恵が被れるような、だいたい先の話ですけども、そういった構想もね、将来の構想の中に入れていただければ、防災ビルとしてもね、機能だとか、そういった市の防災機能を備えて、しかも地域の方の避難所になると、こんなことをね、考えていただければ、何か参考になればと思っております。以上です。

◎市長 ……さんありがとうございました。今ご提案も、非常にいいアイデアだなと思うんですけども、避難タワーを作るのも多額の費用がかかるのがありまして、特に本州と違うのは、本州の四国なんかは結構たくさん作ってるんです。ただあそこは暖かい地域ですので、吹きさらしでも大丈夫な、スカスカの風通しの良い形でもいいんで

すが、我々冬の場合を想定しますので今言われたように、寒さもしのげる、あるいはいろんなものも備蓄させてというふうになりますと、非常に投資額が高くなってまいります。ですから、民間の今ある施設なんかも利用させていただきながら、一時的な避難ができる場所をまずは確保できないかというのは、公共的な施設だけではなくて、いろんな部分を活用させてもらいながらと思っています。

やはり今回でいきますと津波が最大で3mという予想でした。ですから避難指示も36号線から南側というふうに言わせていただいたんですけども、例えば光洋町の36号線から北側っていうところで行きますと、さっきの地図ありますか。ハザードマップ。ちょっと見づらいんですが、今回でいきますとピンク色のエリアが浸水のおそれがある、津波が来る恐れがあるということで指示を出させていただきましたが、おそらく光洋町の皆さんは黄色のところにはいたのではないかなと思います。そうすると黄色のところというのは3m以上の地盤高があるところですので、ここにいるだけでまずはそんな津波が来る心配はなかったというところで、先ほど私が申し上げましたけれども、過剰な避難をしなくてもいい、いいときはそれで済むように、今後考えていただきたいというような投げかけをさせていただきます。

ただ、あのときどれだけの津波が来るか本当に来てみないとわからないところがありますから、とにかく避難をした、高いところに動いたというのは間違いではないんです。ですからその辺りを、うまく皆さんと情報共有しながら、適切な今あるインフラの中でできる避難をしていただきたいというのが、私どものほうで、お金がたくさんあればどんどんタワーを作りたいんですけども、そういう状況でもないものですから、そのあたりは、今いただいたお声も踏まえながら、今後に向けて皆さんと考えていきたいと思っています。

◆市民 タワーというよりも、普段から使える施設、商業施設とか住宅とか何とか、そして上のほうにそういった施設っていう、あまりビルっていうようなものよりも、普段使ってて何かのときにも使える、そういうようなことを兼ね備えた、先の話ですけど、参考になれば。

◎市長 ありがとうございます。

<意見交換>

○司会 それでは市長プレゼンについての意見交換は終了させていただきます。ここからは、特にテーマを決めずに市のまちづくりについて、市長との意見交換の時間となります。

昨年度までいただいたご質問に回答するのは、各課の担当職員がお答えさせていただいてたんですけども、今年度から、できる限り市長と皆様との対話をする機会を充実させたいとのことから、各課の担当者はほとんど出席しておりません。市長、副市長、そしてこちらに並んでいる職員だけで参加させていただいております。その

ため実務的なご質問については、ミーティング終了後に事務局で内容やご連絡先をお伺いして、後日各担当からご回答させていただきたいと思いますので、ご了承ください。なお、発言する際には、最初にお住まいの町名とお名前を述べてから、お1人1件ずつ、簡潔なご発言をお願いいたします。

それでは、ご意見などがございましたら、マイクをお持ちしますので、挙手をお願いいたします。

- ◆**市民** 日吉町の・・・と申します。よろしく申し上げます。今、日吉町の4丁目、市営住宅のほう担当してるんですけども、あそこにお風呂があるんですよ。それで、市営住宅の人しか入れないということで、苦情が私のところに3、4件来てるんですよ。っていうのは、今人数減ってますよね、市営住宅も。それで、向かい側っていうか近くの一軒家のおばあちゃんたちも入りたいっていうこと。そしたら少しでも入れば市の収入になるかと思うんですけど、その辺は公住の人ではなければ駄目だっていうのは、そういう決まりなんですか。

- ◎**副市長** ちょっとその辺の規則的な部分、お風呂に対してどうなってるのか、ちょっと申し訳ございませんが私のほうも把握してない部分ですので、その辺担当のほうに、お話を聞いた上でご返答をさせていただきたいと思いますがよろしいですか。

- ◆**市民** はい。

- 司会** それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。

- ◆**市民** 日吉町の・・・です。先ほど子供の予算と、それから福祉の予算でてましたよね。子供は11%ですよ。高齢者が24%ですよ。それでね、苫小牧、港のほうに小さい公園がたくさんあって、それでもこうやって恵まれてるんですけども、苫小牧の人口が減ってるっていうのは、不思議だなと思っています。これ子供にね、もう少しお金かけたらどうですか。福祉より。僕はそう思います。これから未来の子供たちにね、うんとお金かけて1人と言わず3人産んでもらうとか。そういうことにお金使ったらどうだろうということ。お願いします。

- ◎**市長** ……さんありがとうございます。大変ありがたい応援の言葉をいただきまして、子供たちにも、もっとお金をかけたらどうかということで、今後考えていきたいと思っております。

ただやっぱり子供ど真ん中って私も言ってるんですけど、高齢者もど真ん中ですし、みんなど真ん中なんですよ。その辺のバランスは考えながらやっていきたいと思っておりますが、私も市長就任してから、小学校に上がるときに、一時給付金を出させていただくようになっておりますし、子育てに関わる様々な経費がやっぱりありますから、国のほうも高校の無償化ですとかそっちに向かっていますので、国や北海道が取り組まない、そういった子育て支援、あるいは子供のことに関わること、それを市のほうで拾っていったらなというふうに思っていますので、例えば学校給食の無償化なんかも、今あまり議論が具体的になっていないんですが、一時は、今、外

務大臣だった茂木さんが自民党の幹事長のときにはやると言っていたんですね。ですから高市新政権の中での積極財政っていう言葉が、そういういろんなところに表れてくるんじゃないかというふうに期待しておりますけれども、そういったことも、子供に関わることについては、国、道と連携しながら、苫小牧市でできるところをしっかりとしていきたいなと思っております。本当にありがとうございます。

○司会 よろしいですか。それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 大成町の・・・と申します。今の人口問題なんですけど、今、子供さんがいて高校生までは苫小牧にいるんだけど、大学でどっか行っちゃう。大学でどっか行っちゃった後で戻ってこないという話が、やっぱり将来的なそこで戻ってくる人がいれば、こういう人口も増えるし、そもそもその人たちがお子さん、家族を持っていくという形になってくると思うんですけど、今、大学卒の人を受け入れる事業者があまりないっていう。そこに対して補助するとか、そういう方向性っていうのは何かあるのかなと。いわゆる地元苫小牧の人が出て行って、大学卒業した苫小牧の人たちが帰ってきたら、ちょっと補助すると、そういうことでも結構いいんじゃないかなと思ったんですけど、僕が言うとなんなんですけど、ちょっとそういうふうに思ったりもします。別にこれはそう思ってるだけです。

◎市長 ありがとうございます。やっぱり、受け皿が多っていうことがまず大事なことだと思いますので、やっぱりそういう企業さんをしっかりと行政としても支えていたり、あるいは企業誘致をして、もっともっと雇用できる受け皿を作るのが1つだというのと、今ご提案にあったように、市として今やってるものとしては、奨学金を受けた学生さんに、苫小牧に就職されたら、企業さんと負担を折半しながら、市がお金を入れて、その奨学金のお支払いを助けてあげるということはやっております。ですからもっともっといろんなそういった、いわゆるUIターンとかって言いますが、出ていった方々がこちらに戻ってくるのを促してしていけるように、いろんな企業さんの声も聞きながら、検討していきたいと思っております。大変良い意見ありがとうございました。

○司会 それでは、他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 日吉町の・・・と申します。お世話になっております。ちょっとここ遅刻してきたので、前段でお話されたかわからないんですけども、この前の津波のとき、ああいう避難指示があっても、来ないだろうと思ってちょっと冷やかして子供と行こうぜって言って糸井小学校に来たんですね。そしたらやっぱり皆さん避難をしてこられて、車椅子の方が結構いらっしゃったんですよ。そのときに糸井小学校は3階まで上げる術がないので、大人の人たちで上げたんですね。それはいいんですけども、校内での避難経路がしっかり設定されてなかったんです。車いすを上下すると1個階段が潰れちゃうんですね。他の方はどっから上がればいいのかとか、車いすを見ながら上がったりとかして、車いすどこの階段から上がるのか、一番広いところは

どうなのかもわからないので一番近いところにしたんですけど、近いところで車椅子が並ぶと、今度来た人はちょっと邪魔くさいって言ったらあれですけども、なので学校までの経路はしっかり設定されてるんですけど、学校の中の経路が設定されてないだろうなと思ったんですよね。そこでいろいろあっち行けこっち行けとか向こうの階段使えるようになることもあったので、やっぱその学校内の経路もしっかりと多分設定されたほうが速やかに、皆さんが避難できるんじゃないかなと思いますので、ぜひそこはしていただきたいなというふうに思います。

◎市長 はい。・・さんありがとうございます。ここは防災のプロが来ていますので、私も話したいんですが、前田のほうから説明させていただきます。

◎危機管理室長 はい、ご質問ありがとうございます。防災を担当しております、危機管理室の前田と申します。カムチャツカですね、1万人ほどの方が今回避難行動をとっていただきました。様々な課題出てきております。今言っていたこともやはり1つの課題だというふうに思っております、今回の避難の中で顕著だったのは、日頃から、例えば学校と町内会さんで連携して訓練やるところってすごくスムーズに対応できました。一方ではそういう連携型の訓練ができていないところは、避難した方がお客さんになっちゃったっていうケースが結構あったんですね。そういった意味ではやはりこういう学校と地域、我々職員が連携した訓練をすることによって、今ご指摘があった中の経路をどうするか、役割分担をどうするかということについても改善できるのではないかなというふうに思っておりますので、これはまた逆に地域の皆様方にも、ご協力をお願いすることになりますけども、そういった訓練なりをしていって、万が一のときのための体制づくりをしていきたいというふうに思っております。ありがとうございます。

○司会 それでは他にどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 光洋町内会の・・です。今の質問に関連しまして、7月の30日水曜日の日なんですけれども、私たちのところも光洋中学校と、それから中央高校に避難される。私もちょうど午前中はいたもんですから避難しますけれども、やっぱり避難してどこにどう行くのかという、その案内がはっきりしてないっていうのは確かにありました。私も町内会の役員をやっております。ですから、市役所から誰が派遣されてきているのかということの確認と、それから市役所の方が何をやってるのかということを確認しまして、避難者の名簿作成、それを役所の方はやっておりました。

あともう1つは、教室に避難されておりました。教室も光洋中学校で約200名、それから中央高校には150名ぐらいの避難者がいましたので、そういった形の中で交通整理をしなきゃいけないと。一生懸命やってくれたのが、ちょうど夏休みでしたので、部活に来ていた関係の生徒と教職員の方がいろいろと案内役をやってくれた。私が行ったときは、教室に避難するということになっていましたので、誰がどこに入るかというところまでは指示はされていません。来た順番から入ってもらって、座っても

らって次から次へ6教室ほど使わせてもらったんですけども、もう1つはそういった形で役所の方がもう少しはっきりした行動を取っていただければ、もっとスムーズにいったのかなということ。

それからもう1つですね、暑くて、教室の中は30度以上あったと思います。窓をみんな開放しまして、風通しを良くして、それともう1つはやっぱり皆さん汗かいております。飲み物、食べ物、そういったものを倉庫のほうに何があるか先生と確認に行きまして、それで飲料水とビスケット、口に入れるものはその2つがありましたので、それを11時半、昼ちょっと前でしたので水をまず先に皆さんに渡しました。それも誰の指示でもなくて、もう先生方と出そうや、というような流れの中で出しております。その後、口に入れるもの何かないかと思って、昼時でしたので、ビスケットがありましたので、それも全部出して、そのときにちょっと個数が5、60個足りなくて、それで中央高校のほうへ行って、それで余っているかどうか確認、それでまたその中で配分したというような形で、そうやって12時過ぎ、遅い人で14時ぐらいまで待機したんですけども。あとやっぱり誰がどうするっていう、いつまでここにいるのかっていう、そういった避難者への指示連絡というものがいまいち、ちょっと不透明だったなっていう、そういう感じを受けましたものですから、役所から来ましたアンケートにもいろいろ書いては出しましたけれども、そういった形の中で私もいい勉強になったなというふうに感じておりますので、また今後、こういったことが2度となければいいんですけどもいつ何があるかわからない。

もう1つは先ほどから車いすの話が出ておりますけども、やっぱり光洋中学校それから中央高校エレベーターはあります。けども、そういう災害があったときに、本当に停電になったら使えなくなったときにどうするんだろうかという、そういったことを今考えなきゃいけないのかなというふうに思っております。以上です。

- ◆市民 今の関連してることなんですけども、光洋町町内会では、毎年光洋中学校と中央高校で交互に避難訓練をしております。この毎月あった避難訓練が今回非常に活きました。っていうのは、まずは非常食が光洋中学校も中央高校も、どこの部屋にどんなものがあるか確認してありましたので。だから今回その部屋を開いて水だとかビスケットとかね、そういうものをすぐ出して配ることができました。

また市役所から来た方に聞くと、ほとんど各分野から結構派遣されてきた方ばかりですね。防災の意識、そういったことがわかってない。ただ、来た人の名簿を作るぐらいでね、もっともっと市の職員はいざというときにも対応できるようなね、こういう普段から各避難所に派遣したときの対応マニュアル、こういったことが、市の職員みんなが共有しながら各避難所に派遣されたときに対応できるね、そういったのを普段から教育していただければ助かるなと思っております。

それからもう1点は、各町内会では防災組織を作ってるんですけども、この防災組織と市の危機管理室の連携が全く今回なかったってことですね。組織をせつかく作

ってあるんですけども、予定ではですね、何かあったら市の危機管理室から、町内会の防災組織に連絡が来るっていうことになってるんですけども、建前はですね。ところが今回はそれがなかったですね。これも今後ちょっと検討していただきたいと思います。以上です。

◎市長 はい。ありがとうございます。今お2人様からのお話でしたけれども、私はその中で・・・さんのほうから生徒、教職員が案内をしてくれたということと、今・・・さんのほうから、普段から交互にやってるので、どこに何があるかわかってらっしゃったということなので、これ非常に大事なことだと思っております。

2、3年前に明倫中学校で防災訓練やったときに、明倫中学校の生徒さんたちが、ボランティア部中心でしたけれども、お手伝いをして学校の中のマネジメントですね。非常にやっぱり普段から学校使ってる子たちなので、町内会とか地域から来る方々に対しても、いろんな対応が非常にスムーズだったっていうことを、校長先生から聞いてます。私も子供が明倫中行ってるので、実際避難訓練やったんですがそれは本当に見て取れました。ですから今後はやっぱり市の職員が、今回の場合には避難所に担当が行くことになってますけども、その間の繋ぎみたいなものは今回夏休みでしたけれども、教員の方とか、あるいは生徒さんがいる場合はそこ連携して、できるだけスムーズな避難所づくりみたいなものは今後は考えてもいいんだと思います。ただそこは学校は、その避難所に関してはタッチしないとかっていうことではなくて、それがやっぱり避難される方に対してのできるだけ早い対応にも繋がっていくと思いますので、今非常に良いお話いただいたなと思っております。残りの部分についてはせっかく前田が11年間、災害もそうでしょうし。前田のほうからお答えさせていただきますと思います。

◎危機管理室長 はい。改めましてちょっと前田のほうからお答えをさせていただきますけれども、まずは様々今回先ほども申し上げました通り、課題があったというふうに私どもも認識しております。アンケートもいただいて今検証作業をしておりますので、まずはそこをしっかりと分析をして、次ないことを祈りますけども、そのときにはさらにいい対応ができるようにしていきたいというふうに思っております。

その上で今回は私ども一番大変だったのは、津波警報となりますと全部の避難所を開けます。48か所あります。そこに今回は津波警報ということでしたので職員を派遣したんですが、大津波だったら職員派遣できません。そうするとその場にいる、もし先生方がいらっしゃれば先生、あるいはそこに避難した方の中での対応というものも出てくる可能性もありますので、そういったことも含めてまた訓練を積み重ねていきたいというふうに思っておりますし、できましたら避難してくる際に食品を持ってきていただくですとか、なかなかこれも時間がない中ではありますけども、ご自身でできることについてもやっていただければというふうに思いますし、併せて職員についても毎年人事異動があるものですから、担当も変わる部分があり

ますが、その職員の訓練も毎年やっておりますので、その精度も上げていながら、皆様の行動、また我々の行動それぞれを底上げすることで、この津波という問題についてもしっかりと対応していきたいというふうに思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○司会 それではお時間となりましたので、意見交換については終了させていただきます。この後ミーティングは閉会となりますが、日本ハムファイターズの2軍施設の誘致について、ご賛同いただける方おりましたら、ぜひ署名のご協力をお願いしたいと思います。本日会場の後ろのほうに署名用紙を持っておりますので、お帰りの前に署名いただけたらと思っております。またその他担当者のほうに確認したいこと、ご意見ご質問ありましたら、お帰りの前にこちらの事務局のほうにお立ち寄りください。内容と連絡先をお伺いしまして、後日担当から連絡させていただきたいと思しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、あなたの街でミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。